

2026シラバス一覧（看護学科専門教育科目）

看護学科 専門教育科目			
シラバスNo.	科目名	シラバスNo.	科目名
260020010	人体形態学	260020540	母性看護学概論
260020020	人体機能学	260020550	母性看護活動論Ⅰ
260020030	生化学	260020560	母性看護活動論Ⅱ
260020040	栄養学	260020570	精神看護学概論
260020050	病理学	260020580	精神看護活動論Ⅰ
260020060	臨床治療学Ⅰ	260020590	精神看護活動論Ⅱ
260020070	臨床治療学Ⅱ	260020600	基礎看護学実習Ⅰ
260020080	臨床治療学Ⅲ	260020610	基礎看護学実習Ⅱ
260020090	感染微生物学	260020620	地域看護学実習
260020100	薬理学	260020630	成人看護学実習Ⅰ
260020110	臨床薬理学	260020640	成人看護学実習Ⅱ
260020120	生涯発達論	260020650	老年看護学実習
260020130	家族社会学	260020660	小児看護学実習
260020140	人間工学	260020670	母性看護学実習
260020150	カウンセリング・コミュニケーション論	260020680	精神看護学実習
260020160	保健医療福祉連携論	260020690	統合実習
260020170	社会福祉概論	260020700	看護倫理
260020180	連携協働の基礎	260020710	看護マネジメント論
260020190	連携協働演習Ⅰ	260020720	看護教育学
260020200	連携協働演習Ⅱ	260020730	災害看護学・国際看護学
260020210	公衆衛生学	260020740	看護情報学
260020220	人間関係論	260020750	看護統合演習
260020230	疫学	260020760	看護研究の基礎
260020240	保健医療福祉行政論Ⅰ	260020770	卒業研究
260020250	保健医療福祉行政論Ⅱ	260020780	公衆衛生看護学概論
260020260	福祉環境論	260020790	創成看護学活動論Ⅰ
260020270	人権と法	260020800	創成看護学活動論Ⅱ
260020280	ソーシャルインクルージョン論	260020810	公衆衛生看護技術論
260020290	医療福祉論	260020820	公衆衛生看護技術論演習
260020300	看護学概論	260020830	公衆衛生看護活動論Ⅰ
260020310	看護技術論	260020840	公衆衛生看護活動論Ⅱ
260020320	看護共通技術Ⅰ	260020850	公衆衛生看護活動論Ⅲ
260020330	看護共通技術Ⅱ	260020860	公衆衛生看護活動論Ⅳ
260020340	基礎看護技術Ⅰ	260020870	公衆衛生看護管理論
260020350	基礎看護技術Ⅱ	260020880	公衆衛生看護学実習Ⅰ
260020360	基礎看護技術Ⅲ	260020890	公衆衛生看護学実習Ⅱ
260020370	基礎看護技術Ⅳ	260020900	助産学概論
260020380	ヘルスアセスメント	260020910	リプロダクティブヘルス
260020390	看護過程演習	260020920	妊娠期・分娩期の診断とケア
260020400	地域看護学概論	260020930	産褥期・新生児期の診断とケア
260020410	地域看護活動論Ⅰ	260020940	助産診断・技術学演習Ⅰ（妊娠期）
260020420	地域看護活動論Ⅱ	260020950	助産診断・技術学演習Ⅱ（分娩期）
260020430	在宅看護活動論Ⅰ	260020960	助産診断・技術学演習Ⅲ（産褥期・新生児期）
260020440	在宅看護活動論Ⅱ	260020970	助産過程演習
260020450	成人看護学概論	260020980	地域・国際母子保健学
260020460	成人看護活動論Ⅰ	260020990	地域母子保健演習
260020470	成人看護活動論Ⅱ	260021000	助産管理学
260020480	老年看護学概論	260021010	助産学実習Ⅰ（妊娠）
260020490	老年看護活動論Ⅰ	260021020	助産学実習Ⅱ（分娩・産褥・新生児期）
260020500	老年看護活動論Ⅱ	260021030	助産学実習Ⅲ（継続事例）
260020510	小児看護学概論	260021040	助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア）
260020520	小児看護活動論Ⅰ	260021050	助産学実習Ⅴ（地域母子保健）
260020530	小児看護活動論Ⅱ		

科 目 名	人体形態学			
科 目 名 (英 語)	Anatomy	シラバスNo.	260020010	
担 当 教 員 名	山本 達朗			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講 義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ◎ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ○ DP6 : ___			
学 修 到 達 目 標	<p>学生は、人体形態学において人体の肉眼解剖レベル（マクロレベル）の基本的構造を学習し、医学的知識を習得する上での基礎を身につけることができる。学生は人体形態学において、人体を構成する各パーツの構造や位置を理解するだけでなく、各パーツの発生（人体の発生）や、それらを有機的に統合する神経系（特に中枢神経系）についても理解を深め、人体に関する形態学的基礎を臨床領域に活かすことができる。</p>			
受 講 の 留 意 点	<p>人体形態学においては、各論的内容に関して詳細に講義するだけの時間がないため、主に総論的な内容に絞って講義を展開する。教科書や講義プリントなどを参考にして、各論的内容を含めた知識の習得に努力していただきたい。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>学生は、人体形態学を人体の構造の理解を目的として系統解剖学的に学び、各構造の複雑さ、それらの連携について学ぶ。学生は、本科目について、講義だけではなく、模型の観察や標本観察などを通じて能動的に学ぶ。また学生は、これらの内容が人体機能学と密接に関係していることを意識しながら学ぶ。</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 振り返り・個別の質疑応答</p>			
授 業 の 計 画	1 人体形態学総論（解剖学総論）	16	泌尿器系について（尿路の構造）	
	2 人体形態学総論（位置と方向を示す用語）	17	自律神経系について	
	3 人体の構成について（細胞の構造）	18	内分泌系について	
	4 人体の構成について（細胞小器官）	19	運動器系について（骨格、骨の連結、骨格筋）	
	5 人体の構成について（組織の構造）	20	運動器系について（体幹の骨格と筋、上肢・下肢の骨格と筋）	
	6 人体の器官系について	21	運動器系について（頭頸部の骨格と筋）	
	7 消化器系について（口・咽頭・食道の構造）	22	神経系について（神経系の構造と機能）	
	8 消化器系について（腹部消化管の構造）	23	神経系について（脊髄と脳）	
	9 消化器系について（肝臓、膵臓、胆嚢、腹膜）	24	神経系について（運動機能と下行伝導路、上行伝導路）	
	10 呼吸器系について（呼吸器の構成と上気道）	25	感覚器系について（視覚の構造、聴覚の構造）	
	11 呼吸器系について（下気道、肺、胸膜、縦郭）	26	感覚器系について（皮膚の構造と感覚）	
	12 循環器系について（血液組織構成）	27	生体防御について（生体防御系総論）	
	13 循環器系について（循環器系の構成）	28	生体防御について（獲得免疫について）	
	14 循環器系について（末梢血管系の構成、心臓、リンパ）	29	生殖器系について（男性生殖器）	
	15 泌尿器系について（腎臓の構造）	30	生殖器系について（女性生殖器）	

<p>授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：教科書の関係する章について読み込む。 復習：講義ノートに書き込んだ内容について、教科書と照らし合わせながら読み返す。</p>
<p>成 績 評 価 方 法</p>	<p>定期試験 (100 点) で評価する。</p>
<p>教 科 書 (購 入 必 須)</p>	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (坂井建雄、岡田隆夫著 : 医学書院)</p>
<p>参 考 書 (購 入 任 意)</p>	

科 目 名	人体機能学		
科 目 名 (英 語)	Physiology	シラバスNo.	260020020
担 当 教 員 名	山本 達朗		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修
開 講 形 態	講義		
資 格 要 件			
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ◎ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ○ DP6 : ___		
学 修 到 達 目 標	学生は、人体機能学において恒常性を中心としたヒトが生きていくための人体で行われている生理学的事象について学ぶ。学生は、人体形態学で得られた知識を人体機能学に応用し、それらの知識を看護の臨床科目に活かすことができる。		
受 講 の 留 意 点	人体機能学は専門科目を学ぶ上でのベースを学ぶものである。一度の講義で内容を全て理解することは難しいため予習復習により確認する事が大事である。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>学生は、人体機能学において各器官系の機能とその働きの調節の仕組みを学ぶ。また学生は、講義だけではなく模型や画像教材を利用して能動的に学修し、生命を維持するために体内の器官が連携していることを学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 振り返り・個別の質疑応答</p>		
授 業 の 計 画	1 人体機能学総論（生理学総論） 2 人体機能学総論（細胞・人体を構成する物質） 3 人体の構成に関する生理学（細胞の機能） 4 人体の構成に関する生理学（組織の機能） 5 人体の構成に関する生理学（器官の機能） 6 人体の器官系に関する生理学 7 消化器系の生理学（口・咽頭・食道の機能） 8 消化器系の生理学（腹部消化管の機能） 9 消化器系の生理学（膵臓、肝臓と胆嚢の機能） 10 呼吸器系の生理学（内呼吸と外呼吸、呼吸運動） 11 呼吸器系の生理学（呼吸運動の調節と呼吸器系の病態生理について） 12 循環器系の生理学（赤血球沈降速度、血液の凝固と繊維素溶解、血液型） 13 循環器系の生理学（心臓の拍出機能） 14 循環器系の生理学（血流量、血圧調節の仕組み） 15 泌尿器系の生理学（腎臓の機能）	16 泌尿器系の生理学（体液調節の仕組み） 17 自律神経系の生理学 18 内分泌系の生理学（各ホルモンの機能） 19 運動器系の生理学（筋の収縮のメカニズム） 20 運動器系の生理学（基礎代謝について） 21 運動器系の生理学（運動と代謝） 22 神経系の生理学（神経系の機能（中枢神経系）） 23 神経系の生理学（神経系の機能（脳神経）） 24 神経系の生理学（神経系の機能（脊髄神経）） 25 感覚器系の生理学（視覚、聴覚） 26 感覚器系の生理学（皮膚感覚） 27 生体防御の生理学（生体防御の役割） 28 生体防御の生理学（獲得免疫の仕組み） 29 生殖器系の生理学（男性生殖器） 30 生殖器系の生理学（女性生殖器）	

<p>授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：教科書の関係する章について読み込む。 復習：講義ノートに書き込んだ内容について、教科書と照らし合わせながら読み返す。</p>
<p>成 績 評 価 方 法</p>	<p>定期試験 (100 点) で評価する。</p>
<p>教 科 書 (購 入 必 須)</p>	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (坂井建雄、岡田隆夫著 : 医学書院)</p>
<p>参 考 書 (購 入 任 意)</p>	

科 目 名	生化学			
科 目 名 (英 語)	Biochemistry	シラバスNo.	260020030	
担 当 教 員 名	田邊 宏基			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : <u>◎</u> DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : <u>○</u> DP6 : ___			
学 修 到 達 目 標	学生が、身体を構成している物質の構造と体内で行われている主要な代謝を分子レベルで理解する。これにより、学生は身体がどのような分子によって作られているのかを常に意識し、これらの変換を司る酵素、遺伝子および細胞内小器官の動きをイメージ出来るようになる。			
受 講 の 留 意 点	予め配布されているプリントの該当箇所に目を通し予習しておく。講義後に該当箇所との関連を考えながら化学、生物学の復習をしっかりと行う。疑問を残しては次の知識が積み上がらないため、疑問点はその場での質問もしくは講義後の質問でもよいので毎回解消する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	学習到達目標を達成するために、学生は、糖質、脂質、たんぱく質、核酸の構造、特性、代謝について詳細に解説を受ける。また、これらの代謝の際に、学生は、ビタミンやミネラルが果たす役割についても解説を受ける。			
	アクティブ・ラーニングの内容 時事・諸問題に対する生化学的観点からの調査発表			
授 業 の 計 画	1 生化学の概要 2 細胞および細胞内小器官 3 たんぱく質の構造と機能 4 酵素と代謝 5 高エネルギーリン酸化合物の生体での利用 6 糖質の代謝 (解糖系、TCA 回路、電子伝達系) 7 糖質の代謝 (糖新生、ペントースリン酸経路) 8 脂質の代謝 (β酸化、脂肪酸合成、ケトン体代謝) 9 脂質の代謝 (コレステロール代謝、リン脂質代謝、体内輸送) 10 たんぱく質・アミノ酸の代謝 (アミノ基転移、脱アミノ反応) 11 たんぱく質・アミノ酸の代謝 (尿素サイクル) 12 遺伝情報とたんぱく質合成 (プリンおよびピリミジンの合成と分解) 13 遺伝情報とたんぱく質合成 (転写および翻訳) 14 代謝におけるビタミンとミネラルの役割 15 疾患の生化学的な理解			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予め配布されているプリントの該当箇所に目を通しておく。 講義後に化学、生物学との関連を考えながら該当箇所の復習をしっかりと行う。			
成 績 評 価 方 法	試験(100点)により評価する。必要によりレポートの提出を求められることがある。			

教科書 (購入必須)	「わかりやすい生化学第 5 版 疾病と代謝・栄養の理解のために」第 7 刷 ニューヴェルヒロカワ 2023 年
参考書 (購入任意)	

科 目 名	栄養学			
科 目 名 (英 語)	Nutrition	シラバスNo.	260020040	
担 当 教 員 名	長嶋 泰生			
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ◎ DP3 : ○ DP4 : ___ DP5 : ___ DP6 : ___			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素の種類やエネルギー代謝、食事や食品に関わる基本的知識を理解できる。 2. チーム医療における栄養ケア・マネジメント、栄養アセスメントの重要性を理解できる。 3. ライフステージ別の特徴と栄養の要点を理解できる。 4. 病院食と栄養補給法、疾病別の栄養・食事療法について理解できる。 5. 日本における食生活の変遷と健康づくりに関わる法令について理解できる。 			
受 講 の 留 意 点	<p>【準備学習：予習・復習の内容、分量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：教科書の該当ページを読んでおく。(60分) ・復習：教科書の該当ページおよび授業時の配付資料を読み返す。(120分) 			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての栄養の意義、栄養と健康の関わりについて学ぶ。 2. 栄養素の種類と働き、エネルギー代謝について学ぶ。 3. チーム医療と栄養管理、栄養状態の評価・判定方法について学ぶ。 4. ライフステージ別の特徴と栄養について学ぶ。 5. 種々の疾病の要因、病態、診断、治療・予防、栄養食事療法について学ぶ。 6. 食生活の変遷と改善・疾病予防に関わる施策、食の安全性と表示について学ぶ。 			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人間栄養学と看護 2 栄養素の種類とはたらき① 糖質、脂質、タンパク質、食物繊維、水 3 栄養素の種類とはたらき② ビタミン、ミネラル 4 体内のエネルギーバランス 5 食事と食品① 栄養素と食事、食品群とその分類、食品表示 6 食事と食品② 食事の変遷、食事摂取基準 7 栄養ケア・マネジメント① 栄養スクリーニング、栄養アセスメント 8 栄養ケア・マネジメント② 栄養アセスメント、栄養ケア計画、モニタリングと評価 9 ライフステージと栄養① 妊娠期、授乳期、乳児期 10 ライフステージと栄養② 乳児期、幼児期、学童期 11 ライフステージと栄養③ 思春期・青年期、成人期、更年期、高齢期 12 臨床栄養① 病院食、栄養補給法 13 臨床栄養② 疾患・症状別食事療法 低栄養・栄養不良、循環器疾患、消化器疾患 14 臨床栄養③ 疾患・症状別食事療法 栄養・代謝疾患、腎臓疾患、呼吸器疾患、血液疾患他 15 臨床栄養④ 対象者別の栄養管理、病期別の栄養管理 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習：教科書の該当ページを読んでおく。</p> <p>復習：教科書の該当ページおよび授業時の配付資料を読み返す。</p>			
成 績 評 価 方 法	課題提出 (30 点)、試験 (70 点) により評価する。			

教科書 (購入必須)	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 医学書院 ISBN978-4-260-03861-4
参考書 (購入任意)	

科 目 名	病理学		
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	260020050
担 当 教 員 名	和泉 裕一・室野 晃一・鈴木 康秋・眞岸 克明・立川 夏夫		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	臨床において当該疾患等の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。		
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ◎ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ○ DP6 : ___		
学 修 到 達 目 標	病気の原因、発生機序、発症・進展の過程や患者に対する影響について理解し、臨床の現場でその知識を応用して、科学的根拠に基づく看護が出来ることを目指す。		
受 講 の 留 意 点	講義を受ける前に各臓器の解剖・生理を復習しておく。 講義の要点を講義資料で把握し、教科書で補足する。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>いろいろな疾病は、細胞障害、感染症・炎症・免疫、循環障害、遺伝子異常、腫瘍、代謝異常、環境因子の複合的な関与、蓄積により引き起こされる。総論では、疾病の成り立ちを臓器の違いを超えて解説する。</p> <p>各論では、臓器別に各種疾病の病因・症状・治療について臓器特異性の視点から解説する。</p>		
授 業 の 計 画	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 総論 1 : 病理学とは何か、組織・細胞の障害と修復 2 総論 2 : 循環障害 3 総論 3 : 炎症と免疫、移植と再生医療 4 総論 4 : 感染症 5 総論 5 : 代謝障害 6 総論 6 : 先天異常と遺伝子異常、老化と死 7 総論 7 : 腫瘍 8 各論 1 : 循環器疾患 (先天性、心不全、虚血性、心筋症、心内膜と血管の疾患) 9 各論 2 : 血液・造血器系の疾患 10 各論 3 : 呼吸器系疾患 (鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜と縦隔の疾患) 11 各論 4 : 消化器系疾患 (口腔・食道、胃、腸、腹膜、肝臓、胆管、胆のう、膵臓の疾患) 12 各論 5 : 腎、泌尿器、生殖器および乳腺の疾患 13 各論 6 : 内分泌系の疾患 14 各論 7 : 脳、神経系の疾患 15 各論 8 : 骨、関節、筋肉系の疾患、眼・耳・皮膚の疾患 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習 (90 分) 各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。</p> <p>復習 (90 分) 講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。</p>		
成 績 評 価 方 法	試験 (90 点) と授業態度を評価 (10 点)		
教 科 書 (購 入 必 須)	病理学「疾病のなりたちと回復の促進 1」医学書院		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	臨床治療学 I		
科 目 名 (英 語)	Clinical Therapeutics I	シラバスNo.	260020060
担 当 教 員 名	長谷部 佳子・南山 祥子・大久保 未央・松浦 真理		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修
開 講 形 態	講義		
資 格 要 件			
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての実務経験を有する教員が、病院など医療の現場で求められる病態生理・検査・治療等の医学的専門知識に関して、看護師の視点も踏まえながら講義する。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <input type="radio"/> DP2 : <input checked="" type="radio"/> DP3 : <input type="radio"/> DP4 : <input type="radio"/> DP5 : <input type="radio"/> DP6 : <input type="radio"/>		
学 修 到 達 目 標	1. 器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の高頻度に見られる疾患について、その原因・病態・診断のための検査、および治療について理解することができる。 2. 上記1で習得した基礎的知識を看護の実践的判断に活かす努力ができる。		
受 講 の 留 意 点	すでに履修済みの人体形態学、人体機能学、生化学、栄養学を復習しておくことが望ましい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の疾患について、その原因・病態・診断のための検査や治療法を学ぶ。治療は、内科的治療法（薬物・放射線・食事・運動など）と外科的治療法（手術）について学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 疾患の原因・病態・検査・治療に関して探求するグループ・ワーク、グループ・ディスカッションを行い学びを深める。		
授 業 の 計 画	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	腎・泌尿器疾患（・・・腎腫瘍、膀胱がん、前立腺がん、前立腺肥大症）の原因・病態・診断のための検査・治療 血液・造血器疾患（主に白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血）の原因・病態・診断のための検査・治療 脳神経疾患（主に脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、神経難病）の原因・病態・診断のための検査・治療 骨関節筋肉疾患(主に骨折、椎間板ヘルニア、脊髄損傷、変形性関節症)の原因・病態・診断のための検査・治療 内分泌・代謝疾患（主に糖尿病、高脂血症、高尿酸血症）の原因・病態・診断のための検査・治療 免疫疾患（主に関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、AIDS）の原因・病態・診断のための検査・治療
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：各章に関連する教科書を読み込んでおく。 復習：講義内容を振り返りノートにまとめる。レポート課題作成に取り組む。		
成 績 評 価 方 法	評価方法：定期試験前に 2 回の小テストを実施するほか、試験は前期定期試験日に実施する。		

	<p>1) 定期試験は、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、脳神経疾患、骨関節筋肉疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、血液・造血器疾患、免疫疾患の9つの領域を3つのグループ(①循環器・呼吸器・内分泌/代謝; ②脳神経・腎/泌尿器・血液/造血器; ③消化器・運動器)に分けて、3回の試験を行う。</p> <p>2) 小テストは、グループ①では循環器10点、呼吸器10点を配点する。グループ②は小テストを行わない。グループ③は消化器15点を配点する。なお、小テストの得点は、再試験には含まない。</p> <p>評価割合：グループ①は定期試験80%と小テスト20%、グループ②は定期試験100%、グループ③は定期試験85%と小テスト15%とする。各グループを100点満点に換算し、1つのグループで60点未満の場合はそのグループの領域全てが再試験となる。</p> <p>評価基準：</p> <p>1) 「臨床治療学Ⅰ」の成績評価は、グループ①②③の合計点(300点満点)を100点に換算した得点を最終成績評価とする。再試験となった場合は、再試験の点数が60点以上でも「60点」として計算される。</p> <p>例：270～300点⇒秀、240～269点⇒優、210～239点⇒良、180～209点⇒可、180点未満⇒不可</p> <p>2) 1つのグループでも再試験となった場合は、合格しても最終評価は「可」となる。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器、医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕循環器、医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔4〕血液・造血器、医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕内分泌・代謝、医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕脳神経、医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕腎・泌尿器、医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕運動器、医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症、医学書院 今日の治療薬 2026 解説と便覧、南江堂 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院 新訂版 看護技術ベーシックス 第2版、サイオ出版</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	

科 目 名	臨床治療学Ⅱ				
科 目 名 (英 語)				シラバスNo.	260020070
担 当 教 員 名	医師				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	臨床において当該疾患等の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。				
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___ DP6：___				
学 修 到 達 目 標	本講義は、成人期に高頻度に見られる疾患の原因・病態・診断・治療についての基礎的知識を学ぶことを目標とする。				
受 講 の 留 意 点	人体形態学、人体機能学、病理学を復習しておくこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	器官系統別（感覚器系、歯科口腔系および女性生殖器系）の疾患について、原因や病態、診断のための検査および内科的・外科的治療法について学ぶ。特に、女性生殖器系の疾患については、女性のライフサイクル、妊孕性、妊娠・出産への影響を踏まえ、助産学の基盤として女性の健康を支援するために必要な基礎的知識を学ぶ。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1 皮膚疾患（主にアトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、脂漏性湿疹、老人性乾皮症、蕁麻疹、脱毛症）				
	2 皮膚疾患（主に熱傷、放射線皮膚炎、凍傷、褥瘡）				
	3 眼疾患（主に近視、乱視、老眼、弱視、流行性角結膜炎、翼状片、網膜症・網膜剥離）				
	4 眼疾患（主に加齢黄斑変性、硝子体出血、白内障、緑内障、うっ血乳頭）				
	5 歯・口腔疾患（主に齲蝕、辺縁性歯周炎、口腔カンジダ症、地図状舌、唾石症）				
	6 歯・口腔疾患（主に上顎/舌がん、顎骨折/顎関節症）				
	7 耳鼻咽喉疾患（主に鼓膜損傷、中耳炎、難聴、副鼻腔炎、味覚障害、扁桃炎）				
	8 耳鼻咽喉疾患（主に咽頭/喉頭がん、頸部リンパ節腫脹、声帯ポリープ、流行性耳下腺炎）				
	9 女性生殖器疾患（主に子宮頸がん、子宮体がん、子宮筋腫、子宮内膜症、絨毛性疾患）				
	10 女性生殖器疾患（主に子宮筋腫、子宮内膜症、絨毛性疾患）				
	11 女性生殖器疾患（主に卵管がん、異所性妊娠、卵管通過障害）				
	12 女性生殖器疾患（主に卵巣の良性腫瘍、悪性腫瘍、乳がん）				
	13 女性生殖器疾患（主に乳頭炎/乳輪炎、月経異常・月経随伴症状、更年期障害、不妊症）				
	14 女性生殖器疾患（主に性器クラミジア感染症、性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、梅毒、膺トリコモナス症、性器カンジダ症、HIV感染症/エイズ）				
	15 女性生殖器疾患（主にターナー症候群など性分化疾患）				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（90 分）各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。 復習（90 分）講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。				
成 績 評 価 方 法	①歯科疾患について、試験もしくはレポート課題（20 点） ②皮膚疾患について、試験もしくはレポート課題（20 点） ③眼疾患について、試験もしくはレポート課題（20 点） ④耳鼻咽喉科疾患について、試験もしくはレポート課題（20 点）				

	<p>⑤女性生殖器系疾患について、試験もしくはレポート課題（70点） 合計 150 点満点で評価する。 各領域で 6 割未満の場合はその領域分が再試となる。</p>
<p>教科書 （購入必須）</p>	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔12〕皮膚、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔13〕眼、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔15〕歯・口腔、医学書院</p>
<p>参考書 （購入任意）</p>	<p>必要時，指示する。</p>

科 目 名	臨床治療学Ⅲ		
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	260020080
担 当 教 員 名	市立病院医師		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修
		資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	臨床において当該疾患等の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。		
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___ DP6：___		
学 修 到 達 目 標	本講義は、母性および小児看護に必要な医学の基礎知識を学ぶことを目的とする。周産期ではハイリスクおよび異常と治療、小児では小児に特有な疾病の症状・治療・予後を中心に学修する。		
受 講 の 留 意 点	人体形態学、人体機能学、病理学を復習しておくこと。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	母性および小児の健康状態をアセスメントするためには、対象の解剖学的・生理学的特徴に関する知識の活用が不可欠である。また、母性および小児看護においてはウェルネスからハイリスク・健康障害の各ステージに応じた看護が要求される。そのため、妊娠・分娩・産褥の生殖生理、周産期母子の病態とハイリスク、周産期および小児期に高頻度に見られる疾病の原因・病態・診断・治療・予後などに関する基礎的知識を学ぶ。		
	アクティブ・ラーニングの内容		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠・分娩・産褥期の生殖生理（1）妊娠の成立、胎児、胎児付属物 2 妊娠・分娩・産褥期の生殖生理（2）妊娠に伴う母体変化、母体と胎児の管理 3 妊娠期の病態と異常（1）ハイリスク妊娠と妊娠合併症 4 妊娠期の病態と異常（2）異常妊娠 5 分娩期の病態と異常（1）産道・娩出力・胎児・胎児付属物の異常 6 分娩期の病態と異常（2）分娩時の損傷、異常出血、産科処置と産科手術 7 産褥期の病態と異常（子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産褥血栓症、マタニティブルーズ） 8 新生児とその疾患 ハイリスク新生児、染色体異常・先天異常 9 小児の内分泌・代謝疾患 10 小児の免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患 11 小児の感染症 12 小児の循環器疾患、呼吸器 13 小児の消化器疾患、血液疾患 14 小児の腎疾患、神経・筋疾患 15 小児の精神疾患 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（90 分）各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。 復習（90 分）講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。		
成 績 評 価 方 法	①妊娠・分娩・産褥期について、試験もしくはレポート課題（100 点） ②小児期について、試験もしくはレポート課題（100 点） 合計 200 点満点で評価する。 教員領域ごとの試験で 60 点未満の場合はその領域分が再試となる。		
教 科 書 (購 入 必 須)	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論、医学書院		
参 考 書 (購 入 任 意)	必要時、指示する。		

科 目 名	感染微生物学			
科 目 名 (英 語)	Clinical Microbiology and Infectious Disease	シラバスNo.	260020090	
担 当 教 員 名	塚原 高広			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	大学病院（内科医師 1 年・総合診療科医師 1 年）、2 次救急公立病院（内科医師 2 年）、3 次救急民間病院（総合診療科医師 1 年）の実務経験がある。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ◎ DP3 : ____ DP4 : ____ DP5 : ____ DP6 : ____			
学 修 到 達 目 標	感染とは何か、感染成立の 3 要素、検査、化学療法、感染制御、感染対策について説明できる。主要な感染症の病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。			
受 講 の 留 意 点	教科書を中心に授業を進めるので、予習、復習を通じて必ず通読して欲しい。単なる知識の暗記ではなく、考え方を習得することを目指す。復習しても理解できない事項は、講義後に質問すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な考え方を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容：課題（問題演習・リアクションペーパー）提出と教員によるフィードバック			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 微生物学総論：歴史、微生物の種類と特徴 2 細菌総論：形態と構造、グラム染色性、病原性 3 ウイルス・真菌・寄生虫総論 4 免疫：自然免疫、獲得免疫、アレルギー 5 ワクチン・感染症総論：予防接種、感染の 3 要素、感染経路、検査、診断、治療 6 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 7 呼吸器感染症 1：上気道感染症、インフルエンザ 8 呼吸器感染症 2：感染性肺炎、結核、新興呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼・特殊な細菌による感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 敗血症・人獣共通感染症・新興再興感染症 15 感染制御：感染対策、消毒と滅菌 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（90 分）指定教科書で次回の講義範囲を読み、専門用語の定義を確認すること。 復習（90 分）指定教科書や参考書の講義範囲を再読して、知識を整理しておくこと。			
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点）により評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020 年）			

参 考 書 (購 入 任 意)	神谷茂監修『標準微生物学第 15 版』医学書院 (2024 年) 中込治著『ウォームアップ微生物学』医学書院 (2022 年)
----------------------	--

科 目 名	薬理学			シラバスNo.	260020100
科 目 名 (英 語)				シラバスNo.	260020100
担 当 教 員 名	長多 好恵、山端 孝司、結城 幸一、富樫 朋				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	臨床において調剤、医薬品の供給その他薬事衛生に従事する薬剤師が薬の作用機序、薬物動態等薬物療法の基礎となるメカニズムを教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ◎ DP3 : ____ DP4 : ____ DP5 : ____ DP6 : ____				
学 修 到 達 目 標	薬物治療の基礎となるメカニズムを理解する。				
受 講 の 留 意 点	生理学（人体機能学）、生化学、病態生理学（臨床治療学）、微生物学など関連科目の内容との関連を考えながら履修する。内容が膨大であるので、受講後必ずテキストや参考書を読む、図書館やインターネットで詳しく調べるなど復習をして、そのつど整理しておくこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	総論では、薬の作用機序と生体内情報伝達、薬物動態、薬効に影響を与える各種の要因、薬の作用・副作用が現れる原理、アドヒアランスなどについて解説する。また、医薬品添付文書の読み方を習得するとともに関連する法律の概要を解説する。各論では実際の臨床治療で使われている各種薬物（自律神経作用薬、筋弛緩薬、麻酔薬、麻薬、向精神薬、抗てんかん薬、抗不安薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、解熱鎮痛薬、副腎皮質ステロイド、抗高血圧薬、狭心症治療薬、強心薬、抗不整脈薬、利尿薬、高脂血症治療薬、貧血治療薬、喘息治療薬、糖尿病治療薬、抗感染症薬、消毒薬、抗がん薬など）の作用および作用メカニズムと副作用について解説する。				
	アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1 総論： アドヒアランス、医薬品医療機器等法、医薬品添付文書の読み方 2 総論： 薬の作用機序、薬物動態 3 各論： 末梢神経活動作用薬Ⅰ 4 各論： 末梢神経活動作用薬Ⅱ 5 各論： 中枢神経活動作用薬Ⅰ 6 各論： 中枢神経活動作用薬Ⅱ、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬 7 各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅰ 8 各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅱ、呼吸器に作用する薬物 9 各論： 高脂血症治療薬、貧血治療薬、血液凝固・線溶系に作用する薬物 10 各論： 消化器・生殖器に作用する薬物 11 各論： 物質代謝に作用する薬物 12 各論： 生物学的製剤、皮膚・眼科用薬 13 各論： 抗感染症薬 14 各論： 消毒薬、抗がん薬 15 各論： 生薬、漢方薬				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（90 分）各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。 復習（90 分）講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。				

成績評価方法	筆記試験（マークシート方式、配点 100 点）により評価する。
教科書 （購入必須）	吉岡充弘編『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 第 15 版』 医学書院 浦部晶夫ら編『今日の治療薬 2024』南江堂
参考書 （購入任意）	MJ Neal、佐藤俊明訳『一目でわかる薬理学 第 5 版』メディカル・サイエンス・インターナショナル（2007 年） 鈴木正彦 パワーアップ問題演習 薬理学 新訂版 サイオ出版（2013 年）

科 目 名	臨床薬理学			
科 目 名 (英 語)	Clinical Pharmacology	シラバスNo.	260020110	
担 当 教 員 名	本郷 文教			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必須	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	臨床において調剤、医薬品の供給その他薬事衛生に従事する薬剤師の役割を知る。薬物療法の施行過程及び医薬品の取り扱いに必要な知識を習得し、看護師として果たす役割等を教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ◎ DP3 : ○ DP4 : ____ DP5 : ____ DP6 : ____			
学 修 到 達 目 標	適切な薬物療法を遂行するための基礎知識を習得する			
受 講 の 留 意 点	臨床薬理学で学ぶ薬物療法の内容は基礎となる薬理学、生理学、病態生理学、微生物学、栄養学など関連科目を理解しておく必要がある。特に受講に際して薬理学のテキストを十分に読み、各々の医薬品の作用機序、有害事象（副作用）を整理しておくことが重要である			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	薬理学で学んだ薬の作用機序を基礎として、疾病に対して医薬品がどのように用いられ、また危惧される副作用を回避するためのチェックポイントや発現時の対応を説明する			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする 2 総論 薬物療法の施行過程、医薬品の作用原理と有害作用、医薬品情報の利用の仕方 3 各論 医薬品管理と麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の取り扱い 4 各論 感染症に使用する薬の特徴と薬物血中濃度モニタリングの有用性について 5 各論 生活習慣病治療薬の種類と使い方 1 高血圧症、心疾患、脂質異常症 6 各論 生活習慣病治療薬の種類と使い方 2 糖尿病、腎疾患 7 各論 抗がん薬の特徴と使用する際の注意点について 8 各論 輸液療法とその他の注射薬の取り扱いについて			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：各回のテーマについて教科書を読み、関連科目分野の教科書等を参考とし、疑問点等を明らかにする 講義で示された主要な薬物療法の概念、キーワードについてノート等に整理する。看護師として薬を取り扱い際の注意点、患者に配慮すべき事項を確認する			
成 績 評 価 方 法	選択式・記述式の試験により評価（95点）するが、場合によって授業態度（5点）を加味する。必要によりレポートの提出を求めることがある			
教 科 書 (購 入 必 須)	赤瀬智子、柳田 俊彦編 ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学			
参 考 書 (購 入 任 意)	今日の治療薬 2026 南江堂 治療薬マニュアル 2026 医学書院			

科 目 名	生涯発達論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to the Human Development	シラバスNo.	260020120	
担 当 教 員 名	結城 佳子、長谷川 博亮			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師等として出生から看取りまでの心のケアを実践した経験を有する教員が、対人援助において必須である生涯発達に関する基本的知識と考え方を教授する科目			
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___ DP6 : ___			
学 修 到 達 目 標	生涯発達とは、胎生期から死に至る人の生涯において、より適切な適応のあり方を期待する包括的な概念である。保健・医療・福祉、教育等の領域で対象者を支援しようとするとき、生涯発達についての理解は不可欠である。生涯発達についての基本的考え方、人の生涯発達とその過程における危機的状況について理解することを目標とする。 1. 生涯発達とは何か、基本的な考え方を述べることができる。 2. 主な生涯発達理論について、説明できる。 3. 各発達段階における危機について、発達段階の特徴、背景となる社会のありようと関連付けて具体的に述べることができる。			
受 講 の 留 意 点	少人数でのグループワークを取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	E.H.エリクソンの生涯発達理論にそって、各発達段階にある人々のありよう、達成すべき発達課題について学ぶ。また、発達課題への取り組みにおいて、危機的な状況にある人々等のありようを学ぶ。生涯発達の理解をふまえ、人を理解する上で生涯発達への視点がなぜ必要なのか、多様化・複雑化する社会の中での課題を検討する。 アクティブ・ラーニングの内容 少人数でのグループワークを取り入れた講義である。			
授 業 の 計 画	1 生涯発達とは 発達段階と発達課題 2 生涯発達の基本的理解 人の生涯発達にかかわる理論 3 胎生期から乳児期前期 信頼 対 不信 4 乳児期後期 信頼 対 不信 5 幼児期前期 自律性 対 恥・疑惑 6 幼児期後期 積極性 対 罪悪感 7 学童期 勤勉性 対 劣等感 8 中間まとめ 子どもという存在と重要他者 9 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (1) 思春期・青年期のからだところの変化 10 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (2) アイデンティティとその危機 11 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (3) 成年期へ 12 成人前期 親密性 対 孤独感 13 成人後期 生成継承性 対 停滞 14 成熟期 統合 対 絶望 15 まとめ 人が生きるということ			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (90 分) 各回でテーマとする発達段階について調べ、疑問点等を明らかにする。 復習 (90 分) 講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を 1 編以上読む。			
成 績 評 価 方 法	レポート課題 : 中間、最終各 50 点、計 100 点			

	<p>5段階評価 S：素点90点以上、A：素点80～89点、B：素点70～79点、C：素点60～69点、D：素点59点以下</p> <p>C以上の評価について単位を認定する。D評価の者には課題再提出を認めることがある。再提出の評価は素点69点までとする。</p>
教科書 (購入必須)	テキストは使用せず、資料を配布する。
参考書 (購入任意)	必要時指示する。

科 目 名	家族社会学			
科 目 名 (英 語)	Family Sociology	シラバスNo.	260020130	
担 当 教 員 名	佐藤 麻衣、大坂 祐二			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ◎ DP3 : ○ DP4 : ___ DP5 : ___ DP6 : ○			
学 修 到 達 目 標	1. 現代社会における家族のありように関する基本的知識を取得し、説明することができるようになる。 2. 家族をめぐる諸問題を、社会との関連性のなかで理解できるようになる。 3. 家族の多様化を踏まえて人々の生活を考えることができるようになる。			
受 講 の 留 意 点	履修条件なし			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	授業の概要 配布したレジュメをもとに進める。授業内では、まず第1回から第6回にかけて、家族の分析視点や現代家族の特徴を学ぶ。その後、第7回から第15回において、婚姻と離婚、家事・育児、賃金労働と家事・育児との関連、家族介護、若者の自立・独立と家族との関連、夫婦別姓、同性婚といった、現代家族を取り巻く諸問題を取り上げ、それぞれの事象について、社会構造や社会環境との関わりを中心に学んでいく。			
	アクティブ・ラーニングの内容 Formsを活用し、各授業回において匿名で授業の感想・意見・質問等を募り、次の授業内で紹介・コメントを行う。他の受講者の感想や意見・質問等に触れることで、自身の考えや理解を深めるきっかけとしてほしい。			
授 業 の 計 画	1 家族とは何か：家族の定義、現代社会と家族、家族社会学を学ぶ意義（担当：佐藤） 2 家族を「みる」視点（1）：世帯と家族、家族類型（担当：佐藤） 3 昔の家族と今の家族：近代家族の機能と特徴（担当：佐藤） 4 家族の変容と家族危機：個人の生き方の変化とそれに伴う家族の変化（担当：佐藤） 5 家族のコミュニケーション：家族内コミュニケーションの特徴（担当：佐藤） 6 家族を「みる」視点（2）：家族周期、家族の発達段階、家族ストレス論（担当：佐藤） 7 結婚難の時代？：未婚化・非婚化・晩婚化と、その原因（担当：佐藤） 8 賃金労働と家事・育児（1）：専業主婦の誕生、家事・育児という労働の特性（担当：佐藤） 9 賃金労働・家事・育児（2）：育児不安とその要因（担当：佐藤） 10 賃金労働・家事・育児（3）：男性の家事・育児参加（担当：佐藤） 11 賃金労働・家事・育児（4）：ワーク・ライフ・バランス（担当：佐藤） 12 高齢社会と家族介護：日本の高齢化、家族介護の難しさ（担当：佐藤） 13 さまざまな家族のかたち（1）：離婚とひとり親家庭（担当：大坂） 14 さまざまな家族のかたち（2）：若者の自立・独立と家族（担当：大坂） 15 さまざまな家族のかたち（3）：夫婦別姓と同性婚（担当：大坂）			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 授業内で示した参考文献・論文等の中から興味関心のあるものを選んで読み、授業への理解度を深める。			
成 績 評 価 方 法	期末試験（100点）。 （1）家族社会学における基礎知識に関する理解度、（2）現代家族の実態や近代への移行に伴う変			

	化に関するデータを正しく読み解き、その原因について説明できる力、(3) 授業で学んだことをもとに、時事問題について考察できる力、の3点から評価を行う。
教科書 (購入必須)	なし
参考書 (購入任意)	授業内で適宜紹介する。

科目名	人間工学			
科目名（英語）	Ergonomics	シラバスNo.	260020140	
担当教員名	若林 齊・李 相逸・傳法谷 郁乃			
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態 講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件
実務経験及びそれに関わる授業内容				
対応するディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : <input checked="" type="radio"/> DP3 : <input type="radio"/> DP4 : ___ DP5 : ___ DP6 : ___			
学修到達目標	人間工学の目的は、人間の形態、生理、心理学的諸特性を、道具や装置などの操作に反映させることによって、その使い易さや作業効率・快適性の向上、作業者の負担軽減、ヒューマンエラー（誤動作、誤操作）の防止等をはかることにある。			
受講の留意点	「解剖学」や「生理学」の知識に加え、「心理学」に関する知識も必要なので、これらに関する科目を履修していることが望ましい。また、受講後の復習に心がけ、不明な点は質問すること。			
授業の概要とアクティブ・ラーニングの内容	看護や介護は、直接、人に触れ、また、道具や装置を使って人を支援する行為の過程ともいえる。この基礎として、人間の生理・心理学的諸特性を含む人間工学の知識を学ぶ。それらによって、質の高い看護および介護活動が実現される。			
	アクティブ・ラーニングの内容 授業時に積極的に質疑応答を行う。			
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、人間工学の概要 2 人間と環境—温熱環境（1）— 体温調節機能の基礎、温熱的快適性 3 人間と環境—温熱環境（2）— 暑熱環境と熱中症、着衣 4 人間と環境—温熱環境（3）— 寒冷環境と体温調節 5 人間と環境—温熱環境（4）— 低体温、寒冷障害、ヒートショック 6 人間と環境—温熱環境（5）— 寒冷環境と作業パフォーマンス 7 人間と環境—空気環境（1）— 低酸素環境、低圧環境 8 人間と環境—空気環境（2）— 湿度、病室の換気計画、感染症対策、防護服 9 人間と環境—動作環境（1）— 介護・看護における人間工学、ボディメカニクス① 10 人間と環境—動作環境（2）— ボディメカニクス②、作業負担、身体機能 11 人間と環境—動作環境（3）— ユニバーサルデザイン、バリアフリー 12 人間と環境—動作環境（4）— ヒューマンエラー、管理対策 13 人間と環境—光環境（1）— 光環境と生体リズム、睡眠 14 人間と環境—光環境（2）— 交代制労働者の健康リスク、患者への配慮 15 まとめ（1） 			
授業時間外学修（予習・復習）の内容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（90 分）授業計画に記載の内容について予習する 復習（90 分）授業で配られた資料などを復習する			
成績評価方法	小テストおよびレポート（40 点）、期末試験（60 点）			
教科書（購入必須）	教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布して行う。			
参考書（購入任意）				

科 目 名	カウンセリング・コミュニケーション論			
科 目 名 (英 語)	Counseling and Communication Theory	シラバスNo.	260020150	
担 当 教 員 名	山本 勝則			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として精神看護実践の実務経験を 17 年間、および学生相談員の経験を有する教員が、看護師及び対人援助職に不可欠なコミュニケーション及びカウンセリングについて教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u> </u> DP3 : <u>◎</u> DP4 : <u> </u> DP5 : <u> </u> DP6 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	1. カウンセリングやコミュニケーションに関する理論と方法について学び、対人援助職者に必要なカウンセリングマインドとコミュニケーション技能を身につける。 2. 看護および保健・医療領域における専門職に必要な資質（知識、心構え、態度、関係性等）を涵養する。			
受 講 の 留 意 点	1. 有為な対人援助職／看護職を育成することを目的としているため、ある程度他者に対して自分自身があらわになることを了解のうえで受講すること。 2. グループ（またはペア）ワークではシェアリングを行うので、積極的に発言・参加してくれるように望む。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	序盤では、看護および保健・医療領域におけるコミュニケーションの理論と方法（接遇、質問技法、傾聴と共感、ポライトネス理論など）を紹介する。その後、（自己成長論、精神力動論、認知行動論、その他に基づく）各種のカウンセリング技法を紹介する。 アクティブ・ラーニングの内容 1. 講義の中で、都度指定するテーマ and/or 感想をリアクション／ミニッツペーパーとして記載させ、成績の一部にするとともに、次回の講義で記載内容についてコメントする。 2. 講義の途中で、ペアワークあるいはグループワークを取り入れて、体験的理解をめざす。			
授 業 の 計 画	1 授業の枠組みと導入：カウンセリングの種類、会話とコミュニケーションの基礎 2 コミュニケーションと質問技法：コミュニケーション場面、各種の質問技法 3 話を聴くこと：傾聴・共感・理解・確認 4 ポライトネス理論：フェイスへの配慮とポライトネス・ストラテジー 5 カウンセリング：カウンセリングの基礎、看護カウンセリング 6 精神力動論：精神分析療法、対象関係論、自我同一性と防衛機制 7 自己成長論：来談者中心療法、ほんものの傾聴 8 認知行動論①：行動療法、認知行動療法 9 認知行動論②：第三の認知行動療法（マインドフルネス） 10 解決志向アプローチ：解決志向アプローチの考え方、面接の流れ 11 ロゴセラピー：フランクフル心理学、反省除法、逆説志向 12 コンコーダンス：コンコーダンスとは、介入とスキル 13 コーチング：コーチングとは、コーチングの活用、コーチングの基本ステップ 14 オープンダイアログ：概要、7つの原則、対話実践の12の基本要素 15 カウンセリングのイメージ：入門カウンセリングワークブック（マンガ+解説）			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 [予習]：シラバスに示した各回の「授業の計画」について自分で調べること（学習時間の目安：60～90分） [復習]：講義内容を振り返るとともに配布された資料、紹介された資料や書籍を読んで学びを深化させること（学習時間の目安：90～120分）			

成績評価方法	<p>1. 毎回の講義のリアクション／ミニツツペーパー（30%）：2×15＝30点 講義のつど提出する</p> <p>2. 毎回の講義の要点を簡潔に記載した小レポート（20%） 期末に提出する（復習と同時に作成するをお勧めします）</p> <p>3. 15回の講義内容から学生がテーマを選んで記載する期末レポート（50%） 講義内容の要約及びそれに対する考察を記載してください</p> <p>5段階評価 S:90点以上、A:80～89点、B:70～79点、C:60～69点、D:59点以下 C以上の評価は単位を認定する。D評価は単位を認めない。ただし、59点以下の場合は再試験（レポート課題の再提出）を行うことがある。</p>
教科書 （購入必須）	教科書は指定しない。
参考書 （購入任意）	<p>講義中に紹介します。</p> <p>購入の必要はないが、図書館に関連する図書が豊富にあるので、活用すること。</p>

科 目 名	保健医療福祉連携論			
科 目 名 (英 語)	Cooperation Theory in Health and Medical Welfare	シラバスNo.	260020160	
担 当 教 員 名	今野 聖士			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ____ DP3 : ____ DP4 : ◎ DP5 : ____ DP6 : ____			
学 修 到 達 目 標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が”その場にいる”事を示す”multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2 つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>専門職連携の実践者として今後携わっていく上で必要な実践例 (参考となる事例) について触れることで、自身の職における立ち位置や役割を把握するとともに、地域課題や対象者のニーズに触れながら、連携実践に対する具体的なイメージを高めることを目標とする。とりわけ地域社会を対象とした幅広い連携のあり方について学ぶ。また、自身立ち位置や役割 (= 専門職間 (学科間)・専門職内 (キャリアや個人差)) であっても、その時点で持つ知識の分野に差があることについても理解する (キャリアラダー)。</p> <p>このため、①グループワークや実際のカンファレンスの現場で活用出来る情報の整理術・伝え方に関する技術を学ぶ。②様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、グループワークで各専門職の業務や役割を共有するとともに、多職種連携の推進に向けての課題や取組の方向性を明らかにして、保健医療福祉連携に対して総合的かつ幅広い視野を持つことが出来るよう構成する。</p>			
受 講 の 留 意 点	原則 連携協働の基礎、連携協働演習 I の受講を前提とする。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>① 連携実践を行う上での技術や ICT ツールの活用方法等を紹介する。</p> <p>② 様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、それぞれの役割を互いに理解し、そこから多職種連携の実践に向けての課題や取組の方向性について考察する。</p> <p>③ 地域コミュニティあるいは保健医療福祉分野における連携実践の例を複数紹介し、IPW を実践する際の自らの役割や連携協働のあり方について考える。</p> <p>④ 各学科実習・演習等の内容のリフレクションを行い、各専門職間の認識・考え方の理解につなげる。</p> <p>⑤ 事例検討を通じて当事者を含む他職種の (多様な) 考え方を理解する。</p> <p>⑥ 最後にグループワークを実施し、連携教育の総括として、連携実践のイメージを高め、保健医療福祉連携に対して総合的かつ幅広い視野を持てるように講義展開を行う。</p> <p><留意事項> 本講義では対面とオンデマンド配信を組み合わせたブレンディット型開講を行う。また通年8回の開講であるため、開講日の間隔が一定では無い。対面参加・視聴・課題提出漏れに注意すること。グループワーク (対面講義) においては複数日に分散して実施するため、各自が出席すべき日時と教室を把握すること。 講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけでなく、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 学内におけるグループワークを行う。グループワークの実践方法についてもより向上できるよう取り組む。</p>			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション ・講義方法の説明とこれまでの振り返り			

	<p>講義の概要 具体的な受講方法（一部オンライン講義および演習、地域活動） IPE の到達状況（積み上げで期待される成果）</p> <p>連携手法・統合の技術① ・情報集約・統合の具体的手法について学ぶ（ICT 活用等）</p> <p>2 連携手法・統合の技術② ・グループワークを実施し、実際に情報集約を行ってみる</p> <p>3 保健医療福祉連携活動の実践例（オンデマンド） 地域コミュニティあるいは保健医療福祉分野における連携・協働活動の実践例について紹介し、その意義と専門職・個人の能力（立場）の発揮、目に見えない広い意味での連携について考える</p> <p>4 カンファレンス① これまでの活動を踏まえ、学科混成メンバーによるカンファレンスを行う。各活動による学びの共有とこれからの IPW に対して求められる専門職としての能力と個人の資質の関係性等について話し合う。</p> <p>5 リフレクション手法の概説 ・リフレクションを行う際の手法について概説を行う</p> <p>6 実習経験のリフレクション ・グループワークを実施し、自身の実習経験を共有する。その過程で各専門職間の認識・考え方の理解につなげる</p> <p>7 事例検討を行う</p> <p>8 カンファレンス② これまでの活動を踏まえ、学科混成メンバーによるカンファレンスを行う。事例検討を行う中で各専門職間の認識・考え方の違いについて理解し、職種の自覚を持って、共通の目標を設定し、その目標に向かって全員で取り組むことが出来るよう学ぶ</p>
授業時間外学修（予習・復習）の内容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。 講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。</p>
成績評価方法	毎回の小レポート 40 点および最終レポート 60 点により評価する。
教科書（購入必須）	
参考書（購入任意）	

科 目 名	社会福祉概論（看護学科）		
科 目 名（英 語）	Introduction to Social Welfare	シラバスNo.	260020170
担 当 教 員 名	榊原 次郎・小泉 隆文・江連 崇・佐藤 麻衣・真名瀬 陽平		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修
開 講 形 態	講義		
資 格 要 件			
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。その経験を通して、看護師に求められる社会福祉（社会保障）関連の知識等について講義を行う。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：__ DP3：__ DP4：○ DP5：○ DP6：○		
学 修 到 達 目 標	1 社会福祉の基本理念や制度、現状を理解し、保健・医療・福祉における連携の重要性を説明することができる。 2 看護学を専門に学びつつも、一人の生活者として人間の福祉への理解が深まる。		
受 講 の 留 意 点	・看護師に求められる多くの知識の中に社会福祉（社会保障）関連の知識があることを意識し、受講してほしい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	社会福祉の歴史をたどりながら、社会福祉の理念や制度が社会の変化などと相まって発展してきたことを学習し、21 世紀を迎えての社会福祉の動向と課題を現実の中で考察する。また、看護師として知っておくべき生活支援の知識と技術、福祉職との関係についても言及する。		
	アクティブ・ラーニングの内容 授業内で個人ワークおよびグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進する。		
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、看護師に求められる社会福祉の概要（榊原） 2 社会福祉の原理（榊原） 3 社会福祉の歴史（江連） 4 現代社会の福祉（江連） 5 現代社会と専門職（佐藤麻衣） 6 子ども家庭福祉（江連） 7 障害児・者の福祉と教育①（小泉） 8 障害児・者の福祉と教育②（真名瀬） 9 地域福祉（小泉） 10 社会福祉の法と行財政（榊原） 11 社会保障制度（榊原） 12 生活保護制度（小泉） 13 高齢者福祉（榊原） 14 介護保険制度（榊原） 15 医療と社会福祉（榊原）		
授 業 時 間 外 学 修 （予 習 ・ 復 習）の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 授業計画の項目に沿った社会福祉に関する資料を読み込んでおくこと。 授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。 講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること。		
成 績 評 価 方 法	各回のリアクションペーパー（30 点）、定期試験（70 点）によって、総合的に評価する 評価基準は以下の通りとします。 秀：社会福祉制度や相談支援に関する背景・課題を含めて深く説明できる。 優：社会福祉制度や相談支援について正確に説明できる。		

	<p>良：社会福祉制度や相談支援について基本的な仕組みを理解している。</p> <p>可：社会福祉制度や相談支援について用語レベルの理解に留まる。</p> <p>不可：理解が不十分で説明できない。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>大久保秀子『新 社会福祉とは何か 第4版』(中央法規)</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>参考書については別途指示する。</p>

科 目 名	連携協働の基礎			
科 目 名 (英 語)	Fundamentals of Collaborative Work	シラバスNo.	260020180	
担 当 教 員 名	今野 聖士			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ◎ DP5 : ___ DP6 : ___			
学 修 到 達 目 標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が“その場にいる”事を示す“multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2 つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>本学連携教育全体では「地域住民の生活上の課題やニーズに対する幅広いケアを多職種連携で行うこと」を到達目標としている。</p> <p>IPE (専門職連携教育) は、三年間の積み上げ型教育となる。その最初の講義となる「地域との協働 I」では、①IPE の概念および本学の連携教育の特徴である「地域型 IPE」を理解し説明することが出来る②「地域との協働 II」以降地域コミュニティと連携する際の基礎となる本学の歩みと地域との関係性について理解し説明することが出来る③IPE を進める上で基礎的な能力となる、「コミュニケーション能力 (グループワークの基礎技術)」「人物や物事を先入観なく捉え、相手 (地域) に関心を持つ」能力を養成する。</p>			
受 講 の 留 意 点				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>全体講義では IPE に必要な概念の理解、本学連携教育の流れについて解説した後、「地域との協働 II」以降、地域コミュニティとの連携協働の際に必要な本学と地域との関係性について、本学発展の歴史から概観する。次いで複数の教員による多様な内容のゲストトークを視聴し、先入観無く人物を捉え、多様な考え方を受け入れ・理解する素地を養う。また、相手を役職など属性ではなくひとりの「人」として捉え、感心を持つことが出来るような考え方を醸成する。IPE および IPW (多職種連携) において必須のスキルとなるグループワークの進め方について講義・演習する。</p> <p><留意事項></p> <p>本講義では対面とオンデマンド配信を組み合わせたブレンディット型開講を行う。また半期に 8 回の開講であるため、開講日の間隔が一定では無い。対面参加・視聴・課題提出漏れに注意すること。グループワーク (対面講義) においては複数日に分散して実施するため、各自が出席すべき日時と教室を把握すること。</p> <p>講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけでなく、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p>			
授 業 の 計 画	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>グループワークを 2 回実施予定である。IPE および IPW (多職種連携) においてグループワークは必須のスキルであるため、その進め方、参加者としての意識、注意すべき事項等についてカンファレンス演習を行う。</p> <p>1 オリエンテーションと本学のあゆみ ・オリエンテーション IPE の概念と本学連携教育の流れ ・本学の歴史的経緯と地域との関わり 地域コミュニティとの連携活動において基礎となる本学の歴史的経緯と地域との関わりについて</p> <p>2 グループワーク演習：グループワークの進め方 (オンデマンド講義：0.5 コマ) グループワークの進め方について実例を元に事前学習</p>			

	<p>3 グループワーク演習（対面講義） 先のコマで学んだグループワークの進め方を元にグループワーク演習を行う</p> <p>4 多種多様な分野の理解①（オンデマンド講義） 複数の教員から話題提供を受け、物事や人物を先入観なく捉え、多様な考え方を受け入れる素地を養う</p> <p>5 多種多様な分野の理解②（オンデマンド講義） 複数の教員から話題提供を受け、物事や人物を先入観なく捉え、多様な考え方を受け入れる素地を養う（広くて浅い関係性）</p> <p>6 ミニ演習① ・ 10名程度の小グループに分かれ、各教員から2回にわたって話題提供を受ける教員という役職・属性から離れた研究者や地域住民としての一面 先入観の排除、人への関心（深くて狭い関係性）</p> <p>7 ミニ演習② ・ 10名程度の小グループに分かれ、各教員から2回にわたって話題提供を受ける教員という役職・属性から離れた研究者や地域住民としての一面 先入観の排除、人への関心（深くて狭い関係性）</p> <p>8 まとめのグループワーク ・ ミニ演習での学びを中心的な話題としてグループワークを行う グループワーク技術の向上 学びの共有</p>
授業時間外学修（予習・復習）の内容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。 自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。</p>
成績評価方法	<p>毎回の小レポート 40 点、最終レポート 60 点により評価する。</p>
教科書 （購入必須）	
参考書 （購入任意）	

科 目 名	連携協働演習 I			
科 目 名 (英 語)	Interprofessional Practicum I	シラバスNo.	260020190	
担 当 教 員 名	今野 聖士			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ◎ DP5 : ___ DP6 : ___			
学 修 到 達 目 標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が“その場にいる”事を示す“multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2 つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>本学連携教育全体では「地域住民の生活上の課題やニーズに対する幅広いケアを多職種連携で行うこと」を到達目標としている。</p> <p>連携協働演習 I では、これらの定義と全体目標に基づき、以下の2点の能力を養成する。</p> <p>第1に、このIPWの基盤となる“専門職間の成熟した人間関係”を形成する。</p> <p>第2に、「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」できるようになる。</p>			
受 講 の 留 意 点	原則 「連携協働の基礎」の履修を前提とする。ただし諸事情を鑑みて「連携協働の基礎」と同時受講を認めることがある。事前に連携教育委員会へ相談すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>本講義は3つのパートから構成される。</p> <p>①IPW および IPE の概念を講義によって学び、連携協働活動実践の意義・目的について理解する。</p> <p>②少人数・学科混成グループを編成し、テーマ別に連携協働活動実践を行う。連携協働活動実践を実施する際に地域系 IPE として、対人援助職としての自身の視点を持ちつつ、地域コミュニティをフィールドとした実践的活動を行う。その際二つのコアドメインである「協働する職種で患者や利用者、家族、地域にとっての重要な関心事/課題に焦点を当て、共通の目標を設定することができる」、「職種背景が異なることに配慮し、互いに、互いについて、互いから職種としての役割、知識、意見、価値観を伝え合うことができる」および、コア・ドメインを支え合う四つのドメイン「職種としての役割を全うする能力」「自職種を省みる能力」「他職種を理解する能力」「関係に働きかける能力」について学ぶことが出来るよう、ねらいを提示する。</p> <p>1) 教員が提示した大テーマの中から各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する</p> <p>2) グループにおける自らの役割を理解し、分担・協働しながら活動する</p> <p>3) 連携協働活動実践から得た学びを発表・討議し、専門職連携の意義と効果を全体で共有する指導は担当教員のほか、連携協働演習Ⅱを履修する3年生も補助として参加し、活動を円滑に取り組めるよう支援する。</p> <p>③学びを深める共通講義により講義・演習を行う。</p> <p>自らが参加した連携協働活動実践による“一つの学び”に加えて、複数の「地域をフィールドとした連携・協働の実践活動」を講義・演習を通じて学び、その成果を受講者間で共有することで、より多くの事例から IPE を行う。</p> <p>★本講義の目的は「地域をフィールドとして」連携協働活動実践を行う過程において上記の二つの目標を達成しようとするものである。地域で活動すること・交流すること・イベントに参加すること・イベントを成功させることが目的ではない。これらの活動を行う中で、成熟した人間関係を築き、共通目標を共有してそのために協働して活動できる関係性を構築できるよう、行動変容することである。手段が目的化しないように注意深く活動すること。</p> <p><留意事項></p> <p>グループ別の連携協働活動実践では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるた</p>			

	<p>め、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。一部オンライン講義を活用するため対応できる視聴機材を準備しておくこと（詳細はガイダンス等で説明する）。</p> <p>共通講義の開講は週次では無く不定期となるため、随時メールや Moodle 等で連絡を行う。日々大学メールの確認を行うこと。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけで無く、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p>
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 各グループごとに学内外におけるグループワークを行う。地域住民の方と実際に種々の活動を行う。</p>
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義方法の説明、IPE の概念復習 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な受講方法（一部オンラインを含む講義・演習および連携協働活動実践） ・IPW および IPE の概念について講義を行い、今後の連携協働活動実践および共通コンテンツ理解の基盤とする 2 これから連携協働活動実践で学ぶ目的の理解：4 つのコンピテンシーの解説 <ul style="list-style-type: none"> ・連携協働活動実践の目標と自己評価のポイントについて解説する。コンピテンシーの考え方と具体的な到達目標、ルーブリックの使用方法について学ぶ 3 連携協働活動実践の意義と目的についてとグループ分けガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ・連携協働活動実践の意義と目的について講義を実施する。そもそも“地域”とは何であるのか。IPE の実施フィールドとしての地域の意義、大学および地域が連携することの意義について触れながら連携協働活動実践から学生が学ぶべき目的について説明する ・連携協働活動実践を実施するにあたって、グループごとにガイダンスを実施する 目的・方法の説明および日程調整を行う 4- グループ別連携協働活動実践 11 ・グループごとに連携協働活動実践を行う。連携協働活動実践を実施する際、テーマの大項目および地域系 IPE としてのねらいについては担当教員によって提示されるが、具体的な活動内容はグループメンバー自らが主体的に検討するものとする 主に地域コミュニティを対象に、各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する。その検討結果に基づいて調査・分析や企画立案・準備、考察を実施する。活動にあたってはグループにおける自らの役割を理解し、分担・協働しながら活動する 12 グループ別連携協働活動実践のまとめ① 連携協働活動実践から得た学びをグループごとにグループワーク等の方法で共有・ディスカッションを行い、専門職連携の意義と効果をグループメンバー間で共有し、小レポートを作成する 次に、その学びを受講者全体で共有するため、資料作成を行う（活動レポート） 13 グループ別連携協働活動実践のまとめ② 連携協働活動実践から得た学びをグループごとにグループワーク等の方法で共有・ディスカッションを行い、専門職連携の意義と効果をグループメンバー間で共有し、小レポートを作成する 次に、その学びを受講者全体で共有するため、資料作成を行う（活動ボード） 14 共通コンテンツによる学びの拡張 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の「地域をフィールドとした連携・協働の実践活動」の成果を各グループの発表・交流を通じて学ぶことで、より広く・より深い IPE を行う ・まとめて作成した活動ボード及び活動レポートを利用する 15 まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを実施し、連携協働活動実践による学びの共有を行う。先に示した 4 つのコンピテンシーに基づいてルーブリックを用いた自己評価および学びの結果を最終レポートして提出する
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。 自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。</p>
成 績 評 価 方 法	<p>講義にあたっては毎回の小レポート（20 点）、連携協働活動実践においては活動日誌の提出とグループ発表資料の作成状況（40 点）、および最終レポート（40 点）で評価する。</p>
教 科 書 (購 入 必 須)	

参 考 書
(購 入 任 意)

科 目 名	連携協働演習Ⅱ				
科 目 名 (英 語)	Interprofessional Practicum II	シラバスNo.	260020200		
担 当 教 員 名	今野 聖士				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ○ DP5 : ___ DP6 : ◎				
学 修 到 達 目 標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が“その場にいる”事を示す“multi-professional”とは異なり、相互の関係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働関係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間関係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2 つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な関係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>本学連携教育全体では「地域住民の生活上の課題やニーズに対する幅広いケアを多職種連携で行うこと」を到達目標としている。</p> <p>連携協働の基礎、連携協働演習Ⅰにおける学びを踏まえ、①IPW (Inter-professional Work) の基盤となる“専門職間の成熟した人間関係”を形成するためのコーディネーターとして活動できる能力を養成する。②「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」するための環境づくりができる能力を養成する。</p> <p>具体的にはリーダーシップ性、コミュニケーション力、マネジメント力を総合的に高め、フィールド活動に主体的に参加する姿勢を身につけることを目標とする。</p>				
受 講 の 留 意 点					
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>①全体講義でこれまでの連携協働活動実践を振り返り、連携実践をコーディネートするために必要な能力の整理、今後の活動目標を設定する。</p> <p>②「連携協働演習Ⅰ」の連携協働活動実践に連携実践のコーディネーターとして参加し、2年生のサポート役として必要な援助を行う。</p> <p>③中間まとめとしてグループワークを行う。ここまでの連携協働活動実践を振り返り、コーディネート役として実践してきたこと、コーディネートする上での課題・悩み等を共有し、後半の活動に備える。</p> <p>④最終まとめとしてグループワークを行う。1年間の連携協働活動実践を振り返り、コーディネート役として実践できたこと、できなかったことを共有し、全体でどのようにすればよりよいコーディネーションを実施できたのか、議論と共有を行う。その結果を最終レポートとして提出し、成果を受講者間で共有することで学びの共有を行う。</p> <p><留意事項> グループ別の連携協働活動実践では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるため、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。</p> <p>一部オンライン講義を活用する可能性があるため対応できる視聴機材を準備しておくこと (詳細はガイダンス等で説明する)。</p> <p>開講形態および日時が不定期のため、日々大学メールの確認を行うこと。講義ごとの小レポートは自身の考えを記入するだけでなく、必ず他の学生の回答も参照し、共通点および相違点について確認し、学びの共有を行うこと。</p>				
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 各グループごとに学内外における連携協働実践、グループワークを行う。</p>				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション				

	<p>・講義方法の説明 講義の目的（自身の担える役割を増やすイメージ・連携の基礎力に加えて対象者であるコミュニティを意識する） 具体的な受講方法（全体講義および連携協働活動実践への参加、まとめのグループワークのスケジュール等）</p> <p>2 連携協働活動実践ガイダンスおよびチーム分け調整 ・連携協働活動実践を検討し、チーム分けを行う。その際、多数決ではなく、現状において誰がどのチームに属することが最適なのか話し合いで調整を行う</p> <p>3-6 グループ別活動（連携協働実践Ⅰ受講者と一緒に活動） ・グループごとに連携協働活動実践を行う。連携協働活動実践を実施する際、テーマの大項目および地域系 IPE としてのねらいについては担当教員によって提示されるが、具体的な活動内容はグループメンバー自らが主体的に検討するものとする。主に地域コミュニティを対象に、各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する。その検討結果に基づいて調査・分析や企画立案・準備、考察を実施する。活動にあたってはグループにおける自らの役割を理解し、分担・協働しながら活動する。活動にあたっては開講の目的である「専門職間の成熟した人間関係を形成するためのコーディネーターとして活動できる能力」「共通目標を共有し、その共通目標に向かって協働するための環境づくりができる能力」について意識しながら活動を行うこと。</p> <p>7 活動内容の共有 ・中間まとめとしてグループワークを行う。ここまでの連携協働活動実践を振り返り、コーディネーター役として実践してきたこと、コーディネーターとしての課題・悩み等を共有し、後半の活動に備える。</p> <p>8- グループ別活動（連携協働実践Ⅰ受講者と一緒に活動）</p> <p>13 上記 3-6 回と同様である。</p> <p>14 グループ別活動（教員と一緒に活動・個人で準備、支援活動） ・コーディネーター役として活動するため、連携協働実践Ⅰ受講者とは別に教員との打ち合わせや活動の準備作業、連携協働実践Ⅰ参加者の支援を行う時間に充てる。</p> <p>15 最終まとめとしてグループワークを行う。1年間の連携協働活動実践を振り返り、コーディネーター役として実践できたこと、できなかったことを共有し、全体でどのようにすればよりよいコーディネーションを実施できたのか、議論と共有を行う。その結果を最終レポートとして提出し、成果を受講者間で共有することで学びの共有を行う。</p>
授業時間外学修（予習・復習）の内容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回の講義のねらいについて考え、講義受講前における自身の考え方について整理し、メモしておくこと。 各活動を行うにあたって、資料の作成等事前準備を行う 自身の回答のみならず、他の学生の回答を参照し、その共通点および相違点を確認すること。その作業過程において、講義のねらいについて再考し、自身の回答がそのねらいに沿っていたかを自己評価すること。</p>
成績評価方法	講義にあたっては毎回の小レポート（20 点）、地域活動においては活動日誌の提出とグループ発表資料の作成状況（30 点）、自主企画活動日誌の提出（10 点）、および最終レポート（40 点）で評価する。
教科書（購入必須）	
参考書（購入任意）	

科 目 名	公衆衛生学				
科 目 名 (英 語)	Public Health	シラバスNo.	260020210		
担 当 教 員 名	荻野 大助				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ○ DP2 : ◎ DP3 : ___ DP4 : ○ DP5 : ___ DP6 : ___				
学 修 到 達 目 標	公衆衛生学の基本的概念を学び、今日的課題についても、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。				
受 講 の 留 意 点	<p>他の授業科目とも関連する重要な事柄が、それぞれの単元の学習において頻出する。ただ単にキーワードを暗記するのではなく、きちんと内容を理解するよう努めることが大事である。</p> <p>予習は講義前に教科書の赤字キーワードなどを確認しておくこと。課題を取組んだ後は、見直し復習すること。</p> <p>※感染症とその予防（2）は特別講義のため、授業の計画の順番について後日連絡を行う。</p>				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>「公衆衛生学」は、人を社会生活者と捉え、社会や環境との関連から人の健康障害の原因を明らかにし、健康を保持増進し、疾病・障害を予防し、すべての人がよりよく生きる社会の実現に寄与する学問である。健康の概念、公衆衛生の目的について理解し、健康に関連する要因（宿主要因、環境要因、病因）と病気の発生、特に、どのような環境およびライフスタイル（栄養、運動、休養、喫煙、飲酒など）が生活習慣病を引き起こす危険性（リスク）を高めるのかについて学ぶ。さらに、健康指標としての各種の保健統計、健康増進施策、少子高齢化や国民医療費などの今日的課題について、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 自分自身で課題に取り組む</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の歴史 2 疫学の基本事項 3 衛生統計／健康水準・健康指標 4 感染症とその予防 5 食品と栄養 6 生活環境（衣服と住居、水道、廃棄物） 7 医療制度（行政、資源、医療費） 8 地域保健（保健所と市町村保健センター） 9 母子保健（母子保健事業、少子化対策） 10 学校保健 11 生活習慣病 12 難病と精神保健 13 産業保健（労働衛生） 14 健康危機管理（災害と健康） 15 感染症とその予防（2） 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：教科書を事前に目を通す 復習：課題に取り組み、整理ノートを活用して整理する</p>				

成績評価方法	<p>課題（25点）と期末試験（75点）で成績評価を行う ※ 極端に点数（期末試験と課題取組状況）が低い場合は、再試験を行わず再履修となる</p>
教科書 （購入必須）	<p>清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会（2026/2027年）</p>
参考書 （購入任意）	

科 目 名	人間関係論			
科 目 名 (英 語)	Human Relations	シラバスNo.	260020220	
担 当 教 員 名	山本 勝則			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師等として多様な場面での心のケアを実践した経験を有する教員が、対人援助の基盤となる人間関係に関する基本的知識と考え方を教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ○ DP2 : ◎ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ___ DP6 : ___			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係を構築するための基礎的知識を説明できる。 2. 看護における人間関係の意味を説明できる。 3. 自己理解と他者理解、及び人間関係とそれらの関係とを説明できる。 4. 人間関係を形成するための基本的コミュニケーション技法を説明できる。 			
受 講 の 留 意 点	授業中及び授業の前後で、自らの人間関係を振り返る機会が求められるので、積極的かつ真剣に取り組んでください。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	日常生活や社会生活における人間関係、および看護実践の場で生じる患者・家族・医療者との人間関係について、多様な見方考え方を学び、そこで用いられるコミュニケーション技術を授業の内外で体験する。そして、人間関係場面の振り返りを行う。			
	アクティブ・ラーニングの内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の中で、都度指定するテーマ and/or 感想をリアクション/ミニツツペーパーとして記載させ、成績の一部にするとともに、次回の講義で記載内容についてコメントする。 2. 講義の途中で、ペアあるいは少人数での短いディスカッションを取り入れて、体験的理解をめざす。 			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人間関係の基礎：人間関係の枠組み、関係的存在としての人間 2 出会いと自我理解：『我と汝』『自己と他者』 3 社会的相互作用：社会的相互作用の諸相とその影響、アイデンティティ、健康 4 集団と役割：人間関係と社会的役割、役割理論、集団とグループダイナミクス 5 人間関係の生涯発達：新生児から老年期までの人間関係の推移 6 人間関係過程と問題解決過程：場面の再構成としてのプロセスレコード（演習を含む） 7 援助的コミュニケーション：医療の場における面接、ジョイニング 8 人間関係とカウンセリングの基礎：かかわり方とマイクロカウンセリング 9 看護の場における人間関係①：患者・家族との人間関係、患者-看護師関係の諸相 10 看護の場における人間関係②：医療関係者との人間関係及びリーダーシップ、多職種連携 11 人間関係と看護論：ペプロウ看護論、トラベルビー看護論 12 人間関係とケア：ケアとケアリング/ケアとケアリングの理論 13 交流分析①：構造分析、交流パターン分析、ゲーム分析、脚本分析、ストローク 14 交流分析②、アサーション：時間の構造化とエゴグラム、さわやかな自己主張 15 依存と人間関係：依存・共依存・イネイブリング 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 [予習]：シラバスに示した各回の「授業の計画」について自分で調べること（学習時間の目安：60～90分） [復習]：講義内容を振り返るとともに配布された資料、紹介された資料や書籍を読んで学びを深化させること（学習時間の目安：90～120分）			

成績評価方法	<p>1. 毎回の講義のリアクション／ミニツツペーパー（30%）：2×15＝30点 講義のつど提出する</p> <p>2. 毎回の講義の要点を簡潔に記載した小レポート（20%） 期末に提出する（復習と同時に作成するをお勧めします）</p> <p>3. 15回の講義内容から学生がテーマを選んで記載する期末レポート（50%） 講義内容の要約及びそれに対する考察を記載してください</p> <p>5段階評価 S:90点以上、A:80～89点、B:70～79点、C:60～69点、D:59点以下 C以上の評価は単位を認定する。D評価は単位を認めない。ただし、59点以下の場合は再試験（レポート課題の再提出）を行うことがある。</p>
教科書 （購入必須）	教科書は指定しない。
参考書 （購入任意）	<p>講義中に紹介します。</p> <p>購入の必要はないが、図書館に関連する図書が豊富にあるので、活用すること。</p>

科 目 名	疫学				
科 目 名 (英 語)	Epidemiology	シラバスNo.	260020230		
担 当 教 員 名	荻野 大助				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容					
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：___ DP4：___ DP5：___ DP6：___				
学 修 到 達 目 標	疫学に関する基礎概念を知ること。疫学研究デザインの使い分けを知ること。疫学指標（リスクの指標、疾病頻度の指標、スクリーニングの指標）の計算ができること。				
受 講 の 留 意 点	教科書や配布資料をよく読んで、重要事項を整理し、配布した問題集等の計算練習をしておくこと。 計算練習の時は、電卓（関数電卓でも可）を持参すること。 試験の時は、携帯電話・スマートフォン・タブレット・電子辞書・パソコンを使用禁止とする。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	「公衆衛生 Public Health」は人間集団における「疾病の予防」と「健康および QOL の増進」を目指し、「疫学 Epidemiology」はそのためのツールである。疫学の基礎概念・疫学研究デザインの考え方と使い分けについて知り、疫学指標の計算練習をする。				
	アクティブ・ラーニングの内容 自分自身で配布された問題集に取り組み理解を深める				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 疫学の定義・歴史上の疫学の業績 2 疾病の発生原因解明の追及までの流れ 3 疫学指標（1）～「頻度の測定」 4 疫学指標（2）～「頻度の比較」 5 疫学研究を始める前に 6 疫学研究方法の種類・記述疫学（1） 7 記述疫学（2） 8 分析疫学（1）～「横断研究と生態学的研究」 9 分析疫学（2）～「症例対照研究」 10 分析疫学（3）～「コホート研究」 11 介入研究 12 因果関係・交絡因子 13 スクリーニング 14 疾病登録・サーベイランス 15 疫学研究と倫理 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：事前に配布した問題集や教科書の関連した章に目を通す 復習：問題集や講義内に出てきた問題に取り組む</p>				
成 績 評 価 方 法	期末試験（100 点満点）で評価する ※ 極端に点数（期末試験）が低い場合は、再試験を行わず再履修となる。				

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>日本疫学会（監修）『はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第4版』南江堂 授業に必要なプリントはその都度配布する。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>公衆衛生学受講時（1年生）に購入した 清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会</p>

科 目 名	保健医療福祉行政論 I			
科 目 名 (英 語)	Health and Welfare Administration I	シラバスNo.	260020240	
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師の経験を有する教員と行政保健師・病院看護師の経験を有する教員が担当する。保健医療福祉行政で必要とされる法律や制度について解説する。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：__ DP3：○ DP4：◎ DP5：__ DP6：__			
学 修 到 達 目 標	保健・医療・福祉に関する法律や制度などを理解できる。 さまざまな対象者の健康と生活を支える保健医療福祉行政の役割について理解できる。			
受 講 の 留 意 点	これまで学んだ科目の内容との関連を考えながら履修すること。受講後には必ず教科書等を読み、そのつど知識を整理しておくこと。詳細は、開講時に配布するスケジュールを確認すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保健医療福祉行政に関する理念や仕組みを学んだ上で、あらゆる対象者の健康を支えるための根拠となる法律や制度について理解する。 アクティブ・ラーニングの内容 グループワークを取り入れる			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保健医療福祉行政の理念 2 保健医療行政の仕組み 3 社会情勢の変化と保健医療福祉行政の変遷 4 社会保障制度の理念と仕組み 5 医療法と医療提供体制 6 母子保健に関する法律と制度 7 成人保健に関する法律と制度 8 高齢者保健に関する法律と制度 9 地域包括ケアシステムにおける保健師の役割 10 精神保健に関する法律と制度 11 難病保健に関する法律と制度 12 障害者福祉に関する法律と制度 13 感染症対策に関する法律と制度 14 健康危機管理に関する法律と制度 15 保健医療福祉計画と根拠法 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと 復習：教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること			
成 績 評 価 方 法	筆記試験（70 点）・レポート課題（30 点）により評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。			
教 科 書 (購 入 必 須)	野村陽子・加藤典子編『保健学講座 5 保健医療福祉行政論』メヂカルフレンド社			
参 考 書 (購 入 任 意)	藤内修二他編『標準保健師講座別巻 1・保健医療福祉行政論 第 6 版』医学書院 厚生統計協会編『厚生 の 指 標 ・ 国 民 衛 生 の 動 向』厚生統計協会			

科 目 名	保健医療福祉行政論Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Health and Welfare Administration Ⅱ	シラバスNo.	260020250	
担 当 教 員 名	室矢 剛志			
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師・病院看護師の経験を有する教員と行政保健師の経験を有する教員が担当する。保健師が実践している保健医療福祉行政での活動の実際について解説する。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：___ DP3：○ DP4：◎ DP5：___ DP6：___			
学 修 到 達 目 標	保健・医療・福祉に関する法律や制度などを活用して健康課題に応じた活動を実践するプロセスを学習し、保健医療福祉行政における保健師の役割を理解できる。			
受 講 の 留 意 点	これまで学んだ科目の内容との関連を考えながら履修すること。受講後には必ず教科書等を読み、そのつど知識を整理しておくこと。詳細は、開講時に配布するスケジュールを確認すること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保健医療福祉行政の立場から、さまざまな健康課題に応じた活動を展開するために必要な制度や保健医療福祉サービスの立案・実施・評価の流れについて学ぶ。			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループワークを取り入れる			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域保健行政と地方自治の理念 2 地域保健行政の体系 3 地域保健行政の予算の仕組み 4 地域保健行政における保健師の役割(1)-都道府県の保健師活動 5 地域保健行政における保健師の役割(2)-市町村の保健師活動 6 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(1)-母子保健 7 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(2)-成人・高齢者保健 8 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(3)-感染症対策 9 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(4)-健康危機管理 10 保健医療福祉計画の策定と評価 11 保健事業の立案と評価(1)-健康課題の検討 12 保健事業の立案と評価(2)-事業内容の検討(企画の全体像) 13 保健事業の立案と評価(3)-事業内容の検討(保健指導方法) 14 保健事業の立案と評価(4)-評価方法の検討 15 保健事業の立案と評価(5)-立案内容の報告と共有 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習：授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと</p> <p>復習：教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること</p>			
成 績 評 価 方 法	筆記試験（70 点）・レポート課題（30 点）により評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。			
教 科 書 (購 入 必 須)	野村陽子・加藤典子編『保健学講座 5 保健医療福祉行政論』メヂカルフレンド社			
参 考 書 (購 入 任 意)	藤内修二他編『標準保健師講座別巻 1・保健医療福祉行政論 第 6 版』医学書院 厚生統計協会編『厚生指針・国民衛生の動向』厚生統計協会			

科 目 名	福祉環境論			
科 目 名 (英 語)	Welfare environment theory	シラバスNo.	260020260	
担 当 教 員 名	小林 浩			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ◎ DP3 : ○ DP4 : ___ DP5 : ___ DP6 : ___			
学 修 到 達 目 標	<p>高齢者及び傷病者の適切な生活環境の設定や改善に向けて以下を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 療養環境を主体とする福祉住環境改善の場面における社会福祉士や保健師・看護師に期待される役割を理解する。 日常生活動作における基礎的な身体機能と動作の連環を理解する。 高齢者や傷病者の疾病特性を理解し、介護手法や福祉用具、住宅改修のポイントを理解する。 患者（利用者）様の目標課題を分析し、具体的な環境提案ができる。 介護保険制度などの活用法を理解する。 身近な福祉用具や自助具に触れ、対応の可能性を探る。 			
受 講 の 留 意 点	授業中、生活動作分析、平面図作成など課題がある。隣接者との適宜意見交換を行う。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	福祉住環境への理解は、傷病者や高齢者をはじめとする心身機能の低下している方への自立支援や介護予防、介護負担の軽減、事故防止などを図る上で必須の取り組みになる。この住環境対応に向けての支援プロセスにおいては、社会福祉士、保健師・看護師などの保健医療福祉スタッフには、対象者の生活の場に臨んで活動する職種であるがゆえの役割に対する期待がある。対象とする患者（利用者）様、ご家族様、また広く生活者に対し、身体機能の理解や生活動作に求められる動きなどを理解し、住環境に存在している問題・課題を把握し、具体的な対応策を様々な観点から考察し提案できることを目的とする。			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>生活動作の構成及び身体機能の分析、目標とする日常生活動作の分解とアプローチ、生活バリアへの対策検討等</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢期における福祉住環境改善の役割と改善プロセスにおける在宅ケア支援職への期待 2 身体機能の理解（1）動作分析における基礎的な解剖学・運動学 3 身体機能の理解（2）生活動作の分解 4 身体機能の理解（3）生活動作の分解と目標設定の方法 5 建築空間理解のための基礎事項（建築図面、平面記号、動線） 6 住宅平面図作成（演習）住宅及び近隣地域作図 7 住宅平面図作成（演習）住宅改修・福祉用具導入検討 8 バリアフリー化の共通基本手法(1)段差の解消、床材の選択、手すりの取付け 9 バリアフリー化の共通基本手法(2)建具への配慮、スペースへの配慮、家具・収納への配慮 10 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(1)外出、屋内移動（アプローチ・外構、玄関） 11 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(2)屋内移動（廊下、階段、出入口） 12 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(3)排泄（トイレ） 13 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(4)入浴（浴室） 14 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(5)洗面・整容、調理と食事、団らん、就寝（洗面・脱衣室、台所・食堂、居間、寝室） 15 建築空間にかかわる大型福祉用具（段差解消機、階段昇降機、リフト）と介護保険対象の改修工事、福祉用具 			

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (60 分) 授業テーマ及び関連項目の事前学習を行う。 復習 (120 分) 授業内での課題テーマの検討及び授業の復習を行う。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>各課題レポート (100 点) で評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>テキストは指定しない。授業時に資料プリントを配付する。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	

科 目 名	人権と法			
科 目 名 (英 語)	Human Rights and Law	シラバスNo.	260020270	
担 当 教 員 名	栞山 茂樹			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ○ DP2 : ___ DP3 : ___ DP4 : ___ DP5 : ○ DP6 : ◎			
学 修 到 達 目 標	現代日本で話題の人権問題と、その法的争点について理解し、論じられるようになる。 憲法人権分野について、法学の専門的水準の知見を身につける。			
受 講 の 留 意 点	本講義は私の担当科目「日本国憲法」を補完するものでもある(そのため、一部内容が重複することをお断りしておく)。併せて受講することが望ましい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	人権に関する重要判例・トピックをとりあげ、その法的争点を解説していく。現代日本の人権問題について、ジャーナリスティックな時事評論ではなく、法学の専門的見地から議論していく。現代社会では人権理念が普及する一方で、それに反動する民族主義・差別主義等も台頭してきている。その渦中にあるわれわれは、人権についての見識をどれだけ備えているかが試されている。本講義はそのような知見を学ぶ機会である。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	1 講義ガイダンス 2 人権と法制度①：人権思想、人権と実定法 3 人権と法制度②：憲法の基本原則 4 人権と法制度③：人権と憲法上の権利、違憲審査基準 5 外国人の人権①：入管法のしくみとその問題点 6 外国人の人権②：最高裁判例 7 外国人の人権③：ヘイトスピーチ —朝鮮学校襲撃事件、ヘイトスピーチ規制の動向— 8 私人間効力論：三菱樹脂事件、日産自動車事件 9 プライバシー権：グーグル/ツイッター削除請求事件 10 自己決定権：エホバの証人輸血拒否事件、安楽死・尊厳死 11 法の下での平等：婚外子法定相続分違憲決定 12 婚姻の自由：夫婦同氏訴訟 13 LGBTQ+の人権：性同一性障碍特例法違憲決定、同性婚訴訟 14 政治的表現の自由：反戦ビラ事件、ヤジ排除訴訟 15 障害者の人権：旧優生保護法違憲判決			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 ・予習(90分)：指定参考書を読む。 ・復習(90分)：授業に出てきた専門用語とその定義を覚える。条文・判例を読むのに慣れる。講義で出てきた知識事項や判例について、指定参考書や裁判所ホームページ等で調べてみる。			
成 績 評 価 方 法	期末試験(100%)			
教 科 書 (購 入 必 須)	なし。毎回パワーポイントとハンドアウトで講義をおこなう。各自しっかりノートをとること。			

参 考 書
(購 入 任 意)

独習用のテキストとして、以下をすすめる。そのほか、参考文献を随時紹介する。

- ・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』(三省堂、2018)
- ・中村睦男編著『はじめての憲法学 第4版』(三省堂、2021)
- ・棟居快行ほか『基本的人権の事件簿 第7版』(有斐閣、2024) : 旧版も参照。

科 目 名	ソーシャルインクルージョン論		
科 目 名 (英 語)	Social Inclusion	シラバスNo.	260020280
担 当 教 員 名	堀 智久		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択
開 講 時 期		資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <input type="radio"/> DP2 : <input type="radio"/> DP3 : <input type="radio"/> DP4 : <input type="radio"/> DP5 : <input type="radio"/> DP6 : <input checked="" type="radio"/>		
学 修 到 達 目 標	<p>ソーシャルインクルージョンとは、これまで何らかの理由で社会から排除されてきた人、たとえば、障害者や貧困層、高齢者、女性、移民など、社会的不利益を被るすべての人を社会が包摂するという意味である。たとえば、障害者領域では、2006年に障害者権利条約が成立し（日本も2014年に批准）、その第3条「一般原則」では「社会への完全かつ効果的な参加及びインクルージョン」が掲げられている。本講義では、とくに障害者領域を議論の出発点として、障害の社会モデルの考え方やインクルージョンの視点、さらには、障害者に限らず、能力という面において不利な立場に置かれている人が、つつがなく生きていける社会とはどのような社会か。近年問題になっている若者の失業問題や高齢者、女性、移民等の貧困問題等について検討を行い、多角的かつ複眼的な視点から社会的排除について議論を深めていくことをねらいとする。</p>		
受 講 の 留 意 点	配布資料の自己管理をしっかりと行うこと。必ず復習しましょう。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>授業の計画にあるように、前半では、障害の社会モデルや障害者権利条約に見られるインクルージョンの視点など、障害と社会の関係性について、多角的かつ複眼的な視点から学習する。後半では、障害者に限らず、若者、高齢者、女性、移民問題など、貧困や社会的排除について議論を行い、誰もがつつがなく生きていける社会はいかにして構想され得るのかについて、複眼的な視点から考察を深めていく。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 ソーシャルインクルージョン論では、教員による講義形式の学習形態のみならず、ディスカッションやグループワークなどの学習形態を通して、学習者の能動的な参加を求めている。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 社会的排除とは何か 3 障害をどう捉えるのか、社会モデルの考え方 4 障害者権利条約におけるインクルージョンの視点 5 障害者基本法・障害者差別解消法におけるインクルージョンの視点 6 インクルーシブ教育とは何か 7 インクルーシブ教育と日本の特別支援教育の違い 8 戦後日本の社会保障制度システム 9 貧困と社会的排除 10 若者、高齢者、女性、移民問題と社会的排除 11 ケア労働 12 複合差別 13 機会の平等と結果の平等 14 メリトクラシーとハイパーメリトクラシー 15 ベーシックインカム (basic income) 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 90 分：授業内容の理解を高めるため、指定されたテキストの事前学習を行う 復習 90 分：授業内容の理解を高めるため、配布資料の事後学習を行う</p>		

成績評価方法	リアクションペーパー（40点）、レポート課題（30点）、期末試験（30点）
教科書 （購入必須）	テキストについては別途周知する。また、毎回、関連する資料を配布する
参考書 （購入任意）	

科 目 名	医療福祉論			
科 目 名 (英 語)	Medical Welfare	シラバスNo.	260020290	
担 当 教 員 名	榑原次郎			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。 その経験を通して、医療ソーシャルワーカーの援助技術および地域を基盤とする多職種・多機関の 連携・協働について授業を行う。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u> </u> DP3 : <u> </u> DP4 : <u>◎</u> DP5 : <u> </u> DP6 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	①医療福祉領域のソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を学び、保健医療に係 る政策、制度、サービスについて、福祉との関係性を含め理解し習得できるようになる。 ②保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解し、保健医療の中で疾病や 疾病に伴う課題を持つ人に対する、専門職としての適切な支援の実践方法を習得できるようになる。			
受 講 の 留 意 点	保健医療福祉領域の広がり連携に重要な役割を果たす医療ソーシャルワークの業務について、保 健医療サービスの現状について関心を持ち、各種資料や報道される内容を分析し、予習・復習に努 めること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	医療現場における医療ソーシャルワーカー（MSW）の業務理解を通して、活用できるフォーマル・ インフォーマルな社会資源やその連携方法を学ぶ。 病院だけでなく、診療所（クリニック）や在宅医療等地域の中で機能を発揮する MSW の具体的実 践内容を知り、各種実習や社会生活で活用できるコミュニケーションスキル・面接技術を学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 授業ごとに個人ワークおよびグループワークの演習を設け、質疑応答の時間を確保する。毎回授業 終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業時に解説を行い、双方向の授業を推進す る。			
授 業 の 計 画	1 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 2 疾病構造の変化に伴う保健医療の動向 3 保健医療における福祉的課題 4 保健医療の課題を持つ人（病者および家族）の理解 5 医療倫理と保健医療に係る倫理的課題 6 患者の権利と保健医療における意思決定支援 7 保健医療サービスを提供する施設とシステム（地域医療計画・医療施設・保健所の役割） 8 保健医療に係る政策・制度（医療保険制度・診療報酬制度） 9 介護保険制度と地域包括ケア 10 保健医療における社会福祉士の役割 11 医療ソーシャルワーカー業務指針（業務の範囲と方法） 12 保健医療における専門職と多職種連携実践（IPW） 13 地域の関係機関との連携・協働 14 医療ソーシャルワーカーの支援事例（入院中・退院時・災害現場における支援） 15 医療ソーシャルワーカーの支援事例（外来・在宅医療・終末期ケアにおける支援）			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 授業計画の項目に沿った医療福祉に関する資料を読み込んでおくこと。 授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめること。 講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出すること。			
成 績 評 価 方 法	各回のリアクションペーパー（30 点）、定期試験（70 点）によって、総合的に評価する			

	<p>評価基準は以下の通りとします。</p> <p>秀：医療福祉制度や医療ソーシャルワークの背景・課題を含めて深く説明できる。</p> <p>優：医療福祉制度や医療ソーシャルワークについて正確に説明できる。</p> <p>良：医療福祉制度や医療ソーシャルワークについて基本的な仕組みを理解している。</p> <p>可：医療福祉制度や医療ソーシャルワークについて用語レベルの理解に留まる。</p> <p>不可：理解が不十分で説明できない。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>『最新 社会福祉士養成講座 5、保健医療と福祉 (第2版)』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(中央法規) 2025年</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>参考書については別途指示する。</p>

科 目 名	看護学概論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to Nursing Science	シラバスNo.	260020300	
担 当 教 員 名	岡田 郁子			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護の本質、看護提供のしくみおよび護専門職の役割・機能、看護の歴史的経緯、法的基礎など、看護の基本的要素について教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>◎</u> DP3 : <u> </u> DP4 : <u>○</u> DP5 : <u>○</u> DP6 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何か自己の考えを表現することができる。 2. 看護の主要概念である看護、人間、健康、環境について説明できる。 3. 看護の提供システムに関する基礎知識を理解できる。 4. 看護の役割や機能について説明できる。 5. 看護理論の複数のキーワードについて説明できる。 			
受 講 の 留 意 点	自分の考えや創造していく力を養うためにグループで話し合い、プレゼンテーションやディスカッションを通して学びを深めるため、各授業終了後に各自での振り返りを求める。 事前にテキストの該当箇所を読み授業に臨み、授業で学んだことを自身でまとめ理解を深める。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>看護の本質、看護の歴史的経緯・法的基礎、看護提供のしくみなど、看護の基本的要素について理解する。看護の主要概念を理解し、主な看護理論を学ぶ。また、近年の保健医療福祉分野における看護職の役割と機能を理解する。看護の対象である人間を理解し、倫理的態度を学んでいく。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護の各主要概念について調べ、全体で発表し学びを共有する。 ・看護覚え書と看護理論については、各自講読し、グループでまとめ、全体発表し学びを共有する。 			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、看護の変遷—看護の原点、看護の語源 2 看護の変遷—看護の歴史 3 「看護覚え書」からナイチンゲールの述べる看護について (グループワーク) 4 看護の主要概念 看護とは 5 看護の主要概念 看護の対象である人間 6 看護の主要概念 看護における健康、人間と環境の関係 7 ナイチンゲール「看護覚え書」講読の発表 (グループ発表) 8 看護理論の変遷と概要 9 看護理論の講読 (グループワーク) 10 職業的看護の発展 11 看護の役割と機能 12 看護制度と政策、看護サービス 13 看護における倫理・法 14 看護理論の講読 (グループワーク) 発表資料作成 15 看護理論の講読 (グループ発表) 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>事前学修：授業計画に基づき、テキストや副読本を読み事前学修を行う。</p> <p>事後学修：提示されたテーマに基づいて、グループワークの成果や自己の学びをもとに参考図書を用いてレポートを記述し提出する。テキストや配布資料を基に授業内容の復習を行う。</p>			
成 績 評 価 方 法	定期試験 80 点・提出物 20 点の合計点で評価する。提出物の期限は厳守すること。尚、試験 6 割 (48 点) 以上、提出物 6 割 (12 点) 以上を取得した場合に合格となり単位が認定される。			

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>①茂野香おる代表:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 第18版、医学書院 ②フローレンス・ナイチンゲール(湯槇ます・薄井坦子・小玉香津子他訳):『看護覚え書』改訳第8版、現代社 ③ヘンダーソン・V(湯槇ます・小玉香津子訳):看護の基本となるもの、日本看護協会出版会</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>・城ヶ端初子編:新訂版 実践に生かす看護理論 19、サイオ出版</p>

科 目 名	看護技術論			
科 目 名 (英 語)	Nursing Technical Theory	シラバスNo.	260020310	
担 当 教 員 名	岡田 郁子			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態 講 義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護の対象となる人々へ安全で、安楽な、そして自立を促すことを目指した目的意識的な行為である看護技術の特徴について教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>◎</u> DP3 : <u>○</u> DP4 : <u> </u> DP5 : <u>○</u> DP6 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の特徴について説明することができる。 2. 看護技術における安全性・安楽性・自立支援について説明することができる。 3. 根拠に基づいた看護を展開する技術について説明することができる。 4. 看護の専門性と看護技術の発展について説明することができる。 5. 看護技術の修得過程における課題を述べるることができる。 			
受 講 の 留 意 点	<p>自分の考えや創造力を養うためグループで話し合い、発表し学びを深める。</p> <p>事前にテキストの該当箇所を読み授業に臨み、授業で学んだことを自身でまとめ理解を深める。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>看護の対象となる人々へ安全で安楽な、自立を促すことを目指した目的意識をもった行為である看護技術の特徴について理解する。看護技術は、根拠に基づいて、個別性を重視して実践されること、看護技術の修得過程における課題について考察していく。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <p>・実習室において療養環境について安全性・安楽性・自立支援に着目し、グループで検討した後、全体で発表し学びを共有する。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護技術の特徴 2 看護技術の特徴:サイエンスでありアートであるという意味について 3 看護技術の要素:安全性、安楽性、自立支援 4 看護技術の要素:グループワーク 5 看護技術の要素:グループワークの発表 6 看護技術と看護過程 7 看護技術と看護理論 8 看護の専門性と看護技術の発展 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>事前学修：授業計画に基づき、テキストの該当する部分を読み事前学修を行う。</p> <p>事後学修：提示されたテーマに基づいて、グループワークの成果や自己の学びをもとに参考図書を用いてレポートを記述し提出する。テキストや配布資料をもとに授業内容の復習を行う。</p>			
成 績 評 価 方 法	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価する。提出物の期限は厳守すること。尚、試験 6 割 (48 点) 以上、提出物 6 割 (12 点) 以上を取得した場合に合格となり単位は認定される。			
教 科 書 (購 入 必 須)	茂野香おる代表:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第 19 版、医学書院			
参 考 書 (購 入 任 意)	授業中に提示する。			

科 目 名	看護共通技術 I		
科 目 名 (英 語)	Common Nursing Skills I	シラバスNo.	260020320
担 当 教 員 名	齋藤 千秋・岡田 郁子・藤野 正太郎・劉 萌		
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修
開 講 形 態	演習		
資 格 要 件			
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護実践に必要な感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術を教授する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ○ DP2 : ○ DP3 : ◎ DP4 : ___ DP5 : ○ DP6 : ___		
学 修 到 達 目 標	1. 看護実践の基本となる感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術について、科学的根拠を踏まえて説明することができる。 2. 看護実践に共通する感染予防技術、安楽促進技術に関する基本的な看護技術を実施できる。		
受 講 の 留 意 点	この科目は講義、事前学修、演習、事後学修で構成される。講義を受けた上で、事前学修個々に行い、演習に臨み、事後学修としてリフレクションを行うこと。主体的な学修を繰り返して、看護技術を修得することを求める。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定しているため、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づけることを期待する。提示された課題について個人学修をして授業に臨み、また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めること。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	看護の目的を達成するための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本科目においては看護実践に共通して必要な感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学修する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。 アクティブ・ラーニングの内容 学修のねらいに沿ったテーマについて、演習を行い、グループで自分の考えを述べ、全体発表により学び合う。		
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、感染予防技術（感染予防の原則、スタンダードプリコーション） 2 感染予防技術の実際：手洗い、個人防護具の装着① 3 感染予防技術・スタンダードプリコーション（認定看護師） 4 安楽促進技術（安楽の概念、体位保持、ボディメカニクス） 5 安楽促進技術（安楽をもたらす看護技術） 6-7 安楽促進技術の実際：ボディメカニクスの基本、安楽な体位、体位変換 8 安楽促進技術の実際：温電法、冷電法 9- 10 病院見学 11 感染予防技術（感染経路別予防策、感染源対策、滅菌操作） 12- 13 感染予防技術の実際：消毒、滅菌、個人防護具の装着② 14 安全管理技術（看護における安全、ヒューマンエラー） 15 安全管理技術（転倒転落事故、誤薬、患者誤認）		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 事前学修：教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。 事後学修：講義・演習を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなど復習する。		
成 績 評 価 方 法	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価する。尚、試験 6 割（48 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となる。提出物の期限を厳守すること。 以上、定期試験、提出物の全ての合格により単位は認定される。		

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>① 茂野香おる代表：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第19版、医学書院 ② 任和子代表：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第19版、医学書院 ③ 任和子・井川順子編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第4版、医学書院 ④ 茂野香おる代表：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 第18版、医学書院</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術アドバンス、インターメディカ</p>

科 目 名	看護共通技術Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Common Nursing Skills Ⅱ	シラバスNo.	260020330	
担 当 教 員 名	岡田 郁子・齋藤 千秋・藤野 正太郎			
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護実践に必要なコミュニケーション技術、終末期における援助を教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ○ DP2 : ○ DP3 : ◎ DP4 : ___ DP5 : ○ DP6 : ___			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの構成要素について説明できる。 2. 看護場面における効果的なコミュニケーション技法が実施できる。 3. 援助的なコミュニケーションについて自己の課題を説明できる。 4. 死の看取りにおける技術の目的、留意点、方法について説明できる。 			
受 講 の 留 意 点	話し合いやロールプレイを通して体験的に自己理解を深める。自己の傾向や課題に気づき、他者の考えや思いを理解し、援助的人間関係構築のための基礎的コミュニケーション能力を育む。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ロールプレイにより体験を通してコミュニケーションに必要な技法を学び、自己のコミュニケーションの傾向や援助者としてのコミュニケーションスキルをリフレクションし、自己の課題を見出す。 2. 終末期における援助を学ぶ。 			
	アクティブ・ラーニングの内容 学修のねらいに沿ったテーマについて演習を行い、グループで自分の考えを述べあい、全体発表し学びあふ。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、コミュニケーション技術 2 看護職として必要な接遇・マナー 3 看護職として必要な接遇・マナーの実際 4 コミュニケーション技術（看護師と患者の関係、対人関係の成立に不可欠な要素） 5 コミュニケーション技術（コミュニケーションの構成要素と成立過程） 6 コミュニケーション技術（効果的なコミュニケーションの実際） 7 コミュニケーション技術の実際（自身のコミュニケーションを振り返る） 8 コミュニケーション技術の実際（伝える・伝わる経験） 9 コミュニケーション技術の実際（ロールプレイ） 10 コミュニケーション技術の実際（アサーティブなコミュニケーション、グループワーク） 11 コミュニケーション技術の実際（看護場面の再構成：失語症の方とのコミュニケーション） 12 コミュニケーション技術の実際（事例をもとに食事指導の方法をグループで検討する） 13 コミュニケーション技術（自己課題の明確化） 14 死の看取りの技術（悲嘆へのケア） 15 死の看取りの技術（死後のケア） 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 事前学修：授業計画に基づき、テキストの該当する部分を読み事前学修を行う。 事後学修：提示されたテーマに基づいて、グループワークの成果や自己の学びをもとに参考図書を用いてレポートを記述し提出する。テキストや配布資料をもとに授業内容の復習を行う。			
成 績 評 価 方 法	定期試験 50 点と提出物（レポート含む）50 点の合計点で評価する。提出物の期限は厳守すること。尚、試験 6 割（30 点）以上、提出物 6 割（30 点）以上を取得した場合に合格となり、試験・提出物すべての合格により単位は認定される。			

教科書 (購入必須)	①茂野香おる代表:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第19版、医学書院 ②任和子代表:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第19版、医学書院 ③任和子・井川順子編:基礎・臨床看護技術 第3版、医学書院
参考書 (購入任意)	

科 目 名	基礎看護技術 I			
科 目 名 (英 語)	Basic Nursing Skills I	シラバスNo.	260020340	
担 当 教 員 名	岡田 郁子・齋藤 千秋・藤野 正太郎・劉 萌			
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護の対象となる人への興味・関心をもち、生活行動を整えることの意義を理解し、生活援助技術である環境調整、活動と休息、栄養と食生活に関する基本的な看護援助の方法や原理・原則を学び、根拠をもって知識・技術を習得できるよう、看護師として臨床経験を持つ教員が教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>○</u> DP3 : <u>◎</u> DP4 : <u> </u> DP5 : <u>○</u> DP6 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	1. 看護における環境調整の意義と援助方法について説明できる。 2. 人間にとっての活動と休息、栄養と食事の意義とアセスメントの視点、その援助方法について説明できる。 3. 環境調整、活動と休息、栄養と食事に関する基本的な看護技術が実施できる。			
受 講 の 留 意 点	この科目は講義、事前学修、演習、事後学修で構成される。講義を受けた上で事前学修を個々に行い演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行う。 自己学習として看護技術項目の看護技術実践ノート(目的、実施内容、手順、根拠、留意点他)を作成し演習に臨む。学生個々が主体的な学習を繰り返し、看護技術を修得していく。 演習では、実習室を病室・療養の場と考え、主体的な参加とともに援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整え、看護職者としての意識・所作を身につけていく。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	基本的な日常生活援助技術である環境調整、活動と休息、栄養と食生活の援助技術の目的・方法・留意点・根拠を学ぶ。看護の目的を達成するため看護技術を修得する必要がある。また、技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、実践の基盤を学修する。 アクティブ・ラーニングの内容 演習では、事例を活用しながら看護師役・患者役等の役割を担い、目的意識的に技術を修得する。その際、対人援助職としての倫理的側面も意識しながら、主体的に学び、自己の課題を明確化していく。			
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、環境調整技術 2 環境調整技術 3 活動・休息援助技術 4 活動・吸息援助技術・廃用症候群の予防(認定看護師) 5-6 環境調整技術の実際：ベッドメイキング 7 食生活と栄養摂取の技術 8-9 食生活と栄養摂取の技術の実際：食事の援助・口腔ケア 10-11 技術試験(ベッドメイキング) 12-13 環境調整技術の実際：リネン交換 14-15 活動・休息援助技術の実際：車椅子・ストレッチャーの移乗・移送			
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 事前学修：テキストの授業に該当する箇所を読み授業前日までに個人学習する。担当教員が事前に指示する技術実践ノートを作成し提出する。 事後学修：グループ演習の成果をもとにレポートを提出する。また、授業時間内のみの学修では技術修得は困難であり時間外に反復学修(日常生活援助技術の練習)が必要である。事前のアポイントメントにより教員による技術指導も可能である。			
成 績 評 価 方 法	定期試験 60 点、技術試験 20 点、提出物 20 点の合計点で評価する。提出物の期限は厳守すること。尚、試験 6 割 (36 点) 以上、技術試験 6 割 (12 点) 以上、提出物 6 割 (12 点) 以上を取得した場合に合格となり、すべての合格により単位は認定される。			

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>①任和子代表:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第19版、医学書院 ②任和子・井川順子編:根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第4版、医学書院</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>・吉田みつ子・本庄恵子監修:写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ</p>

科 目 名	基礎看護技術Ⅱ		
科 目 名 (英 語)	Basic Nursing Techniques Ⅱ	シラバスNo.	260020350
担 当 教 員 名	齋藤 千秋、藤野 正太郎、劉 萌		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修
			開 講 形 態
			演習
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	清潔・排泄に関する援助技術を根拠に基づき、基本原則を理解し修得する。学んだ知識と技術をもとに、具体的にどのように看護援助を行うか相手の身になって発想豊かに考え、自己研鑽していきけるよう、看護師として実務経験を持つ教員が教授する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>○</u> DP3 : <u>◎</u> DP4 : <u> </u> DP5 : <u>○</u> DP6 : <u> </u>		
学 修 到 達 目 標	1. 人間にとっての清潔・衣生活の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。 2. 人間にとっての排泄の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。 3. 清潔・排泄に関する基本的な看護技術が実施できる。		
受 講 の 留 意 点	この科目は講義、事前学修、演習、事後学修で構成される。講義を受けた上で、事前学修を個々に行い、演習に臨み、事後学修としてリフレクションを行うこと。主体的な学修を繰り返して、看護技術を修得することを求める。自己学修として看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成し、演習に臨むこと。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定しているため、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づけることを期待する。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	看護の目的を達成するための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本科目においては基本的な生活援助技術である清潔、排泄の援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、実践するための基礎を学修する。 アクティブ・ラーニングの内容 演習では事例を活用しながら看護師役・患者役などの役割を担い、目的を意識しつつ技術を修得する。その際、対人援助職としての倫理的側面も意識しながら、主体的に学び自己の課題を明確にしていく。		
授 業 の 計 画	1-2 オリエンテーション、清潔・衣生活の援助技術（清潔の意義、入浴など） 3-4 清潔・衣生活の援助技術の実際：清拭・寝衣交換 5 技術試験 6-7 清潔・衣生活の援助技術の実際：足浴 8-9 清潔・衣生活の援助技術の実際：洗髪 10 排泄の援助技術（排泄の意義、尊厳を踏まえた援助の基本） 11- 12 排泄の援助技術の実際：ベッド上の排泄介助・おむつ交換・陰部洗浄 13 排泄の援助技術（排泄障害と処置が必要な患者の援助） 14- 15 排泄の援助技術の実際：導尿・浣腸		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 事前学修：教科書の該当部分を予習する。教科書を参照し、看護技術実践ノートを作成する。 事後学修：授業内容をまとめる。リフレクションシートを活用し演習を振り返る。		
成 績 評 価 方 法	定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価する。尚、試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となる。提出物の期限を厳守すること。 以上、定期試験、技術試験、提出物の全ての合格により単位は認定される。		

<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>① 任和子代表:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護学Ⅱ 第19版、医学書院 ② 任和子・井川順子編:基礎・臨床看護技術 第3版、医学書院</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>・吉田みつ子・本庄恵子監修:写真でわかる基礎看護技術アドバンス、インターメディカ</p>

科 目 名	基礎看護技術Ⅲ			
科 目 名 (英 語)	Basic Nursing Techniques Ⅲ	シラバスNo.	260020360	
担 当 教 員 名	齋藤 千秋、岡田 郁子、藤野 正太郎、劉 萌			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、検査・診療を受ける看護の対象に、身体侵襲の大きい援助技術を教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>○</u> DP3 : <u>◎</u> DP4 : <u> </u> DP5 : <u>○</u> DP6 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療に伴う援助技術における看護師の役割を説明できる。 2. 栄養、呼吸・循環、創傷管理に関する看護技術について、安全・安楽を配慮した援助方法について説明できる。 3. 栄養、呼吸・循環、創傷管理に関する看護技術を安全・安楽で確実に実施できる。 4. 紙上事例を用いて、看護過程を展開することができる。 			
受 講 の 留 意 点	<p>この科目は講義、事前学修、演習、事後学修で構成される。講義を受けた上で、事前学修を個々に行い、演習に臨み、事後学修としてリフレクションを行うこと。主体的な学修を繰り返して、看護技術を修得することを求める。自己学修として看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成し、演習に臨むこと。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定しているため、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づけることを期待する。</p> <p>事例検討では、提示された課題について個人学修をして授業に臨み、グループワークを通して学びを深める。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>検査・診療を受ける看護の対象に、必要な基本的知識と援助技術、支援・相談的技術を講義・演習により修得する。基本的な援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学修する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 学修のねらいに沿ったテーマについて、演習を行い、グループで自分の考えを述べ、全体発表により学び合う。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、栄養摂取の援助技術 2-3 栄養摂取の援助技術の実際：経鼻胃チューブ経管栄養法 4 栄養摂取の援助技術・摂食嚥下障害看護（認定看護師） 5 呼吸・循環を整える技術（姿勢・呼吸法、酸素吸入療法、吸入療法、気道分泌物排出の方法） 6 呼吸・循環を整える技術（胸腔ドレナージ、人工呼吸療法、末梢循環促進の技術） 7-8 呼吸・循環を整える技術の実際：酸素吸入、気道内加湿法、口腔内・鼻腔内吸引、弾性ストッキング） 9 創傷管理技術 10 創傷管理技術の実際：創傷処置、包帯法 11 創傷管理技術・褥瘡予防のためのケア（認定看護師） 12 看護過程演習：アセスメント 13 看護過程演習：看護上の問題の特定 14 看護過程演習：計画立案 15 看護過程演習：実施・評価 			

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 事前学修：教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。 事後学修：講義・演習を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなど復習する。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>定期試験 70 点、看護過程レポート 20 点、提出物 10 点の合計点で評価する。尚、試験 6 割 (42 点) 以上、看護過程レポート 6 割 (12 点) 以上、提出物 6 割 (6 点) 以上を取得した場合に合格となる。提出物の期限を厳守すること。 以上、定期試験、看護過程レポート、提出物の全ての合格により単位は認定される。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>① 茂野香おる代表:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護学Ⅰ 第 19 版、医学書院 ② 任和子代表:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護学Ⅱ 第 19 版、医学書院 ③ 任和子・井川順子編:基礎・臨床看護技術 第 3 版、医学書院 ④ 渡邊トシ子編:ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく看護 実践看護アセスメント、ヌーベルヒロカワ</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>・吉田みつ子・本庄恵子監修:写真でわかる基礎看護技術アドバンス、インターメディカ ・高木永子監修:看護過程に沿った対症看護 第 5 版、学研 ・松尾ミヨ子・城生弘美・習田明裕編:ナースング・グラフィカ基礎看護学(2) ヘルスアセスメント 第 5 版、メディカ出版</p>

科 目 名	基礎看護技術Ⅳ		
科 目 名 (英 語)	Basic Nursing Techniques Ⅳ	シラバスNo.	260020370
担 当 教 員 名	齋藤 千秋、藤野 正太郎、劉 萌		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修
		資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、検査・診療を受ける看護の対象に、身体侵襲の大きい援助技術を教授する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <input type="radio"/> DP2 : <input type="radio"/> DP3 : <input checked="" type="radio"/> DP4 : <input type="radio"/> DP5 : <input type="radio"/> DP6 : <input type="radio"/>		
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の危機状態と救命救急処置の意義、および看護師の役割を説明できる。 2. 一次救命救急処置を確実に実施できる。 3. 検査の基本的な知識および看護師の役割と検査時の看護における留意事項について説明できる。 4. 血液検査の静脈血採血の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。 5. 与薬に関する基本的な知識および看護師の役割、留意事項について説明できる。 6. 注射法の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。 7. 輸血法に関する基本的な知識および留意事項について説明できる。 		
受 講 の 留 意 点	<p>この科目は講義、事前学修、演習、事後学修で構成される。講義を受けた上で、事前学修を個々に行い、演習に臨み、事後学修としてリフレクションを行うこと。主体的な学修を繰り返して、看護技術を修得することを求める。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定しているため、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づけることを期待する。提示された課題について個人学修をして授業に臨むこと。また、グループワークなどを通して自分自身の考えを深める。</p>		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>検査・診療を受ける看護の対象に、必要な基本的知識と援助技術を講義・演習により修得する。基本的な援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学修する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 学修のねらいに沿ったテーマについて、演習を行い、グループで自分の考えを述べ、全体発表により学び合う。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、救命救急処置 2 救命救急処置の実際：名寄消防署救急隊員 3 検査・治療に関わる技術（検体の採取と扱い方、尿・便検査他） 4 検査・治療に関わる技術（血液検査、血液検体の取り扱い） 5-6 検査・治療に関わる技術の実際：静脈血採血 7 与薬の技術（薬理作用、薬物療法、経口与薬） 8 与薬の技術（外用薬の与薬法） 9 与薬の技術（皮下・皮内・筋肉内注射） 10-11 与薬の技術の実際：注射器・注射針の取り扱い、薬剤の準備、皮下注射 12-13 与薬の技術の実際：筋肉内注射 14 与薬の技術（静脈内注射・点滴静脈内注射、輸血療法） 15 与薬の技術の実際：点滴静脈内注射 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 事前学修：教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。 事後学修：講義・演習を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなど復習する。</p>		

成績評価方法	定期試験 90 点と提出物 10 点の合計点で評価する。尚、試験 6 割 (54 点) 以上、提出物 6 割 (6 点) 以上を取得した場合に合格となる。提出物の期限を厳守すること。 以上、定期試験、提出物の全ての合格により単位は認定される。
教科書 (購入必須)	① 任和子代表:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護学Ⅱ 第 19 版、医学書院 ② 任和子・井川順子編:基礎・臨床看護技術 第 3 版、医学書院
参考書 (購入任意)	・吉田みつ子・本庄恵子監修:写真でわかる基礎看護技術アドバンス、インターメディカ

科 目 名	ヘルスアセスメント			
科 目 名 (英 語)	health assessment	シラバスNo.	260020380	
担 当 教 員 名	岡田 郁子・藤野 正太郎・劉 萌			
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が、ヘルスアセスメントの意義、フィジカルアセスメントに必要な技術（問診・視診・触診・打診・聴診）、系統的なフィジカルアセスメントの知識と技術を教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>◎</u> DP3 : <u>○</u> DP4 : <u> </u> DP5 : <u>○</u> DP6 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントの概念と意義について説明できる。 バイタルサインの基本的な知識と正確な測定方法について説明できる。 バイタルサイン測定が正確に実施できる。 系統的フィジカルアセスメントの基本的な知識と方法について説明できる。 系統的フィジカルアセスメントが実施できる。 事例演習により、健康問題について判断し説明できる。 			
受 講 の 留 意 点	自己学修として、看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成し演習に臨む。学生個々が主体的に練習を繰り返して看護技術を修得していく。 この科目に限らず、これまで修得した知識や技術をもとに、正常・異常の判断の方法、事例により何をどのように観察し情報を得る必要があるか、グループメンバーや教員に相談し考え、基礎的な判断力を身につける努力が必要である。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>血圧測定や聴診・触診・打診などの身体的な情報収集のフィジカルイグザミネーション、それらにより得られた情報をアセスメントするのフィジカルアセスメント、さらに心理的・社会的アセスメントを含んだ全体としてのヘルスアセスメントを学ぶ。患者の状態や日常生活への適用など看護の視点によるアセスメントであり、知識や技術、判断方法を学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 演習では、看護師役・患者役等の役割を担い、問診・フィジカルイグザミネーションによる情報収集、アセスメントを行う。その際、対人援助職としての倫理的側面も意識しながら行う。事例を活用しフィジカルアセスメント、全人的なヘルスアセスメントの視点や方法を理解する。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション、ヘルスアセスメントとは、フィジカルアセスメントにおける技術：問診・視診・触診・打診・聴診 バイタルサイン測定：体温、脈拍、呼吸、血圧、意識 5- バイタルサイン測定の実際：体温、脈拍、呼吸、血圧 6 技術試験：バイタルサインズ測定 7 系統的フィジカルアセスメント：呼吸器 8 系統的フィジカルアセスメントの実際：循環器系 9 系統的フィジカルアセスメント：呼吸器系・循環器系-問診・視診・触診・打診・聴診 10 系統的フィジカルアセスメント：腹部 11 系統的フィジカルアセスメントの実際：腹部-問診・視診・聴診・打診・触診 12 系統的フィジカルアセスメントの実際：事例についてのアセスメント演習 13 系統的フィジカルアセスメント：皮膚・リンパ系、排泄系（認定看護師） 14 系統的フィジカルアセスメント：運動系・脳神経系（認定看護師） 15 系統的フィジカルアセスメント：感覚器系（認定看護師） 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 事前学修：テキストの授業に該当する箇所を読み授業前日までに個人学修する。担当教員が事前に指示する技術実践ノートを作成し提出する。 事後学修：グループ演習の成果をもとにレポートを提出する。また、授業時間内のみの学修では技術修得は困難であり時間外に反復学修が必要である。事前のアポイントメントにより教</p>			

	員による技術指導も可能である。
成績評価方法	定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。提出物の期限は厳守すること。尚、試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となり、すべての合格により単位は認定される。
教科書 (購入必須)	①茂野香おる代表:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第 19 版、医学書院 ②横山美樹:はじめてのフィジカルアセスメント、メヂカルフレンド社 ③任和子・井川順子編:基礎・臨床看護技術 第 3 版、医学書院
参考書 (購入任意)	

科 目 名	看護過程演習			
科 目 名 (英 語)	Nursing process	シラバスNo.	260020390	
担 当 教 員 名	岡田 郁子			
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が、看護実践に必要な看護過程の展開技術を教授し、看護過程の一連のプロセスの理解を深め、事例展開を行い実践に活用するための方法を学ぶ科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>◎</u> DP3 : <u>○</u> DP4 : <u> </u> DP5 : <u>○</u> DP6 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の構成要素とプロセス、看護過程を用いることの意義を説明できる。 2. クリティカルシンキング、リフレクションなど看護過程の基盤となる考え方を説明できる。 3. アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価の看護過程の各段階について基本的な考え方を理解し、事例をもとに看護過程が展開できる。 4. 立案した計画に基づき、対象者の安全・安楽・自立を考慮した個別的な看護ケアを模擬実施し評価、記録ができる。 5. 看護ケアの実施において、コミュニケーション技術、倫理的判断や行動についてリフレクションができる。 			
受 講 の 留 意 点	<p>講義開始までに視聴する動画を指定する。指定したテキストの該当箇所や副読本を読み、予習した内容を自身で考え、説明・提示できるよう準備が必要である。</p> <p>ディスカッションには積極的に参加し、自分の考えを表現し理解を深める。アセスメントに必要な知識を講義の中で確認し、情報を分析した内容について専門用語を用いて表現していく。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>事例をもとにアセスメントを行い、看護上の問題を特定、計画立案、実施、評価について学ぶ。対象者の安全・安楽・自立を考慮した個別的看護ケアを模擬実施する過程では、コミュニケーション技術、倫理的判断に基づいた行動を併せて学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 反転授業を取り入れ、個人学習やグループ学習をもとに意見交換やクラス全体での発表により学びを深め共有する。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護過程構成要素と基盤となる考え方（クリティカルシンキング・リフレクション）、ゴードンの11の機能的健康パターン、アセスメント：健康知覚-健康管理パターン 2 情報収集：病態、検査結果・画像・血液データ、ヘルスアセスメントの視点、コミュニケーション技法の活用について、看護過程の展開における、患者の疾患・病態・治療・検査・看護に関する自己学習方法と情報収集における既習知識・技術の活用について 3 アセスメント：栄養-代謝パターン、排泄パターン、活動-運動パターン 4 アセスメント：睡眠-休息パターン、認知-知覚パターン、自己知覚-自己概念パターン 5 アセスメント：役割-関係パターン、セクシュアリティ-生殖パターン、コーピング-ストレス耐性パターン、価値-信念パターン 6 関連図・全体像、看護上の問題の特定、優先順位の決め方 7 計画立案、実施、臨床判断 8 紙上事例①によるアセスメント・計画立案 9 紙上事例①によるアセスメント・計画立案の発表（文献活用方法含む） 10 紙上事例①の計画に基づく実践：看護計画の評価、看護記録、経過記録 11 情報収集：情報源と情報収集の方法 12 PC画面事例によるアセスメント・計画立案 13 PC画面事例によるアセスメント・計画立案、経過記録の記載、全体でも発表し共有する 14 各自で紙上事例②によるアセスメント・計画立案 15 各自で紙上事例②による実践：経過記録・看護計画評価 			

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 事前学修：ミニレクチャー動画や授業資料、テキストを用いた予習 事後学修：課題や授業資料、テキストを用いた復習</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>定期試験 60 点と看護過程レポート 30 点、提出物 10 点の合計点で評価する。提出物の期限は厳守すること。尚、定期試験 6 割 (36 点) 以上、看護過程レポート 6 割 (18 点) 以上、提出物 6 割 (6 点) 以上を取得した場合に合格となり、全ての合格により単位は認定される。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>①茂野香おる代表:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第 19 版、医学書院 ②渡邊トシ子編:ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 看護実践アセスメント 第 3 版、ヌーヴェルヒロカワ</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・香春知永代表:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 第 8 版、医学書院 ・任和子:病期・発達段階の視点でみる 疾患別看護過程、照林社 ・菅原美樹・瀬戸奈津子監修:基礎と臨床がつながる疾患別看護過程、学研メディカル秀潤社 ・医療情報科学研究所:看護がみえる vol.4 看護過程の展開 第 1 版、メディックメディア

科 目 名	地域看護学概論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to Community Nursing	シラバスNo.	260020400	
担 当 教 員 名	播本 雅津子			
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師の経験を有する教員と行政保健師・病院看護師の経験を有する教員が担当する。地域看護の歴史の変遷およびその定義や理念、目的を学ぶ。様々な場における地域看護活動とその特徴を知り、地域看護の機能と役割について学習する。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u> </u> DP3 : <u>◎</u> DP4 : <u>○</u> DP5 : <u> </u> DP6 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域看護の概念と機能を理解し、健康の保持増進と疾病予防における看護の役割を知る。 ・地域における看護職の活動および求められる役割について説明できる。 ・在宅ケアにおける看護職の活動および求められる役割について説明できる。 			
受 講 の 留 意 点	授業は2人の教員によるオムニバスで進め、一部は協力して進める。欠席や遅刻のないよう健康管理に留意すること。欠席・遅刻時は必ず連絡をすること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>地域包括ケアの時代に応じた地域看護および在宅ケアの視点や方法を学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護学の概念と機能 2 地域看護の歴史 (1) 明治～平成初期 3 地域看護の歴史 (2) 平成～令和 4 地域看護の発展と今後の展望 5 公衆衛生の考え方 (プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション) 6 地域看護を支える専門職と活動の場 (1) 国・保健所・市町村の活動 7 地域看護を支える専門職と活動の場 (2) 産業保健・学校保健 8 地域看護を支える専門職と活動の場 (3) 訪問看護 9 継続看護と退院調整 10 地域包括ケアシステムと多職種連携 11 地域で療養する人々に関する制度 1) 介護保険 2) 高齢者虐待防止 12 地域で療養する人々に関する制度 3) 医療保険 4) 障害者支援 13 在宅療養者の権利擁護と倫理 14 災害時の看護活動 (自然災害・感染症蔓延時) 15 まとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：社会のニュース、地域社会の情報について常に興味を持って暮らすこと 復習：授業に関する教科書および資料を読んでおくこと。また関連する社会や地域の情報を確認すること。</p>			
成 績 評 価 方 法	筆記試験 100 点で評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	和泉京子、上野昌江編集 公衆衛生看護学 第4版 (中央法規)			

参 考 書 (購 入 任 意)	厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生統計協会 河野あゆみ編 新体系看護学全書 地域・在宅看護論 第6版 メヂカルフレンド社
----------------------------	---

科 目 名	地域看護活動論 I			
科 目 名 (英 語)	Activity of Community Nursing I	シラバスNo.	260020410	
担 当 教 員 名	播本 雅津子			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師の経験を有する教員、および行政保健師・病院看護師の経験を有する教員が担当する。 この科目では地域住民を対象とした看護実践に必要な基本技術について学習する。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ○ DP2 : ○ DP3 : ◎ DP4 : ○ DP5 : ○ DP6 : ____			
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らす人々を理解するための地域診断の要素について説明できる。 ・家庭訪問に必要な基本的留意事項について説明できる。 ・電話相談の特徴を知り、電話対応の留意事項について説明できる。 			
受 講 の 留 意 点	欠席や遅刻のないよう健康管理に留意して下さい。欠席・遅刻時は必ず連絡をして下さい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>地域看護活動の基本となる地域診断および家庭訪問の基本技術等について学習する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 PBL 型のグループワークおよびロールプレイを取り入れて実施する。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 地域看護活動に必要な技術について 2 地域診断：コミュニティ・アズ・パートナーモデルについて 3 コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域紹介① 4 コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域紹介② 5 啓発活動：ポピュレーションアプローチについて 6 ポピュレーションアプローチの実際 7 地域診断・啓発活動演習① グループ分けとテーマ選定 8 地域診断・啓発活動演習② テーマ別基本学習その1 9 地域診断・啓発活動演習③ テーマ別基本学習その2 10 地域診断・啓発活動演習④ 報告会準備 11 地域診断・啓発活動報告会 テーマ別学習の共有 12 家庭訪問活動の基礎 13 家庭訪問活動の応用 14 電話相談の基礎 15 電話相談の応用 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：グループ演習では講義時間に示された準備を行い、教員に個別指導を受けること。 復習：グループ演習では講義時間に引き続き、教員に個別指導を受けること。</p>			
成 績 評 価 方 法	筆記試験 80 点、レポート試験 20 点で評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。			
教 科 書 (購 入 必 須)	和泉京子、上野昌江編集 公衆衛生看護学 第4版（中央法規）			
参 考 書 (購 入 任 意)	なし			

科 目 名	地域看護活動論Ⅱ				
科 目 名 (英 語)	Activity of Community Nursing Ⅱ	シラバスNo.	260020420		
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師の経験を有する教員、および行政保健師・病院看護師の経験を有する教員が担当する。 この科目では地域住民を対象とした看護実践に必要な基本技術について学習する。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ○ DP3 : ◎ DP4 : ○ DP5 : ○ DP6 : ____				
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らす人々を対象とした看護技術について理解できる。 ・健康相談・健康教育に必要な技術や態度について説明できる。 				
受 講 の 留 意 点	欠席や遅刻のないよう健康管理に留意して下さい。欠席・遅刻時は必ず連絡をして下さい。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	地域看護活動のうち、集団への健康教育および個人・家族への健康相談や問診・面談等の技術について演習を通して学習する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループワークおよびロールプレイを取り入れて実施する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 地域で暮らす人々を対象とした看護活動 2 健康教育について 3 演習：健康教育 先輩によるデモンストレーション 4 演習：健康教育① グループ分けとテーマ選定 5 演習：健康教育② テーマ別基本学習 情報収集 6 演習：健康教育③ テーマ別基本学習 媒体と原稿の作成 7 演習：健康教育④ 報告会準備 8 健康教育報告会 テーマ別学習の共有 9 康相談・問診について 10 演習：健康相談・問診① グループ分けとテーマ選定 11 演習：健康相談・問診② テーマ別基本学習 情報収集 12 演習：健康相談・問診③ テーマ別基本学習 原稿作成 13 演習：健康相談・問診④ 報告会準備 14 健康相談・問診報告会 テーマ別学習の共有 15 まとめ 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間				
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：グループ演習では講義時間に示された準備を行い、教員に個別指導を受けること。 復習：グループ演習では講義時間に引き続き、教員に個別指導を受けること。				
成 績 評 価 方 法	筆記試験 80 点、レポート試験 20 点で評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	和泉京子、上野昌江編集 公衆衛生看護学 第4版（中央法規）				
参 考 書 (購 入 任 意)	なし				

科 目 名	在宅看護活動論 I			
科 目 名 (英 語)	Methods of Home Care Nursing I	シラバスNo.	260020430	
担 当 教 員 名	播本 雅津子、室矢 剛志			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師および保健師として地域・在宅看護に関する実務経験を持つ教員が、在宅看護活動に関する具体的な支援方法や技術、セルフケア能力に着目した指導、家族ケアを中心に、在宅看護活動の基本的な方法論について指導する科目である。			
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <input type="radio"/> DP2 : <input type="radio"/> DP3 : <input checked="" type="radio"/> DP4 : <input type="radio"/> DP5 : <input type="radio"/> DP6 : <input type="radio"/>			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の生活について理解できる。 2. 在宅療養者とその家族に必要な生活援助を考えることができる。 3. 在宅看護に必要な生活援助技術を取得することができる。 4. 対象別在宅療養者の看護について理解できる。 			
受 講 の 留 意 点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護は、応用看護学領域である。そのため、既習の看護学領域での基礎知識と関連させながら在宅看護の特徴を踏まえて学んでいくことを期待している。 2. 講義やグループワークなどを通して、主体的に考え自ら学びとる姿勢で臨む姿勢で臨むこと。 			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象と基盤となる概念をもとに、在宅療養者の生活を支える看護について考え技術を学ぶ。 2. 在宅看護における医療管理と医療依存度が高い療養者への看護について学びを深める。 <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク等を取り入れることで、個人およびグループ間で視野を広げて問題解決能力を養う。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 在宅看護について 2 在宅看護の対象と基盤となる概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護の対象と背景 3 2) 在宅看護における援助技術 4 訪問看護の実際 5 訪問看護において必要な倫理と態度 「対象を取りまく様々な場面での看護活動」 <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者の尊厳を守るコミュニケーション 6 2) 訪問看護に必要な看護倫理 <ol style="list-style-type: none"> 3) 訪問の準備とマナー 7 在宅療養生活を支える看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 食事と栄養 8 2) 在宅栄養療法を行う療養者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅中心静脈栄養 (HPN) の基礎知識と実際 ・在宅経腸栄養法の基礎知識と訪問看護の実際 9 3) 清潔と排泄 10 在宅看護での看取りと訪問看護師の役割 11 在宅における医療依存度が高い方への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性呼吸疾患のある療養者の看護の実際 2) 在宅酸素療法 12 3) 人工呼吸器療法 			

	<p>1 3 在宅療養を可能とする医療機器演習</p> <p>1) 医療機器管理と在宅療養者への提供実際と他職種連携</p> <p>1 4 2) 在宅酸素療法と在宅人工呼吸器療法①</p> <p>1 5 在宅酸素療法と在宅人工呼吸器療法②</p>
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間
	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習 (30 分) 各回の講義に関する内容について、主に教科書を用いて予習を行い、解決したい内容や疑問点を明らかにして講義に臨むこと。</p> <p>復習 (30 分) 講義後は、教科書およびレジュメ、配布資料を振り返り知識を定着させること。さらに、学びを深め広げるためには、当事者および介護者の手記、訪問看護師や在宅医師の著書など幅広い読書も推奨する。</p>
成績評価方法	<p>評価 定期試験期間中に筆記試験 100 点で評価する。</p> <p>秀 : 90 点以上、優 : 80-89、良 : 70-79、可 : 60-69、不可 : 59 点以下とし、可以上の評価で単位を認定する。</p>
教科書 (購入必須)	<p>河野あゆみ編 : 新体系看護学全書 地域・在宅看護論.メジカルフレンド社</p> <p>石垣和子・上野まり編 : 在宅看護論 南江堂</p>
参考書 (購入任意)	<p>河原加代子著 : 系統看護学講座統合分野 「地域在宅看護論」医学書院</p> <p>渡辺裕子監修 : 家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 日本看護協会出版会</p>

科 目 名	在宅看護活動論Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Methods of Home Care Nursing II	シラバスNo.	260020440	
担 当 教 員 名	未定			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師および保健師として地域・在宅看護に関する実務経験を持つ教員が、在宅看護活動に関する具体的な支援方法や技術、セルフケア能力に着目した指導、家族ケアを中心に、在宅看護活動の基本的な方法論について指導する科目である。			
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <input type="radio"/> DP2 : <input type="radio"/> DP3 : <input checked="" type="radio"/> DP4 : <input type="radio"/> DP5 : <input type="radio"/> DP6 : <input type="radio"/>			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全てのライフサイクルにおける在宅療養者とその家族への支援を理解する。 2. 在宅療養者における口腔ケアの必要性を理解し支援技術を学び実践することができる。 3. 地域・在宅看護における看護過程を展開し支援方法を考え実践することができる。 4. 地域包括ケアシステムにおける在宅ケアを支える他職種、他機関の役割や連携および協働について考えることができる。 			
受 講 の 留 意 点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護は、応用看護学領域である。そのため、既習の看護学領域での基礎知識と関連させながら在宅看護の特徴を踏まえて学んでいくことを期待している。 2. 講義やグループワークなどを通して、主体的に考え自ら学びとる姿勢で臨む姿勢で臨むこと。 			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>地域で生活する在宅療養者やその家族の生活および健康上の課題は多様であるため、支援にも様々な方法により展開していくことが求められる。その中で、医療処置等の必要な在宅療養者について理解し、看護過程の展開を通して対象に応じた日常生活援助の技法について考え実践能力を養う。また、地域包括ケアシステムにおける多職種・他機関との連携や協働についても演習を通して学びを深めていく。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 グループワーク等を取り入れることで、個人およびグループ間で視野を広げて問題解決能力を養う。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 在宅看護における看護過程 1)在宅看護における看護過程とは 2) 在宅における看護過程の意義 3) 看護過程の展開 3 在宅看護における看護過程の展開演習ガイダンス 事例を通して対象者の理解し看護過程を展開し支援内容を検討する グループワーク 4 1) 情報収集とアセスメント 5 2) アセスメント：事例の分析と判断 6 3) 関連図を作成して対象の問題点および課題を整理する 7 4) 対象者とその家族が利用している社会資源と多職種を整理する 8 5) 看護計画立案：具体的な支援方法を検討しながら計画案を導く 9 在宅療養生活を支える看護技術演習:創意工夫による支援の展開 10 1) 立案した看護計画の支援の展開を通して、支援内容、方法および技術を検討する 11 ロールプレイと意見交換および全体討議 2) 在宅療養生活を支える看護師の姿勢や看護技術について理解を深める 12 看護過程の展開および実践を通して、事例から以下の視点を考える 13 1) 在宅看護における多職種・他機関の役割と機能 2) 在宅看護における多職種・他機関との連携・協働方法 14 在宅療養者への様々な支援 1 他職種の役割と支援 知識編 1) 在宅で療養する障がい者,摂食・嚥下障害,高齢者への口腔ケアの実際のその意義 15 在宅療養者への様々な支援 2 技術編 2) 口腔ケアの実際 			
授 業 時 間 外 学 修	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間			

<p>(予習・復習)の内容</p>	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習(30分) 各回の講義に関する内容について、主に教科書を用いて予習を行い、解決したい内容や疑問点を明らかにして講義に臨むこと。 復習(30分) 講義後は、教科書およびレジュメ、配布資料を振り返り知識を定着させること。 さらに、学びを深め広げるためには、当事者および介護者の手記、訪問看護師や在宅医師の著書など幅広い読書および新聞記事に関心を持つことも推奨する。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>評価 定期試験期間中に筆記試験 80点と演習課題 20点で評価する。 なお、筆記試験および演習得点それぞれ、60%以上の点数を取得して単位認定とする。 成績は、合計得点で以下の通り評価する 秀: 90点以上、優: 80-89、良: 70-79、可: 60-69、不可: 59点以下とし、可以上の評価で単位を認定する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>河野あゆみ編: 新体系看護学全書 地域・在宅看護論.メジカルフレンド社 石垣和子・上野まり編: 在宅看護論 南江堂</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>上田泉編集: 在宅看護過程演習—アセスメント・統合・看護計画から実施・評価へ(改訂版) クオリティケア 河原加代子著: 系統看護学講座統合分野 「地域在宅看護論」医学書院 渡辺裕子監修: 家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 日本看護協会出版会</p>

科 目 名	成人看護学概論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to Adult Nursing	シラバスNo.	260020450	
担 当 教 員 名	長谷部 佳子・南山 祥子			
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 看護師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医療の実践、および実践に必要な知識について講義する。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：○ DP4：○ DP5：○ DP6：○			
学 修 到 達 目 標	1. 個人としての成人期の身体的・精神的・社会的特徴、および集団としての国民衛生の動向やそれに関連した諸制度・政策について理解を深めることができる。 2. 知識と諸理論を活用しながら、成人を対象とした看護におけるアセスメント方法を習得することができる。			
受 講 の 留 意 点	成人期の対象者を看護する際には、対象者を取り巻く家族環境や社会・医療情勢など背景要因の分析が欠かせない。日頃から新聞などに目を通すとともに、両親や祖父母などの生活行動に高い関心を寄せると、講義内容の理解が深まる。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	ライフサイクルにおける成人の位置づけと、対象者を取り巻く生活環境、社会環境、保健医療情勢、および看護の礎となる概念や理論について学ぶ。グループワークなどの演習を通じて、学んだ知識を活かしたアセスメント方法を習得する。 アクティブ・ラーニングの内容 成人を対象とした看護について、グループ・ワーク、グループ・ディスカッションを行う。			
授 業 の 計 画	1 成人看護学の位置づけと特徴、成人期にある人の特徴 2 成人の生活と健康問題 3 保健・医療・福祉システムの概要 4 保健・医療・福祉システムの連携 5 成人保健の動向（人口静態、人口動態） 6 成人保健の動向（保健増進対策、感染症対策） 7 成人看護学で用いる概念と理論①ニード論、ケアリング・アンドラゴジー、エンパワメント 8 成人看護学で用いる概念と理論②自己効力理論、危機理論、ストレス理論、セルフケア 9 成人看護学で用いる概念と理論③ロイの適応モデル、死の受容理論、病みの軌跡、など 10 先進医療と看護 11 リハビリテーションと看護 12 老年期に向かう過程での身体機能の変調 13 終末期医療 14 患者と家族への教育支援 15 多様なケア環境とチーム医療、看護における倫理および法的責任			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：各章に関連する教科書を読み込んでおく。 復習： ①講義内容を振り返りノートにまとめる。 ②レポート課題作成に取り組む。			
成 績 評 価 方 法	評価方法：レポートは、後期定期試験日前に提出する。試験は、後期定期試験日に実施する。 評価割合：定期試験 70%、レポート 30% 評価基準：定期試験は、長谷部 40 点、南山 30 点を合わせて 70 点満点で評価する。 レポートは、長谷部 15 点、南山 15 点を合わせて 30 点満点で評価する。 総合成績は、定期筆記試験 70 点、レポート 30 点、を合わせて 100 点を満点とする。 評点は、秀 90 点以上、優 80 点以上 90 点未満、良 70 点以上 80 点未満、可 60 点以上 70 点未満			

	及び不可 60 点未満とする。
教科書 (購入 必須)	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論、医学書院 成人看護学概論 第 3 版、ヌーヴェルヒロカワ 厚生指標 増刊 国民衛生の動向、厚生労働統計協会
参考書 (購入 任意)	

科 目 名	成人看護活動論 I		
科 目 名 (英 語)	Methods of Adult Nursing I (Acute)	シラバスNo.	260020460
担 当 教 員 名	長谷部 佳子・大久保 未央		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修
		資 格 要 件	看護師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、主として急性期治療を受ける患者に対する看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為における看護実践について、演習も行いながら系統的に講義を展開する。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：◎ DP4：○ DP5：○ DP6：__		
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性的な健康障害をもつ人々とその家族の特徴を捉え、その人らしく生活するための自己管理や生活の再構築にむけた援助方法を理解することができる。 2. ライフサイクル上の身体的・精神的背景をふまえた看護過程の展開について理解し実践することができる。 3. 急性疾患をもつ人の事例について、科学的根拠をもったアセスメントを行い、個別性のある看護計画を立案することができる。 4. 急性疾患をもつ人への看護実践について、基礎知識に基づく根拠をもって自分の考えを述べるることができる。 		
受 講 の 留 意 点	すでに履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学Ⅰ）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論）で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくこと。看護過程は、講義で説明を受けた内容をもとに主体的に考えすすめていくことを求める。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>急性的な身体症状や機能障害を発症した人々とその家族が、生体侵襲の大きい検査や手術療法を受け入れながら健康を回復していく過程を支えるうえでの看護の役割、援助の方法について学ぶ。また、セルフケアを支援する観点から教育的アプローチや QOL を重視した支援についての知識と援助方法についても学習する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 演習毎に、周手術期の看護技術や看護実践についてグループ・ワーク、グループ・ディスカッションを行う。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 今日の外科学看護の特徴と課題、外科学医療の基礎 2 外科的治療を要する疾患・症状、外科的治療を支える分野①(麻酔など) 3 外科的治療を支える分野②(手術体位、呼吸管理) 4 外科的治療を支える分野③(体液管理、栄養管理、輸血) 5 疼痛・苦痛の評価方法と看護、外科学治療の実際① 6 外科治療の実際②と救急看護の基礎 7 周手術期看護の概論 8 手術前の患者の看護① 9 手術前の患者の看護② 10 手術後の患者の看護① 11 手術後の患者の看護② 	<ol style="list-style-type: none"> 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 	<p>看護過程③(看護問題の抽出と整理、順位付け)【演習】</p> <p>看護過程④(看護計画の立案)【演習】</p> <p>看護過程⑤(看護計画の評価・修正)【演習】</p> <p>周手術期に必要な看護技術、および個別的な看護計画とその実践【演習】</p> <p>腎/泌尿器系の手術を受ける患者の看護の実際</p> <p>外科的治療・集中治療に用いられる器具・装置の取り扱い①(挿管器具、各種モニターなど)【演習】</p> <p>外科的治療・集中治療に用いられる器具・装置の取り扱い②(各種ドレーン、低圧持続吸引器など)【演習】</p> <p>手術/検査を受ける対象者への看護の実際①(病床環境の準備)【演習】</p> <p>手術/検査を受ける対象者への看護の実際②(全身の観察)【演習】</p> <p>手術/検査を受ける対象者への看護の実際③(輸液管理)【演習】</p> <p>手術/検査を受ける対象者への看護の実際④(栄養管理)【演習】</p>

	<p>12 集中治療を受ける患者の看護①</p> <p>13 集中治療を受ける患者の看護②</p> <p>14 看護過程①（急性期領域の考え方、理論の活用、看護診断名）【演習】</p> <p>15 看護過程②（記録用紙の書き方、事例の説明、情報の分析と統合）【演習】</p>	<p>27 手術中の看護の実際①（滅菌ガウンや滅菌手袋装着）【演習】</p> <p>28 手術中の看護の実際②（創傷処置、ストーマパOUCH管理）【演習】</p> <p>29 手術中の看護の実際③（弾性ストッキング、フットポンプ着用など）【演習】</p> <p>30 手術後の患者の地域・在宅療養への移行に向けた看護の実際、手術を受ける高齢者の看護の実際</p>
授業時間外学修（予習・復習）の内容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習：各講義に該当する教科書のページを読み込んでおく。関連する看護問題や技術手順、留意事項や質問事項等について調べノートに整理しておく。</p> <p>復習：講義内容を振り返りノートにまとめ、課題レポートを作成する。</p>	
成績評価方法	<p>評価方法：期末試験と課題レポート（※定期試験前に提出）で行う。</p> <p>評価割合：期末試験 70%・課題レポート 30%とする。</p> <p>評価基準：期末試験とレポートを合算した 100 点を満点として評価する。</p> <p>評点は、秀 90 点以上、優 80 点以上 90 点未満、良 70 点以上 80 点未満、可 60 点以上 70 点未満及び不可 60 点未満とする。</p>	
教科書（購入必須）	<p>（臨床治療学 I で購入済）</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院</p> <p>新訂版 看護技術ベーシックス 第 2 版、サイオ出版</p> <p>今日の治療薬 2026 解説と便覧、南江堂</p>	
参考書（購入任意）	<p>（臨床治療学 I で購入済）</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6]内分泌・代謝、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7]脳神経、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院</p> <p>今日の治療薬 解説と便覧、南江堂</p>	

科 目 名	成人看護活動論Ⅱ		
科 目 名 (英 語)	Methods of Adult Nursing II (Chronic)	シラバスNo.	260020470
担 当 教 員 名	南山 祥子・松浦 真理		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修
開 講 形 態	演習	資 格 要 件	看護師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、主として慢性期治療を受ける患者に対する看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為における看護実践について、演習も行いながら系統的に講義を展開する。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：◎ DP4：○ DP5：○ DP6：__		
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な健康障害をもつ人々とその家族の特徴を捉え、その人らしく生活するための自己管理や生活の再構築にむけた援助方法を理解することができる。 2. ライフサイクル上の背景をふまえた看護過程の展開について理解することができる。 3. 慢性疾患をもつ人の事例について、科学的根拠をもったアセスメントを行い、個別性のある看護計画を立案することができる。 4. 慢性疾患をもつ人への看護実践について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。 		
受 講 の 留 意 点	すでに履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学Ⅰ）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ）で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくこと。看護過程は、講義で説明を受けた内容をもとに主体的に考えすすめていくことを求める。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>慢性的な身体機能障害を持ちながら生活する人々とその家族が、症状をコントロールし、障害と生活の制限を受け入れながら健康的な生活を営むことを支える看護の役割、援助の方法について学ぶ。また、セルフケアを支援する観点から教育的アプローチや QOL を重視した支援についての知識と援助方法について学習する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 演習時には、慢性疾患をもつ人への看護実践についてグループ・ワーク、グループ・ディスカッションを行う。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、慢性疾患をもつ人の看護過程 2 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開① 3-4 呼吸器系の障害をもつ人への看護 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患など 5-6 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開②【演習】 7-8 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護①—糖尿病 9-10 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開③【演習】 11 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護②—糖尿病 12 消化器系の障害をもつ人への看護 慢性肝炎、肝硬変 13-14 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開④【演習】 15-16 脳・神経系の障害をもつ人への看護 —脳梗塞、筋委縮性側索硬化症 	<ol style="list-style-type: none"> 17 18 19 20 21-22 23-24 25-26 27-28 29 30 	<p>慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑤【演習】</p> <p>慢性腎臓病患者への看護、透析療法を受ける患者の看護</p> <p>慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑥【演習】</p> <p>がん患者への看護①—がん患者の特徴、放射線患者の看護</p> <p>慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑦【演習】</p> <p>代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護③【演習】自己血糖測定</p> <p>代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護④【演習】退院指導（ロールプレイング）</p> <p>慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑧【演習】</p> <p>がん患者への看護②—緩和ケアについて～認定看護師</p> <p>がん患者への看護③—化学療法を受ける患者の看護～認定看護師</p>
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：各章に関連する教科書を読み込んでおく。看護過程のアセスメントに活用する疾患の病態、検査、治療、看護について調べノートに整理しておく。 復習：講義内容を振り返りノートにまとめ、看護過程は講義・演習時の説明を取り入れて、随時</p>		

	追加・修正する。
成績評価方法	<p>評価方法：看護過程は講義・演習毎に追加、修正し、前期定期試験前週に提出する。 レポートは、自己血糖測定、退院指導（ロールプレイング）の演習後に提出する。 試験は、前期定期試験日に実施する。</p> <p>割合：看護過程 30 点、レポート 10 点、定期試験 60 点</p> <p>評価基準：看護過程は、追加・修正状況・内容 10 点、演習の取り組み方 5 点、最終提出記録の内容 15 点の合わせて 30 点満点で評価する。 レポートは、自己の振り返り 7 点、学び 3 点の合わせて 10 点満点で評価する。 総合成績は、看護過程 30 点、レポート 10 点、定期筆記試験 60 点を合わせて 100 点を満点とする。</p> <p>評点は、秀 90 点以上、優 80 点以上 90 点未満、良 70 点以上 80 点未満、可 60 点以上 70 点未満及び不可 60 点未満とする。</p>
教科書 (購入必須)	<p>鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改定第 4 版 南江堂 江川 隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 [第 6 版]、 ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 別巻 がん看護学、医学書院</p>
参考書 (購入任意)	<p>(臨床治療学 I で購入済)</p> <p>系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[2]呼吸器、医学書院 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[5]消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[6]内分泌・代謝、医学書院 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[7]脳神経、医学書院 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院 今日の治療薬、南江堂</p>

科 目 名	老年看護学概論			
科 目 名 (英 語)	Gerontological Nursing	シラバスNo.	260020480	
担 当 教 員 名	高橋 智美			
学 年 配 当	2	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の意義と役割、老年期を生きる方の特徴とともに老年看護の実践に必要な知識について指導する。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>◎</u> DP3 : <u>○</u> DP4 : <u>○</u> DP5 : <u>○</u> DP6 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	1.老年期の発達とその課題について身体・精神・社会面から理解できる。 2.老年期を生きる人の生活と健康の特徴を理解できる。 3.老年期を生きる人とその家族が地域で生活するためのケアシステムについて理解できる。 4.老年看護における倫理的課題について理解できる。			
受 講 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を理解するために以下の2つのグループワーク及び発表を実施する。 ・高齢者の身体的・精神的・社会的特徴 ・急性・慢性疾患に付随する症候アセスメント 			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>老年期の自我発達を基盤に置いた上で、高齢者を環境との相互作用する存在と位置づけ、老年期を生きる人とその家族の多様性・個性を理解するとともに、病を抱えながらも「健やかに老い、安らかに永眠する」ことを目指す老年看護の理念、高齢者を取り巻く社会について学修する。講義、グループワーク、体験学習を通して、自分とは異なる文化・生活背景を持つ人々への理解を深め、皆さん自身の高齢者観をよりいっそう豊かに育むことを期待する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 ブレインストーミング</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 老年看護学の歩み、老年看護学の意義 2 高齢者の理解 3 高齢者の健康と暮らし、高齢者の健康課題 4 高齢者の保健・福祉・医療の動向 5 高齢者を支えるための連携・協働 6 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴グループワーク 7 高齢者疑似体験演習 8 高齢者感覚器体験演習 9 健康逸脱から回復を促す看護1（褥瘡・褥瘡予防） 10 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴グループ発表 11 健康逸脱から回復を促す看護2（急性・慢性疾患に付随する症候とそのアセスメント）グループワーク 12 老年看護学に係る理論、生活機能評価スケール 13 高齢者の権利擁護 14 高齢者と医療安全 15 症候アセスメントグループワーク発表、まとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（90 分）講義に関連する教科書の章を精読する。 復習（90 分）講義内容を振り返りノートにまとめる。また講義内容に関連した書籍を読む。</p>			
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート：25%（25 点） ・ミニテスト：15%（15 点） 			

	<p>・定期試験：60%（60点）</p> <p style="text-align: right;">合計 100点</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>北川公子, 他: 系統看護学講座 専門分野 老年看護学第 10 版, 医学書院, 2025. 鳥羽研二, 他: 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論第 6 版, 医学書院, 2025. 厚生労働統計協会: 厚生指標増刊 国民衛生の動向 (購入済みのもので可)</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>なし</p>

科 目 名	老年看護活動論 I			
科 目 名 (英 語)	Nursing Care of the older adults I	シラバスNo.	260020490	
担 当 教 員 名	澤田 知里、高橋 智美、上原 主義			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方や高齢者に多い疾患とその看護等について実践を踏まえながら指導する。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <input type="radio"/> DP2 : <input type="radio"/> DP3 : <input checked="" type="radio"/> DP4 : <input type="radio"/> DP5 : <input type="radio"/> DP6 : <input type="checkbox"/>			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1.高齢者の特徴的な疾患・症状について理解できる。 2.高齢者を全人的・包括的にアセスメントするための健康障害・生活機能障害について理解できる。 3.高齢者の生活機能を維持・向上するための看護支援方法が理解できる。 4.高齢者に必要な看護支援方法を考察できる。 			
受 講 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学概論で学んだ内容を必ず復習して臨む。 ・長期休暇期間中に課題学習（高齢者の生活史インタビュー）に取り組む。 ・演習では事前課題・事後課題がある。 ・グループディスカッションは積極的に参加して自己の考えを深める。 ・技術の習得には反復練習が必須であることを踏まえ、技術演習後には自主的に練習を重ねる。 			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>平均寿命の延伸に伴い健康寿命が延びている一方で、平均寿命と健康寿命の差（日常生活に制限のある不健康な期間）は男性では約9年、女性では約12年にも及んでいる。「長く生きる」だけではなく、「サクセスフル・エイジング」を前提に加齢変化や老年期に特有な疾患と生活機能障害についての理解を深め、疾患や障害を抱えながらも豊かで多様な高齢者の生き方を支援するための、高齢者の自立・自律・尊厳に配慮したBSC (best-supportive-care) について学修する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 ブレインストーミング</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の生活史、高齢者の終末期看護 2 高齢者の健康障害・生活機能1 摂食（食事）行動 3 高齢者の健康障害・生活機能の支援 食事介助・口腔ケア 4 高齢者の健康障害・生活機能2 排泄行動 5 高齢者の健康障害・生活機能3 清潔（身支度）行動 6 高齢者の健康障害・生活機能の支援 排泄ケア（オムツ交換・陰部洗浄） 7 高齢者の健康障害・生活機能4 覚醒・活動 8 高齢者の健康障害・生活機能5 睡眠・休息 9 高齢者の健康障害・生活機能6 コミュニケーション 10 高齢者の特徴を踏まえた睡眠・休息支援技術 リラクゼーション、マッサージケア 11 高齢者の特徴を踏まえた安全・安楽の技術 耐圧分散・ポジショニング実験 12 高齢者の特徴を踏まえた安全・安楽の技術 器具を用いた移動、背抜き・足抜き、エコー操作（残尿）体験 13 健康逸脱から回復を促す看護1 検査・入院時の高齢者看護 14 健康逸脱から回復を促す看護2 薬物療法・手術を受ける高齢者看護 15 まとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（15分）講義・演習に関連する教科書の章を精読する。 復習（30分）講義・演習内容を振り返りノートにまとめる。また配布資料を基に演習の不足点を埋める。さらに講義・演習内容に関連した書籍を読む。</p>			

成績評価方法	レポート (20%) 20 点 ミニテスト (20%) 20 点 定期試験 (60%) 60 点 <div style="text-align: right;">合計 100%</div>
教科書 (購入必須)	北川公子, 他: 系統看護学講座 専門分野 老年看護学第 10 版, 医学書院, 2025. (老年看護学概論で購入済み) 烏羽研二, 他: 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論第 6 版, 医学書院, 2025. (老年看護学概論で購入済み)
参考書 (購入任意)	

科 目 名	老年看護活動論Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Nursing Care of the older adultsⅡ	シラバスNo.	260020500	
担 当 教 員 名	高橋 智美、澤田 知里、上原 主義			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方、看護過程の展開方法、ケアのスキルと提供方法について実践を踏まえながら指導する。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>○</u> DP3 : <u>◎</u> DP4 : <u> </u> DP5 : <u> </u> DP6 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1.高齢者に多くみられる健康障害について理解できる。 2.高齢者の健康障害について対象者の持てる力を活用した看護過程の展開ができる。 3.高齢者看護に必要な技術を身に着けることができる。 4.自主的学修姿勢を身に着けることができる。 			
受 講 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の取得では日々の復習を怠らず、課題にはコツコツと取り組む。 ・グループディスカッションは積極的に参加して自己の考えを深める。 ・技術の習得には反復練習が必須であることを踏まえ、技術演習後には自主的に練習を重ねる。 ・疑問点や不明点は放置せずに教員に積極的に質問や相談をする。 			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>論理的思考法を基とした老年看護過程の展開方法について理解し、紙上事例を用いて看護過程の展開を行う。また老年期特有の疾患や認知症高齢者に対するコミュニケーション、アクティビティの目的・方法・倫理的配慮、持てる力を活かした援助の工夫のあり方について学修する。疾患や障害を抱えながらも豊かで多様な高齢者の生き方を支援するための高齢者の自立・自律・尊厳に配慮したBSC (best-supportive-care) について学修する。</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 IBL、ブレインストーミング、ロールプレイ</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の看護過程展開 (IBL) 学習課題の明確化 2 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ① (病態 Map, 情報の整理) 3 高齢者の健康障害 認知症の看護：概論 4 高齢者の健康障害 認知症の看護：急性期病院に入院する対象者の看護 5 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ② (分析, 総合) 6 高齢者の健康障害 <ol style="list-style-type: none"> 1.呼吸器疾患の看護 2.循環器疾患の看護 7 高齢者の健康障害 <ol style="list-style-type: none"> 1.脳神経疾患の看護 2.骨運動器疾患の看護 8 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ③ (全体像の把握) 9 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ④ (問題抽出, 模擬カンファレンス, 優先順位の設定) 10 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ⑤ (目標設定, 計画立案：O-P) 11 対応の技術 認知症の対象者とのコミュニケーション 			

	<p>12 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ⑥（計画立案：T-P）</p> <p>13 高齢者への日常生活援助技術 1.アクティビティケア</p> <p>14 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ⑦（計画立案：E-P, 経過記録：SOAP）</p> <p>15 高齢者の看護過程展開 ケーススタディ⑧（実施, 評価）</p>
授業時間外学修 （予習・復習）の内容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（15 分）講義・演習に関連する教科書の章を精読する。 復習（30 分）講義・演習内容を振り返りノートにまとめる。また配布資料を基に演習の不足点を埋める。さらに講義・演習内容に関連した書籍を読む。</p>
成績評価方法	<p>ケースレポート（50%）50 点 実技演習レポート（20%）20 点 定期試験（30%）30 点</p> <p style="text-align: right;">合計 100 点</p>
教科書 （購入必須）	<p>リンダ J. カルペニート（黒江ゆり子監訳）：看護診断ハンドブック第 12 版, 医学書院, 2023.</p>
参考書 （購入任意）	<p>亀井智子（編）：根拠と事故防止からみた老年看護技術第 4 版, 医学書院, 2024.</p>

科 目 名	小児看護学概論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to Pediatric nursing	シラバスNo.	260020510	
担 当 教 員 名	佐々木 俊子			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	現代の子どもや家族を取り巻く社会には、生活習慣病の増加、心の問題、育児不安、児童虐待など、様々な健康問題が顕在化している。本講義では、子どもや家族を取り巻く社会の現状を理解しながら、新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期の発達段階における成長・発達、擁護と看護について学ぶ。さらに、子どもの基本的な人権と小児看護倫理から、子どもの利益にかなう看護とは何か、小児看護の理念と責務について共に考えていく。また、母子に関する様々な保健統計から小児保健の動向を知り、現代社会の健康問題を考察して、子どもの健康の保持増進、疾病の予防について学修していく。			
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1： <u>○</u> DP2： <u>◎</u> DP3： <u>○</u> DP4： <u>○</u> DP5： <u> </u> DP6： <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	1.小児看護の対象である小児と家族の存在を環境との相互作用から理解する 2.小児看護を支える法的根拠から小児医療における子どもの権利について理解する 3.成長・発達の概念および新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期の発達の特徴とその評価方法を理解する 4.現代の小児と家族の健康問題について社会の変化から捉え小児看護の役割を理解する 5.母子保健の動向と小児の健康を支える社会資源、制度について理解する			
受 講 の 留 意 点	講義を中心に、自己学習や演習を組み合わせた授業展開をしていく。積極的な参加態度を期待します。日ごろ、新聞・TV・映画・書籍などで子どもの生活や健康問題、自身の生き立ちや家族との関係、社会で起きている子どもに関する問題などに目を向けることで、本講義の学習がより深まります。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	子どもをとりまく現在社会に関連した健康問題について課題学習していきます。 アクティブ・ラーニングの内容 グループでディスカッションして、学びを共有していきます。			
授 業 の 計 画	1 小児看護とは 小児看護の対象、小児の範囲と区分、小児の成長発達を支える家族と発達 2 小児看護の歴史と意義、小児看護の課題、小児を取り巻く社会 3 子どもの権利と看護、子どもの最善の利益にかなう医療と看護 小児看護と倫理的配慮 4 小児看護と法律・施策、子どもを取り巻く社会環境、母子保健施策、小児に関する法律など 5 子どもの成長発達 成長・発達の原理原則 影響要因 6 新生児期の子どもの成長発達 身体生理の特徴 各機能の発達、新生児の養護および看護、愛着形成（ボウルビイ愛着理論） 7 乳児期の子どもの成長発達 形態的・機能的発達、乳児期の日常生活の世話（離乳食、排泄、衣服、睡眠等） 8 乳児期の子どもの成長発達 見る・聞くコミュニケーション機能、情緒・社会的機能、乳児期の健康問題 9 幼児期の子どもの成長発達 形態的・機能的発達 情緒・社会性の発達 幼児期の日常生活の自律 10 幼児期の生活行動の発達と看護 コミュニケーション機能、遊びの意義、エリクソン自我発達理論、幼児期の健康問題、 11 学童期の子どもの成長発達 形態的・機能的発達・知的・情緒・社会的発達、ピアジェの認知発達理論 12 学童期の子どものセルフケアの発達と看護			

	<p>学校不適応、学童期をとりまく諸環境、養護と看護、健康問題</p> <p>13 思春期の子どもの成長発達 形態的発達・身体機能・知的・情緒・心理社会的発達 思春期によくみられる性、逸脱行動などの健康問題</p> <p>14 発育の評価 形態的成長の評価、心理社会的発達の評価</p> <p>15 小児看護学概論 まとめ</p>
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 課題を提示します。それを基に予習してください。講義後は、その日の講義目標に沿って復習してください。</p>
成績評価方法	<p>定期試験：学習内容の理解度を評価する 60 点</p> <p>小テスト:成長・発達の理解 30 点 (各 10 点×3回) 子ども観察レポート 10 点</p>
教科書 (購入必須)	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院</p>
参考書 (購入任意)	

科 目 名	小児看護活動論 I			
科 目 名 (英 語)	Pediatric nursing I	シラバスNo.	260020520	
担 当 教 員 名	笹尾あゆみ			
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	小児看護の経験を有する教員が健康障害や入院が小児や家族に与える影響、病時期の違いによる必要とされるケア、外来や在宅などの看護の場の違いにおける小児と家族の状況とケアについて教授する科目。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ○ DP3 : ◎ DP4 : ○ DP5 : ___ DP6 : ___			
学 修 到 達 目 標	1.健康障害や入院が子どもと家族に与える影響について説明できる 2.急性期、慢性期、終末期の子どもと家族の看護について説明できる 3.外来や在宅など場の違いによる看護を説明できる 4.障害のある子どもと家族の看護について説明できる			
受 講 の 留 意 点	・講義の関連箇所について事前に教科書を読み、小児看護学概論での内容も復習しておこう ・グループディスカッションは積極的に参加し、自己の考えを深めよう			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	小児や家族の状況ならびに小児に特有な疾患と看護を理解するために課題を取り入れながらグループワークを行います アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションにより学びを共有していきます			
授 業 の 計 画	1 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響 2 急性期にある子どもと家族の看護 3 周手術期にある子どもと家族の看護 4 慢性期にある子どもと家族の看護 5 在宅療養中の子どもと家族の看護 6 症状を示す子どもの看護 呼吸困難 チアノーゼ 7 症状を示す子どもの看護 痛み 発熱 8 症状を示す子どもの看護 下痢 嘔吐 脱水 9 発達に凸凹ある子どもと家族の看護 10 小児に特有な疾患とその看護 (1) 11 小児に特有な疾患とその看護 (2) 12 小児に特有な疾患とその看護 (3) 13 小児に特有な疾患とその看護 (4) 14 終末期にある小児と家族の看護 15 小児看護活動論 I まとめ			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 課題を提示します。それを基に予習する 復習 授業を振り返り、ポイントのまとめを行う			
成 績 評 価 方 法	1. 定期試験 60 点 2. 小テスト 20 点 3. 課題レポート 20 点 講義中に課題を提示する			
教 科 書 (購 入 必 須)	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院			
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	小児看護活動論Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Pediatric nursingⅡ	シラバスNo.	260020530	
担 当 教 員 名	笹尾あゆみ			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	小児看護の経験を有する教員が健康障害のある小児と家族の看護展開技術、小児に特有な生活援助技術、診療に伴う援助技術について教授する科目である			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ○ DP3 : ◎ DP4 : ○ DP5 : ____ DP6 : ____			
学 修 到 達 目 標	1.小児で関わることの多い疾患や症状を有する事例について、アセスメントし看護問題の明確化、看護計画の立案ができる 2.小児特有の基本的な看護技術について習得することができる 3.発達段階を考えた状況に応じたプレパレーションができる			
受 講 の 留 意 点	・講義の関連箇所について事前に教科書を読み、復習しよう ・看護技術演習については、事前課題・事後課題があります ・グループディスカッションは積極的に参加し、自己の考えを深めよう			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	小児の看護過程、プレパレーションは、グループで作りあげていきます アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションにより学びを共有します			
授 業 の 計 画	1 小児看護活動論Ⅱ ガイダンス 小児における看護過程の展開 (1) 2 小児における看護過程の展開 (2) 3 遊びの意義と実際 4 検査処置を受ける子どもの看護、プレパレーションのグループ制作 (1) 5 検査処置を受ける子どもの看護、プレパレーションのグループ制作 (2) 6 プレパレーション報告会 7 看護過程のグループワーク (1) 8 看護過程のグループワーク (2) 9 看護過程のグループワーク (3) 10 看護過程のグループワーク (4) 11 看護過程のグループワーク (5) 12 小児看護技術演習 (抱っここの仕方、おむつ交換、身体計測、検体採取) 13 小児看護技術演習 (バイタルサイン測定) 14 小児看護技術演習 (輸液管理、点滴固定、与薬) 15 小児看護過程 グループ発表 まとめ			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：講義・演習に関連する教科書の章を読み込み、課題に取り組む 復習：講義・演習内容を振り返り、ノートにまとめる。講義・演習内容に関連した書籍を読む			
成 績 評 価 方 法	1. 看護過程 (個人提出) 60 点 2. 技術演習問題 30 点 3. レポート 10 点			
教 科 書 (購 入 必 須)	小児看護学 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 (メディカ出版)			
参 考 書 (購 入 任 意)	子どもの地図帳 講談社			

科 目 名	母性看護学概論			
科 目 名 (英 語)	Introduction Maternity Nursing	シラバスNo.	260020540	
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、永井 紅音			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学の概観を教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：___ DP4：○ DP5：___ DP6：○			
学 修 到 達 目 標	<p>1. 学生は、母性の概念を、女性の生涯にわたる健康と権利の視点から捉えることができる。</p> <p>2. 学生は、女性の健康を身体・心理社会・文化的視点から理解することができる。</p> <p>3. 学生は、母子関連組織・法律、母子保健システムから看護のあり方を考察することができる。</p> <p>4. 学生は、女性のライフステージ各期の特徴を学び、母性の一生を通じた健康の維持増進、疾病予防のありかたについて考察することができる。</p> <p>5. 学生は、生命の尊重の意義を確認し自分なりの生命倫理について考えることができる。</p>			
受 講 の 留 意 点	<p>授業に参加するにあたり、予習、復習を行うこと。</p> <p>GWには積極的に参加すること。</p> <p>DVDは、欠席した場合も後日必ず視聴しレポートを提出すること。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>学生が、母性看護学の対象がすべての女性とその家族を含み、対象を取り巻く環境が大きく変化し、少子高齢化、晩婚化、晩産化が進んでいることを理解できるように授業を構成する。</p> <p>また、女性のライフステージの特徴を知り、女性の一生を通じた健康の保持増進と疾病の予防についても学習する。</p> <p>学生が、母性の概念、母子保健の変遷と統計指標、関連法規と施策などから、母子保健の現状と課題について学習できるように教授する。</p> <p>さらに、リプロダクティブヘルス、ライツの観点から周産期に至る思春期からの性教育のあり方や婚前学級、婚活、妊活などの現代社会で生きる若者の実情や医学情報のトピックスを紹介し、学生が、生命倫理や生命尊重について考えを深化させられるように教授する。</p>			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	<p>1 母性の中心となる概念・ライフサイクル作成と紹介 1) 母親になること、2) 愛着理論、3) ボンディングと親子相互作用、4) 家族の発達 5) 家族を中心としたケア、6) 女性と中心としたケア</p> <p>2 母性看護実践を支える概念 1) ヘルスプロモーション、2) エンパワメント、3) ウエルネス、4) セルフケア 5) リプロダクティブヘルス/ライツ</p> <p>3 リプロダクティブヘルスに関する概念 1) セクシュアリティ、2) ジェンダー、3) 性意識の発達、4) 性的指向、 5) 性同一性障がい</p> <p>4 リプロダクティブヘルスに関する動向 1) 出生に関する統計、2) 死亡に関する統計、3) 家族形成に関する統計</p> <p>5 リプロダクティブヘルスに関する倫理 1) 出生前診断、2) 生殖補助医療、3) 生殖補助医療に関する倫理的課題</p> <p>6 命の大切さを考える DVD 視聴 妊娠期の妊婦夫婦と胎児の生活、出産後の母親、新生児の1か月までの成長を、科学的視点を交えて解説するDVD。生命の神秘から命について考える。</p> <p>7 子どもと女性の保護に関する法律 1) 母性看護の歴史の変遷、2) 児童福祉法、3) 母子保健法、4) 母体保護法、5) 労働基準法、 6) 雇用機会均等法(略称)、7) 育児休業、介護休業法(略称)</p> <p>8 子育て支援に関する制度・施策(少子化対策の変遷、健やか親子21/1次・2次) 児童虐待</p> <p>9 性差医療 DVD 視聴「何が違う?なぜ違う?」 1) 女性特有の疾患、2) 性差医療、性差に注目して対象理解や医療のあり方を考える。</p>			

	<p>10 生殖に関する生理 1) 女性の生殖器、2) 男性の生殖器、3) 第二性徴、4) 性周期、5) 妊娠のメカニズム 6) 性行動・性反応</p> <p>11 生殖における健康問題と看護 1) 月経異常、2) 性感染症（コミュニケーションゲーム）と予防、3) 女性生殖器の腫瘍</p> <p>12 不妊症 1) 妊孕性と不妊、2) 不妊の原因と治療、3) 不妊カップルの心理・社会的反応 4) 不妊治療に関する社会的・医療的支援</p> <p>13 加齢とホルモン変化 1) 更年期女性の特徴、2) 更年期女性の健康問題と看護、3) 老年期女性の特徴 4) 老年期女性の健康問題と看護</p> <p>14 リプロダクティブヘルスケア 1) 人工妊娠中絶と看護、2) デートDV、性暴力を受けた女性 に対する看護、3) 喫煙女性の健康と看護</p> <p>15 周産期医療システム、母子保健の国際化 まとめ</p>
<p>授業時間外学修 （予習・復習）の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 教科書の関係した章を読み込む。 授業後、ポイントをまとめる。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>各単元のまとめの課題提出（15 点）、ミニ模試や各授業の提出物（15 点）とテスト（70 点） で合算して評価する。ただし、テストで 6 割未満のものは再テストとする。</p>
<p>教科書 （購入必須）</p>	<p>・ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護（メディカ出版）</p>
<p>参考書 （購入任意）</p>	<p>・母子保健の主なる統計令和 7 年度刊行：母子保健事業団 ・令和 7 年版厚生労働白書：厚生労働省編 ・令和 7 年度版少子化社会対策白書：内閣府編 ・国民衛生の動向 2024/2025：厚生労働統計協会</p>

科 目 名	母性看護活動論 I			
科 目 名 (英 語)	Maternity Nursing I	シラバスNo.	260020550	
担 当 教 員 名	加藤千恵子、北田恵美、永井紅音			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての臨床経験を持つ教員が、妊娠期・分娩期の母子の看護を教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：◎ DP4：___ DP5：___ DP6：___			
学 修 到 達 目 標	<p>目的</p> <p>本講義では、女性のライフサイクルの中で周産期の妊産婦と胎児およびその家族を対象とする。学生は母性看護学における看護実践能力、周産期医療における問題解決力を高め、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.妊産婦の主体性を重んじた安全で安楽な出産及び役割獲得への援助に必要な知識と看護技術を習得できる。 2.妊婦・産婦の発達課題の達成や健康の保持増進，健康障害の予防に必要な母子看護の基礎知識を学び展開できる。 3.対象が正常な妊娠、分娩経過をたどるために必要な看護技術を習得できる。 <p>以上の3つの目標を達成するため、以下のA知識、B技術、C態度に関する学習到達目標を挙げる。</p> <p>A.知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)学生は妊娠・分娩の経過に伴って変化する生理的現象や身体的特徴を説明できる。 2)学生は妊娠・分娩の経過に伴って変化する心理社会的特徴を説明できる。 3)学生は胎児の成長発達と健康度の評価、胎児の特徴を説明できる。 4)学生は親になることを支える援助、相談、教育について説明できる。 <p>B.技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)学生は妊婦の経過を根拠に基づきアセスメントし、記述できる。 2)学生は胎児の経過を根拠に基づきアセスメントし、記述できる。 3)学生はウェルネスの視点から看護問題・看護目標が挙げ、記述できる。 4)学生は個別性のある看護計画を立案し、記述できる。 <p>C.態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)学生は積極的に学習し、自己の能力の向上に努めることができる。 2)学生は教員の支援を受けながら、多様な学習資源を活用した学習ができる。 3)学生はグループの一員としての自分の役割を遂行し、協力して演習を進めることができる。 			
受 講 の 留 意 点	<p>講義は、テキスト・資料を読んで予習・復習をすること。</p> <p>看護過程は参考書を利用しウェルネス思考を取り入れて展開すること。</p> <p>配布する学習ノート（妊娠期・分娩期）は教科書・参考書を利用して完成させること。</p> <p>技術演習前には、講義内容を復習しテキストにて技術手順を確認して臨むこと。</p> <p>技術演習には原則、ユニフォーム着用のこと。</p> <p>演習は、技術演習と看護過程の展開の2組に分かれて実施する。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は妊娠・分娩経過の女性および胎児と新生児に必要な知識と看護技術を習得する。 1) 学生は妊婦・産婦・胎児・新生児の身体的・心理社会的特徴を学び、健康状態を観察する技術を学ぶ。 2) 学生は母子の健康の保持・増進，健康障害の予防および健康障害からの回復を促す日常生活において必要なセルフケアとセルフケアを維持促進するための看護の方法を学ぶ。 3) 学生は妊娠期、分娩期の母子事例を活用、周産期の対象の身体的、心理的、社会的アセスメントの方法を習得し、対象の全体像を統合する。 <p>アクティブ・ラーニングの内容</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠期のアセスメント 1 妊娠の成立と経過（妊娠の定義，妊娠の生理，胎児の成長と発達） 2 妊娠期のアセスメントとケア 1 妊婦の身体的特徴と妊娠期の変化 妊娠各期と保健指導（健康管理の目的，妊娠期の日常生活，栄養管理，乳房の手当） 3 妊娠期のアセスメントとケア 2，妊婦の心理的特徴と妊娠期の変化 4 妊娠各期の胎児の成長と発達 			

	<p>5 <演習 1> 妊娠期のケア：子宮底・腹囲測定，レオポルド触診法，妊産婦体操，疑似体験 分娩期のアセスメントとケア（分娩が胎児に与える影響，胎児の健康状態の把握）</p> <p>6 ハイリスク妊娠と看護 （妊娠悪阻，胞状奇胎，妊娠高血圧症候群，切迫流産，前置胎盤，常位胎盤早期剥離）</p> <p>7 妊婦の健康教育と育児準備サポート、出産準備教育</p> <p>8 分娩期のアセスメント 1、 分娩の経過（分娩の定義、分娩の三要素と分娩機序、分娩経過） 分娩期にある母子の理解（分娩のメカニズム、心理・社会的状況の理解） 〔分娩の視聴覚教材〕</p> <p>9 分娩期のアセスメントとケア 1 （産痛のメカニズムと緩和法、産婦の心理、家族への包括的援助）</p> <p>10 分娩期の胎児の健康状態</p> <p>11 分娩期の母体と胎児のための安全安楽を考えたケア</p> <p>12 分娩室における各スタッフの役割分担と衛生管理および物品管理</p> <p>13 <演習 2> 分娩期のケア： 呼吸法、弛緩法、産婦の安全・安楽と主体性を育むための看護</p> <p>14 ハイリスク分娩の看護（微弱陣痛・過強陣痛、分娩時異常出血、帝王切開）</p> <p>15 妊産婦の健康管理のまとめ</p>
授業時間外学修（予習・復習）の内容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 教科書の各章の内容を読み込む。 授業後、ポイントのまとめを行う。</p>
成績評価方法	ミニレポート 15 点 課題；看護過程 15 点 試験 70 点
教科書（購入必須）	<p>（母性看護活動論Ⅱと共通）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学 2 森恵美（医学書院） ・ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術（メディカ出版） ・ウェルネス診断にもとづく母性看護過程 太田操編（医歯薬出版株式会社）
参考書（購入任意）	<ul style="list-style-type: none"> ・カラー写真で学ぶ妊産婦褥婦のケア 第二版 櫛引美代子（医歯薬出版株式会社） ・病気がみえる VOL10 産科 第 4 版（メディックメディア） ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ・Ⅱ 前原澄子（中央法規出版）

科 目 名	母性看護活動論Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Maternity Nursing Ⅱ	シラバスNo.	260020560	
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、北田 恵美、笹尾 あゆみ、永井 紅音			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	実務経験のある教員が産褥期、新生児期のケアについて講義を行う。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：◎ DP4：___ DP5：___ DP6：___			
学 修 到 達 目 標	<p>1.学生は、妊娠期・分娩期の既習の知識を基に、産褥期、新生児期にある母子とその家族の身体・心理社会的特性を理解できる。</p> <p>2.学生は、産褥・新生児期にある母子への看護援助を行うために必要とされる基礎的知識と技術を習得できる。</p> <p>3.学生は、産褥・新生児期の母子関係確立のための援助に必要な知識と技術を習得できる。</p> <p>4.学生は、産褥・新生児期における主な異常とその看護を理解できる。</p>			
受 講 の 留 意 点	<p>講義は、テキスト・資料を読んで予習・復習をすること。</p> <p>看護過程は参考書を利用してウェルネス思考を取り入れて展開すること。</p> <p>配布する学習ノート（産褥・新生時期）は教科書・参考書を利用して完成させること。</p> <p>技術演習前には、講義内容を復習しテキストにて技術手順を確認して臨むこと。</p> <p>技術演習には原則、ユニフォーム着用のこと。</p> <p>演習2は、技術演習と看護過程の展開の2組に分かれて実施する。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>学生は、母性看護活動論Ⅰで学習した妊娠期・分娩期の援助を踏まえて褥婦および新生児とその家族の特性を理解する。</p> <p>学生は、産褥期では分娩の影響からの心身の回復と母子関係確立・母親役割獲得へのケアおよび産褥の異常を持つ産婦のケアについて学ぶ。</p> <p>学生は、新生児については胎外生活への適応と生理的变化、正常からの逸脱時のケアについて学習する。</p> <p>学生は、母児一対を対象として、母子関係形成のためのケアの重要性を理解し、褥婦・新生児の看護過程では、ウェルネスの視点を取り入れた展開方法を学ぶ。</p>			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 正常な産褥の基本的理解：産褥の定義、褥婦の全身の変化、退行性変化、心理・社会的変化 2 産褥期のアセスメント：進行性変化、身体の回復状態家族の機能と役割の再編、サポート体制 3 褥婦と家族のケア：セルフケアを高めるケア、母乳育児に向けてのケア、育児技術に関わるケア、家族関係再構築へのケア 4 褥婦と家族のケア：母子関係確立への援助、母親役割、家族役割関係、産後のメンタルヘルスケア、産後の母子保健施策 5 異常産褥の病態と看護：子宮復古不全、産褥感染症、精神障害、母子分離・死産 6 <演習1>産褥期のケア：子宮復古状態の観察とケア 乳房観察とケア、産褥体操 7 正常新生児の基本的理解：新生児の定義、胎外生活への適応過程、新生児の生理的变化、成熟度の評価 8 新生児のアセスメント：出生直後の状態、体格、哺乳状態、栄養状態、親子関係、家族関係 9 新生児のケア：看護の原則、保育環境、出生直後の看護、日常生活への援助、栄養 10 異常新生児の病態と看護：新生児仮死、分娩障害、高ビリルビン血症、低出生体重児、ディバロップメンタルケア 11 <演習2>新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開 12 <演習2>新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開 			

	<p>13 <演習 2> 新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</p> <p>14 <演習 2> 新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</p> <p>15 褥婦・新生児の看護過程、学習ノートの提出 まとめ</p>
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 テキスト・資料を読んで予習すること。 ・講義後、ポイントをまとめること。</p>
成績評価方法	各単元の課題提出 (15 点)、ミニ模試や各授業の提出物 (15 点) とテスト (70 点) で知識とアセスメント能力について評価する。
教科書 (購入必須)	<p>(母性看護活動論 I と共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学 2 森恵美 (医学書院) ・ナースングラフィカ 母性看護学③母性看護技術 (メディカ出版) ・ウェルネス診断にもとづく母性看護過程 太田操編 (医歯薬出版株式会社)
参考書 (購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえる VOL10 産科 第 4 版 (メディックメディア) ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ・Ⅱ 前原澄子 (中央法規出版)

科 目 名	精神看護学概論				
科 目 名 (英 語)	Introduction to the Mental Health and Psychiatric Nursing		シラバスNo.	260020570	
担 当 教 員 名	結城 佳子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師等として広く心の健康にかかわるケアを実践した経験を有する教員が、心の健康とそのケアに関する基本的知識と考え方を教授する科目				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>◎</u> DP3 : <u>○</u> DP4 : <u>○</u> DP5 : <u> </u> DP6 : <u> </u>				
学 修 到 達 目 標	<p>精神健康において支援を必要とする人を対象とする看護についての基本的考え方を理解し、精神科医療および精神保健福祉の課題に問題意識を持って取り組む姿勢を修得することを目標とする。</p> <p>1. 人の発達段階やさまざまな生活の場における精神健康の様相について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。</p> <p>2. さまざまな社会的背景と精神健康との関連について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。</p> <p>3. 精神健康において支援を必要とする人とそれを取り巻く環境について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。</p>				
受 講 の 留 意 点	<p>少人数でのグループワークやディスカッションを多く取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。精神科医療および精神保健福祉を取り巻く社会の動向にも関心を持ち、自ら考える姿勢が望ましい。</p>				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>1. 心とは何か、心の健康とは何か、その基本的考え方を学ぶ。</p> <p>2. 心に関する諸理論、ライフサイクルと生活の場における心の健康について学ぶ。</p> <p>3. 精神保健福祉活動の実際とそれを支える法・制度のあり方、精神保健福祉の歴史を学ぶ。</p> <p>4. 精神科医療および精神保健福祉における人権と倫理について学ぶ。</p>				
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 少人数でのグループワークを中心とした講義である。</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーション/心とは</p> <p>2 健康な心とは/心のケアとは</p> <p>3 生涯発達と精神保健① 乳幼児期～思春期・青年期</p> <p>4 生涯発達と精神保健② 成人前期～老年期</p> <p>5 生活の場と精神保健① 家庭</p> <p>6 生活の場と精神保健② 学校</p> <p>7 生活の場と精神保健③ 職場</p> <p>8 中間まとめ 人が生きることと精神保健</p> <p>9 社会と精神保健① ストレス</p> <p>10 社会と精神保健② 危機</p> <p>11 社会と精神保健③ 自殺</p> <p>12 精神障害と精神保健① こころを病むとは</p> <p>13 精神障害と精神保健② 精神保健福祉の変遷と法/人権擁護</p> <p>14 精神障害と精神保健③ 地域精神保健福祉活動</p> <p>15 最終まとめ 心をケアするということ</p>				

<p>授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容</p>	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回のテーマについて調べ、疑問点等を明らかにする。 講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を 1 編以上読む。</p>
<p>成 績 評 価 方 法</p>	<p>レポート課題：中間、最終各 50 点、計 100 点</p> <p>5 段階評価 S：素点 90 点以上、A：素点 80～89 点、B：素点 70～79 点、C：素点 60～69 点、D：素点 59 点以下</p> <p>C 以上の評価について単位を認定する。D 評価の者には課題再提出を認めることがある。再提出の評価は素点 69 点までとする。</p>
<p>教 科 書 (購 入 必 須)</p>	<p>テキストは使用せず、資料を配布する。</p>
<p>参 考 書 (購 入 任 意)</p>	<p>必要時指示する。</p>

科 目 名	精神看護活動論 I			
科 目 名 (英 語)	Mental Health and Psychiatric Nursing : Assessment and Skills I	シラバスNo.	260020580	
担 当 教 員 名	結城 佳子、中島 泰葉			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師等として精神科医療・精神保健福祉分野における実践経験を有する教員が、精神疾患・精神障害に関する基本的知識と治療・看護・リハビリテーションについて教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ○ DP3 : ◎ DP4 : ___ DP5 : ___ DP6 : ___			
学 修 到 達 目 標	<p>精神疾患の病態や精神障害のありようとそれらが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、支援を必要としている人とその家族に対する看護援助方法について基本的考え方を修得することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な精神疾患の病態及び診断、治療について、要点を述べることができる。 2. 主要な精神症状のアセスメントについて、要点を述べることができる。 3. 主要な精神疾患及び精神症状に対する看護について、要点を述べることができる。 			
受 講 の 留 意 点	具体的な事例等を通して、精神疾患・精神障害を適切に理解するとともに、精神疾患・精神障害を持つ人の生きる困難さや苦悩を共に感じ、看護援助の展開について主体的に考えることを期待する。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な精神疾患等の病態や障害のありようとそれらが生活に与える影響を学ぶ。 2. 主要な精神疾患等の治療およびリハビリテーションと看護援助を学ぶ。 <p>アクティブ・ラーニングの内容 精神症状のアセスメントおよび看護の実際に関するグループワークを含む。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション/抑うつ症群① 概念と病態 2 抑うつ症群② 治療とリハビリテーション, 看護 3 双極症群及び関連症群 4 心的外傷及びストレス因関連症群 5 不安症群 6 強迫症/解離症群/身体症状症及び関連症群 7 食行動症及び摂食症群 8 物質関連症及び嗜癖症群① 概念と病態 9 物質関連症及び嗜癖症群② アルコール使用症 10 物質関連症及び嗜癖症群③ 治療、リハビリテーションと看護、ギャンブル行動症 11 パーソナリティ症群 12 神経発達症群 13 神経認知障害群① 主な認知症とその特徴 14 神経認知障害群② 行動・心理症状 (BPSD) 15 神経認知障害群③ 治療と看護、せん妄 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回でテーマとなる精神疾患等について調べ、疑問点等を明らかにする。 講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を 1 編以上読む。</p>			

<p>成績評価方法</p>	<p>筆記試験により評価する。</p> <p>以下の5段階で評価する。</p> <p>S：素点 90 点以上、A：素点 80～89 点、B：素点 70～79 点、C：素点 60～69 点、D：素点 59 点以下</p> <p>C 以上の評価について単位を認定する。D 評価の者には再試験を認めることがある。再試験の評価は素点 69 点までとする。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>テキストは使用せず、資料を配布する。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>必要時指示する。</p>

科 目 名	精神看護活動論Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Mental Health and Psychiatric Nursing : Schizophrenia, Legal System, and human lights II	シラバスNo.	260020590	
担 当 教 員 名	結城 佳子、中島 泰葉			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師等として精神科医療・精神保健福祉分野における実践経験を有する教員が、関連する法・制度、安全管理、人権と倫理および質の高い看護実践について教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : ○ DP3 : ◎ DP4 : ○ DP5 : ____ DP6 : ____			
学 修 到 達 目 標	<p>精神疾患の病態や障害のありようとそれらが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、精神健康上の問題に直面している人とその家族に対する看護援助方法と看護過程の展開について基本的考え方を修得する。また、精神科領域における治療・看護について理解し、対象者の安全を守り、人権を擁護する看護のあり方を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症の病態や後遺障害、診断や治療及び看護について、要点を述べることができる。 2. 精神科領域における治療やリハビリテーションについて、要点を述べることができる。 3. 精神科領域における治療等に関連する法や制度について、要点を述べることができる。 4. 精神科領域において患者を守る医療安全、危機管理及び人権と倫理について、要点を述べることができる。 5. 精神科領域における看護実践について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。 			
受 講 の 留 意 点	精神科看護の実践に不可欠な知識・技術を学ぶとともに、精神障害者を取り巻く社会のありようを理解するため、主体的に考える姿勢を求める。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症について疾患・障害のありようと生活に与える影響、治療や看護について学ぶ。 2. 精神科領域に特有の治療およびリハビリテーションと看護について学ぶ。 3. 精神科領域における安全管理、法・制度、人権と倫理について学ぶ。 4. 精神科看護の実践について、ゲストスピーカーによる講義から学ぶ。 <p>アクティブ・ラーニングの内容 看護の実践に関するグループワークを含む。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション/統合失調症① 概念と病態 2 統合失調症② 救急急性期の看護 3 統合失調症③ 休息期、回復期の看護 4 精神科領域における治療と看護① 身体的治療/薬物療法 5 精神科領域における治療と看護② 薬物療法、電気けいれん療法 6 精神科領域における治療と看護③ 心理療法、精神科リハビリテーション 7 精神科領域における法と制度① 法・制度の概要/精神保健福祉法 8 精神科領域における法と制度② その他関連する法・制度 9 精神科領域における医療安全・危機管理 10 精神科看護における人権と倫理 11 精神科看護における自己理解・自己活用 12 精神科看護の実践① 救急急性期看護 13 精神科看護の実践② 退院支援 14 精神科看護の実践③ 精神科訪問看護① 15 精神科看護の実践④ 精神科訪問看護② 			

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各回でテーマとなる精神疾患等について調べ、疑問点等を明らかにする。 講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を 1 編以上読む。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>筆記試験 (80%)、レポート課題 (20%) により評価する。 以下の 5 段階で評価する。 S : 素点 90 点以上、A : 素点 80~89 点、B : 素点 70~79 点、C : 素点 60~69 点、D : 素点 59 点以下 C 以上の評価について単位を認定する。D 評価の者には再試験を認めることがある。再試験の評価は素点 69 点までとする。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>テキストは使用せず、資料を配布する。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>必要時指示する。</p>

科 目 名	基礎看護学実習 I			
科 目 名 (英 語)	Clinical practice in fundamentals of nursing I	シラバスNo.	260020600	
担 当 教 員 名	岡田 郁子・齋藤 千秋・藤野 正太郎・劉 萌			
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が、臨地において対象者とのかかわりやケアを通して対象理解、看護の目的や役割について、臨床指導者と協力し教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ○ DP4 : ○ DP5 : ○ DP6 : _____			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1.病院の役割・機能、医療の場で働く看護師および他職種の特任職としての役割を説明できる。 2.対象者とのかかわりを通して、入院生活の過ごし方について知り、健康時の日常生活との相違や困難さについて説明できる。 3.対象者への援助を通して、健康の回復・維持・増進のために必要な看護援助を根拠に基づいて行う必要性を説明できる。 4.看護学生としてチームの一員としての責任を自覚し、自律した行動ができる。 5.実習を通して、自己の考えを深め看護観をレポートし、自己の課題を明らかにすることができる 			
受 講 の 留 意 点	<p>本科目は、看護学生として医療の現場で体験的に学ぶ学修であるので、医療の現場で学ぶ者として自覚を持ち、対象や医療従事者の信頼を得られる行動を心がけ実習することが必要である。実習課題到達のためには、実習オリエンテーションに出席すること、事前学修が必要である。</p> <p>本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅰの単位修得、ヘルスアセスメント、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅱ、看護過程演習の単位修得見込みである。計画的に学修し、体調を整えて実習に臨むこと。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>健康障がいをもつ対象者とのかかわりやケアを通して、入院している対象者の心身の状態、生活の場である療養環境について学修し、看護の目的や役割について学ぶ。同時に臨床判断・コミュニケーション技術・倫理的判断についても学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 実習グループで毎日振り返りを行い、学びを共有する。学内報告会ではグループで話し合った内容をプレゼンテーションし、他の実習施設で学んだ学生と意見交換を行い、全体で学びや経験を共有する。</p>			
授 業 の 計 画	<p>〔実習内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習施設内を見学し、主要部署とその役割について説明を受ける 2 実習病院の特徴や看護部の方針などについてオリエンテーションを受ける 3 療養環境について、病棟の見学とオリエンテーションを受ける 4 看護援助の実践に際しては、看護師・教員の説明や助言のもとに行う 5 カンファレンスで学修内容を整理し、学びを共有する 6 学内報告会では体験や学びを共有し、自己の課題を明確にする <p>詳細は実習要項参照</p> <ul style="list-style-type: none"> * 実習目標に基づき、臨地実習 4 日間、学内実習 1 日間を予定している * 詳細な実習計画は、実習開始前オリエンテーションで説明する * 実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 45 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 事前学修：既習の知識・技術 (人体形態・機能、日常生活援助技術等) について復習する。 事後学修：実習の振り返りの記載、翌実習の目標と行動計画を立てる。</p>			
成 績 評 価 方 法	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は実習記録一式が期限内に提出されることを前提とする。			

教科書 (購入必須)	実習要項や必要な実習課題提出記録用紙などの資料が実習前に配布されるため、各自が既習科目の教科書を活用し、必要な事前準備を行うこと。
参考書 (購入任意)	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。

科 目 名	基礎看護学実習Ⅱ		
科 目 名 (英 語)	Clinical Practice in Fundamentals of Nursing Ⅱ	シラバスNo.	260020610
担 当 教 員 名	齋藤 千秋、岡田 郁子、藤野 正太郎、劉 萌		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修
			資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が臨地において臨地実習指導者と協力して、既習の知識や技術をもとに看護の対象、療養環境、人間関係を形成するためのコミュニケーション、看護ケアをもとに、対象に必要な看護を理解しその対象の看護上の問題（健康問題）を解決するための看護過程を展開し、同時に問題解決思考能力を教授する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：◎ DP4：○ DP5：○ DP6：__		
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者と援助的コミュニケーションをとることができる。 2. 対象者を統合的に理解し、看護過程を展開できる。 3. 医療チームの一員として、看護師の役割および医療・福祉チームにおける連携・協働について説明することができる。 4. 看護の専門性、学問を探究する学修者として自己洞察し、今後の学修課題を明確にできる。 5. 実習を通して、自己の考えを深く看護観をレポートし、自己の課題を明確にすることができる。 		
受 講 の 留 意 点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習科目（専門基礎科目、専門科目）および看護過程の学修したことを復習し、実習に臨むこと。また、実習で体験する内容について事前学修を計画的に行い、体調を整えて実習に臨むこと。 2. 看護実践を通じて、専門職業人を目指す看護学生としての責任を自覚し、看護の学修者として、主体的、自律的、真摯な姿勢で臨むこと。 3. 本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、ヘルスアセスメント、看護過程演習、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得している、基礎看護技術Ⅲについては、単位修得見込みである。 		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>看護学生として初めて一人の対象を受け持ち、健康に障がいを持つ人を理解するとともに、健康障がいを持つ対象の健康問題を解決するための看護過程を展開し、看護を実践する思考プロセスを学ぶ。また他の専門職と連携・協働するチーム医療について学ぶ。同時に臨床判断、コミュニケーション技術、倫理的判断・行動についても学ぶ。これらを通して看護職に求められる知識・技術・態度について学びを深める。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 臨地において一人の対象を受け持ち、臨床判断、コミュニケーション技術、倫理的判断・行動について学ぶ。</p>		
授 業 の 計 画	<p>〔実習内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習目標に基づき、実習期間は2週間を予定している 2 成人期・老年期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する 3 対象患者に実習依頼し、受け持つことに同意と署名を受ける 4 学生が立案した看護計画に基づいて実施する援助は、主に生活援助技術である <p>詳細は、実習要項を参照 * 詳細な実習計画・資料等は、実習オリエンテーションで説明する * 実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である</p>		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 90 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 事前学修：既習の知識・技術について復習する。 事後学修：実習の振り返りの記載、翌実習の目標と行動計画を立てる。</p>		
成 績 評 価 方 法	実習要項の評価方法に準ずる。尚、単位認定要件は、実習記録一式が期限内に提出されたことを前提とする。		
教 科 書 (購 入 必 須)	既習科目（専門基礎科目、専門科目）および1年次に既習の教科書、参考図書、授業資料、その他全てを活用する。		
参 考 書 (購 入 任 意)	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。		

科 目 名	地域看護学実習				
科 目 名 (英 語)	Practicum: Home Care Nursing		シラバスNo.	260020620	
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志・松下 由惟				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師および看護師として臨床経験のある教員が、地域で暮らす在宅療養者の様々な生活場面において、各実習施設の専門資格を有する実習指導者のもと、在宅看護活動に必要な支援方法や家族ケアの実施に必要な専門的知識と技術についてまなび、看護師の役割について教授する科目				
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>○</u> DP3 : <u>◎</u> DP4 : <u>○</u> DP5 : <u>○</u> DP6 : <u>○</u>				
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす在宅療養者と家族の特性や生活上の課題やニーズを理解することができる。 2. 在宅療養者の疾病や障がいに対する気持ちの受け止めや価値観について考えることができる。 3. 在宅療養者や看護者である家族の健康や生活状態に応じた様々な支援のあり方について考えることができる。 4. 対象者が利用している社会資源について理解し、地域包括ケアシステムについて考えることができる。 5. 在宅療養者および地域全体の健康問題の解決に必要な保健・医療・福祉サービスの連携および協働から地域包括ケアシステムを理解する。 				
受 講 の 留 意 点	地域看護学および障害者福祉に関する制度や社会資源を復習して実習に臨むこと。実習では、在宅療養者の自宅や施設を訪問するため、学生として節度ある態度とマナーを大切に学ばせていただく姿勢で臨むこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>訪問看護ステーション、診療所の訪問看護、地域包括支援センター、障害者施設において実習を行う。訪問看護ステーションの実習では、在宅療養者の自宅に訪問看護師と同行し、在宅療養者の生活場面から訪問看護活動について学ぶ。地域包括支援センターの実習では、役割と機能および支援の実際について学ぶ。障害者支援施設での実習では、地域で生活する障がい者について、生活モデルを用いた支援の方法を学ぶ。</p> <p>これらの実習を通して、地域で生活する人々に関する在宅ケアサービスと保健・福祉・医療の連携および協働について理解する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 実習前後にグループワーク等を取り入れることで、個人およびグループ間で視野を広げて問題解決能力を養う。</p>				
授 業 の 計 画	<p>別途配布する「地域看護学実習要項」に基づいて、学内オリエンテーションを受けて実習を進める。</p> <p>実習期間と実習施設 1 週目 訪問看護ステーション 2 週目 地域包括支援センター、障害者支援施設</p> <p>実習方法と内容 数名ごとの小グループに分かれて、1 週目は訪問看護ステーション、2 週目は地域包括支援センターと障害者支援施設で実習を行う。実習最終日に、カンファレンスを行い、全員で各実習先での学びを発表し疑問点などを共有し学びの視点を広げるとともに学びを深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーション 在宅療養者の自宅に訪問看護師と同行し、在宅療養者の生活場面から訪問看護活動について学ぶ 2. 地域包括支援センター 地域包括支援センターの役割の機能、支援の実際について学ぶ 地域包括支援センターの保健師や社会福祉士などに同行し対象者への訪問および事業などを見学する 3. 障害者支援施設 障害者支援施設において、地域で生活する障害者および生活を理解し、様々なプログラムより生活モデルを用いた関わり方や支援の方法を学ぶ これらの実習を通して、地域で生活する人々に関する在宅ケアサービスと保健・福祉・医療・福祉の連携および協働について理解するとともに地域包括ケアシステムについて考える 				
授 業 時 間 外 学 修	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 90 時間、授業時間外学修時間 0 時間				

<p>(予習・復習)の内容</p>	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：実習要項で示す事前課題を中心に、教科書およびレジュメ、配布資料を振り返り知識を養う。 また、当事者および介護者の手記、訪問看護師や在宅医師の著書など幅広い読書および新聞記事に関心を持ち、訪問する対象者理解に繋げる。 実習する地域の地域包括ケアシステムについては把握しておくこと。 復習：訪問した利用者さんについて疾病および病態、訪問の目的、結果を振り返りレポートへ反映させる。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>実習要項の評価方法に準じる。 秀：90点以上、優：80-89、良：70-79、可：60-69、不可：59点以下とし、可以上の評価で単位を認定する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>河野あゆみ編：新体系看護学全書 地域・在宅看護論.メジカルフレンド社 石垣和子・上野まり編：在宅看護論 南江堂</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>上田泉編集：在宅看護過程演習—アセスメント・統合・看護計画から実施・評価へ（改訂版）クオリティケア 河原加代子著：系統看護学講座統合分野 「地域在宅看護論」医学書院 渡辺裕子監修：家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 日本看護協会出版会</p>

科 目 名	成人看護学実習Ⅱ				
科 目 名 (英 語)	Clinical Practice in Adult Nursing Ⅱ (Chronic)	シラバスNo.	260020640		
担 当 教 員 名	南山 祥子・長谷部 佳子・大久保 未央・松浦 真理				
学 年 配 当	3年	単 位 数	3単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	看護師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：◎ DP4：○ DP5：○ DP6：__				
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害の慢性期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。 2. 人間関係の重要性を認識し、健康障害の慢性期にある患者とその家族の心理的状态に応じた関わりをもつことができる。 3. 患者とその家族がその人らしく過ごせるように、生活の視点から教育指導を含む支援活動を考え、実践することができる。 4. 社会復帰に向けて、必要な保健医療・福祉サービスなど関係職種との連携・協働について理解することができる。 5. 看護学生として責任ある行動をとることができる。 				
受 講 の 留 意 点	<p>学内ですでに履修済みの専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論Ⅱ）で学んだ知識・技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行って実習に臨むこと。</p> <p>履修には、成人看護活動論Ⅰと成人看護活動論Ⅱの単位を修得している必要がある。</p>				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>健康障害の慢性期にある成人期の患者を1名受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。そのなかで、疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしい生き方を支えるための看護の実際を学ぶ。また、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 学生カンファレンスのテーマ、目的、内容についてグループワークを行う。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学実習要項に基づいて実習オリエンテーションを行う。 2. 実習期間は3週間としている。 3. 成人期にある患者を受け持ち、臨床指導者の指導のもと看護実践する。 4. 教員の指導のもと、受け持ち患者の看護過程を展開し、評価を行う。 5. 学生カンファレンスを行い、看護について考えるとともに学びの共有をする。 6. 実習終了後、実習記録、看護過程、実習レポートを提出する。 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 135 時間 (3 単位×45 時間) うち授業時間 135 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体形態学・人体機能学・病理学・薬理学・臨床薬理学・生化学などの疾患にまつわる予習。 ・受け持ち対象者の病態の復習、看護実践にまつわる内容の復習。 ・看護過程を展開する。 				
成 績 評 価 方 法	実習要項の評価方法に準ずる。				
教 科 書 (購 入 必 須)	履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学Ⅰ）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ・Ⅱ）で使用した教科書、参考書、講義資料などを活用する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	老年看護学実習		
科 目 名 (英 語)	Gerontological Nursing Practice	シラバスNo.	260020650
担 当 教 員 名	高橋 智美、澤田 知里、上原 主義		
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修
			開 講 形 態 実習
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方、高齢者との関わり方、看護過程の展開方法、ケアの方法等について実践を踏まえながら指導する。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <input type="radio"/> DP2 : <input type="radio"/> DP3 : <input checked="" type="radio"/> DP4 : <input type="radio"/> DP5 : <input type="radio"/> DP6 : <input type="checkbox"/>		
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期は、老いと病による健康障害を有しやすいものの、自らの持てる力を活用して生活を営んでいる。入院医療から保健医療福祉施設及び通所・居住施設で生活する高齢者を対象に望む（自律・自立）生活の実際や意思決定支援の在り方を体験的に学ぶ。 2. 高齢者のヘルスアセスメント（身体・精神・社会的な視点）と加齢変化による生活への影響を総合的に理解し、その人の持てる力を活かした生活支援の在り方や健康回復に向けた看護のプロセスを学ぶ。 3. 看護実践するために必要な基礎的能力と人生の先輩である高齢者を尊重する態度を養う。老年看護学実習全体を通して、高齢者を対象にした多職種連携と老年看護の役割・機能、高齢者の権利擁護を学ぶ。 		
受 講 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目は老年看護学概論、老年看護活動論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修できない。 ・ 病院及び施設内感染症流行時は臨地実習が中止、中断になることがある。 ・ インフルエンザワクチン接種の要請を受ける場合がある。罹患の場合は実習中断となる。 		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>高齢者は医療施設だけでなく、保健福祉施設や在宅等さまざまな場で生活している。多様な健康状況下にある高齢者の特性を理解し、学内で学んだ知識・技術、専門職としての態度と倫理観を看護実践の場において統合的に応用する。疾患や障害を抱えながらも豊かで多様な高齢者の生き方を支援するための高齢者の自立・自律・尊厳に配慮した BSC (best-supportive-care) について実践する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 カンファレンス時のディスカッション、ブレインストーミング、ラウンド・ロビン等</p>		
授 業 の 計 画	<p>実習方法：老年看護学実習は、居宅施設・通所サービスでの体験型実習（2週間）と病院もしくは老人保健施設での受持ち制実習（2週間）で構成される。</p> <p><u>I 体験型実習（2週間）</u> 高齢者施設で生活をする対象の発達課題、特性を理解し、対象者の健康障害や生活状況に応じた援助を体験する。また高齢者施設の役割と課題、施設における看護の役割・機能を考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症高齢者の生活の場の機能と役割について理解できる。 2. 認知症高齢者の生活支援の特徴について理解できる。 3. 要介護高齢者が通所サービスを活用する意義について理解できる 4. 保健医療福祉活動における連携・協働と看護の役割について理解できる 5. 看護学生としての規範に基づき自律した行動ができる。 <p><u>II. 受持ち制実習（2週間）</u> 健康障害をもつ高齢者及びその家族に対して、知識・技術・態度を統合し、残存機能の維持、QOLの向上を目指した看護を実践するための基礎的能力を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の身体的・精神的・社会的特徴が説明できる。 2. 対象者の健康障害の特徴が説明できる。 3. 対象者の健康障害の特徴と日常生活動作を関連付けて説明できる。 4. 健康問題に応じた看護計画が立案できる。 5. 立案した看護計画に基づき、安全・安楽な看護実践ができる。 6. 看護実践の結果から、計画の修正・追加ができる。 7. 看護計画の評価ができる。 8. 対象者とその家族を支援する他職種との連携を知る。 9. 対象者の意思、主体性を尊重した関わりができる。 10. 実習に意欲的に取り組むことができる。 		

	<p>* 実習場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験型実習：名寄市内（風連町）・士別市内・美深町・下川町 ・受持ち制実習：名寄市内，他近隣市内 <p>* 事前ガイダンスや課題がある。</p>
授 業 時 間 外 学 修 （ 予 習 ・ 復 習 ） の 内 容	<p>総学修時間 180 時間（4 単位×45 時間） うち授業時間 180 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習：老年看護学概論、老年看護活動論Ⅰ・Ⅱで学修した内容について復習をする。 実習前に必修事前課題を提示する。</p> <p>復習：毎日の実習内容を実習記録にて振り返り、翌日に向けた課題を明確にする。</p>
成 績 評 価 方 法	<p>実習要項記載の評価項目、評価方法に準ずる。</p>
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>リンダ J. カルベニート（黒江ゆり子監訳）：看護診断ハンドブック第 12 版，医学書院，2023. （前期購入済みの物）</p>
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<p>なし</p>

科 目 名	小児看護学実習			
科 目 名 (英 語)	Child Care Nursing-Clinical Practicum	シラバスNo.	260020660	
担 当 教 員 名	笹尾 あゆみ			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を有する教員と医療施設における臨床指導者が、小児看護の実践について教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ____ DP2 : <u>○</u> DP3 : <u>◎</u> DP4 : <u>○</u> DP5 : <u>○</u> DP6 : ____			
学 修 到 達 目 標	1. 保育所実習を通して、成長発達に応じた日常生活、遊びの支援ができる。 2. 小児看護における外来看護の役割を説明できる。 3. 入院している小児とその家族の看護問題を明らかにできる。 4. 発達段階や個別性を考慮した看護ケアを考え実施できる。 5. 小児看護における看護職の責務を考察できる。			
受 講 の 留 意 点	感冒や感染症の疑い・発症などは必ず報告してください。感染源・媒介の危険性がある場合は実習に行くことはできません。予防接種の履行および日常生活・健康の管理に留意してください 実習前には各自、既習の知識・技術の確認を行い、準備を整えて実習に臨みましょう			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	<p>別途配付する「小児看護学実習要項」に基づいて学内オリエンテーションを行い実習を進める。</p> <p>実習施設：小児病棟、小児科外来、市内保育所 実習期間：2 週間 実習方法：1 グループ 1 週間単位で小児病棟と小児科外来・保育所に入る</p> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児病棟 <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患児を決め、看護計画を立案する ・受け持ち患児の看護ケアを実施する ・実施した看護ケアについて評価し看護計画の修正を行う 2) 小児科外来 <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患児を決め、家庭で行っているケアについて情報収集を行い、必要な看護ケアについてアセスメントする ・健診や予防接種に来ている子どもや家族に必要なプレパレーションを実施する 3) 保育所 <ul style="list-style-type: none"> ・健康な子どもの日常生活や遊びについて発達段階に応じた支援を行う 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 90 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：小児看護学概論、小児看護活動論Ⅰ・Ⅱで学習した内容について復習をする 復習：毎日の実習内容を実習記録にて振り返り、翌日に向けた課題を明確にする</p>			
成 績 評 価 方 法	実習要項に本実習の目標に沿った評価項目・評価方法を提示、オリエンテーションで説明する			
教 科 書 (購 入 必 須)				
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	母性看護学実習				
科 目 名 (英 語)	Maternity Nursing Practicum	シラバスNo.	260020670		
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、永井 紅音、青木 万美、笹尾 あゆみ				
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、妊娠分娩産褥期の母親と新生児の看護実践の基本を医療施設の臨床指導者と共に指導する科目				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：◎ DP4：○ DP5：○ DP6：__				
学 修 到 達 目 標	<p>学生は、女性およびその家族を対象として、母性の健全な成長発達を促し、健康の維持・増進、発達課題の達成を促すための看護方法を学び、母性看護の役割について考えることができる。</p> <p>1) 学生は、妊娠、分娩、産褥期における女性の特性を身体的、心理的、社会的側面から理解し、各期の過程に影響する要因について理解できる。</p> <p>2) 学生は、母性意識の育成および母子関係、家族関係成立にむけての支援を学ぶことができる。</p> <p>3) 学生は、妊産褥婦がセルフケア行動や養育行動を獲得していく過程の支援を学ぶ。</p> <p>4) 学生は、新生児の生活を整える働きかけを通して、新生児が胎外生活に適応していく過程を理解することができる。</p> <p>5) 学生は、生命の尊厳や母性の尊重について、自己の考えを深めることができる。</p> <p>6) 学生は、母子保健活動の実践を通し、母子を継続して支援する方法を学び、その必要性を理解できる。</p>				
受 講 の 留 意 点	母性看護学概論，母性看護活動論Ⅰ，母性看護活動論Ⅱをすべて履修済であること。 事前に配布する実習要項，特に達成目標を読み，事前学習を行い，活動論Ⅰ・Ⅱで作成したまとめを実習で活用すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>1) 学生は、妊娠・分娩・産褥期にある母子を受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより発達課題や発達危機、健康状態を把握し、母子の健康を維持促進するために必要な看護実践の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>2) 学生は、地域で生活する褥婦及び新生児の健康状態および地域が抱える課題について学ぶ。</p> <p>3) 学生は、地域における母子保健活動の実際を学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<p>実習内容(産科病棟実習・産科外来実習)</p> <p>周産期からの母性看護の対象が訪れる施設と地域を理解する。また、実習中に関わる1事例以上の対象の特性を理解し、看護過程のアセスメントを通して看護の方法を学ぶ。</p> <p>実習方法</p> <p>1) 実習場所 (2か所) ・名寄市立総合病院3階西病棟、旭川厚生病院4階病棟、 名寄市立総合病院産婦人科外来 1グループ：1週間単位で病棟・分娩参加見学チームと外来・学内事例展開チームで交替する(1G8名)</p> <p>2) 実習内容</p> <p>(1) 周産期母子実習(病棟) ・褥婦と新生児の看護：1例受持ち ・産婦の看護は参加見学</p> <p>(2) 産婦人科外来実習 ・妊婦健康診査・保健指導の見学及び一部実施(1例以上) ・事例展開</p> <p>計 実習期間 2週間</p>				

<p>授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 90 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 記録をまとめ、対象を全人的にとらえる。 対象のケアなどの予習を行う。</p>
<p>成 績 評 価 方 法</p>	<p>実習評価表に基づき評点を入れ総合する。 実習態度、対象とのコミュニケーション、学生同士、スタッフとの連携、報告連絡相談ができてい るか。</p>
<p>教 科 書 (購 入 必 須)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学各論 母性看護学 2 森恵美 (医学書院) ・ナーシンググラフィカ母性看護学③母性看護技術 ・ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 太田操 (医歯薬出版)
<p>参 考 書 (購 入 任 意)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえる VOL10 産科 第4版 (メディックメディア) ・看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ, Ⅱ 前原 澄子 (編集) (中央法規出版) ・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学概論 母性看護学 1 森恵美 (医学書院)

科 目 名	精神看護学実習			
科 目 名 (英 語)	Mental Health and Psychiatric Nursing : Clinical Practicum	シラバスNo.	260020680	
担 当 教 員 名	結城 佳子、中島 泰葉			
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	精神科医療機関等において、看護師等として実務経験を持つ教員及び臨地実習指導者による指導のもとで看護援助を実践し、それを通して対象理解、看護援助方法ならびに人権擁護等を学び、看護師の役割について教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>○</u> DP3 : <u>◎</u> DP4 : <u>○</u> DP5 : <u> </u> DP6 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	<p>心を病む人とのかかわりを通して、これまで学習した知識を活用しながら、対象の精神的・身体的・社会的側面を含めた包括的な理解を深め、精神看護を実践する能力を身につける。さらに、精神科医療チームにおける看護師の役割を理解する。既習の知識を基盤とし、知識・技術・態度の統合を図りつつ、病院、施設、在宅、地域等の多様な場において、多様な人を対象として援助実践を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神健康について援助を必要とする人とその家族に対して、精神的・身体的・社会的側面等からアセスメントすることができる。 2. 精神健康について援助を必要とする人とその家族に対して、治療的コミュニケーション技法および精神科における看護援助方法を用いて、看護を実践することができる。 3. 精神健康について援助を必要とする人とその家族に対して、実践した看護を省察できる。 4. 精神科領域における医療チームの一員として、必要な報告連絡相談ができる。 			
受 講 の 留 意 点	履修には、精神看護学概論、精神看護活動論Ⅰ、精神看護活動論Ⅱの単位を修得している必要がある。対象者および家族の人権を擁護しつつ看護実践に取り組み、主体的に学ぶ姿勢を求める。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科病棟等において患者・家族を対象とした看護実践を行う。あわせて、施設見学、精神科における治療・リハビリテーションの見学を行う。 2. 看護実践を通して、精神看護に必要な基礎的な知識・技術を習得し、精神科において看護職に求められる基本的な態度を養う。 3. 治療・リハビリテーションの見学や看護実践を通して、他職種との役割と医療チームにおける看護職の役割を理解する。 <p>アクティブ・ラーニングの内容 既習の知識を基盤とし、知識・技術・態度の統合を図りつつ、看護実践を通して学ぶ。また、看護実践を通して、対象者や関係者との人間関係形成、看護専門職としての批判的・創造的思考、自己省察の能力を涵養する。</p>			
授 業 の 計 画	<p>別途配布する要項に基づき、オリエンテーションを行う。</p> <p>実習施設において、臨地実習指導者および教員の指導のもと、看護実践を行う。</p> <p>1～30 精神科における治療・リハビリテーションの実際を見学する。</p> <p>受け持ち患者等とのかかわりをプロセスレコードに記録し、自己理解に活用する。</p> <p>実習記録、総合レポートを提出する。</p>			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 90 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 精神看護学概論，精神看護活動論Ⅰ，精神看護活動論Ⅱをはじめ，既修得科目で学んだ知識・技術を活用するため，実習開始前に確認しておくこと。その他，実習中においても，学習到達目標の達成に必要な学習を随時補足すること。</p>			
成 績 評 価 方 法	評価項目・評価方法を実習要項に提示、実習前に実施するオリエンテーションにて説明する。 総合点 60 点以上を単位認定する。			

教科書 (購入必須)	テキストは使用しない。
参考書 (購入任意)	必要時指示する。

科 目 名	統合実習			
科 目 名 (英 語)	Integrated Clinical Practicum		シラバスNo.	260020690
担 当 教 員 名	看護学科教員			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健師・助産師・看護師としての実務経験を持つ教員が、より実践的な状況場面における看護の展開を教授する科目。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>○</u> DP3 : <u>◎</u> DP4 : <u>○</u> DP5 : <u>○</u> DP6 : <u>○</u>			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1.保健医療チームの組織・機能・管理及びチームの一員としての看護師の役割を具体的に説明できる。 2.他職種、他機関等との連携・協働および統合的・継続的な看護実践の必要性について具体的に説明できる。 3.看護実践に必要な知識・技術を統合し、より実践的な状況・場面における看護展開に取り組み、自己評価できる。 4.看護職に求められる専門性とその責任、質の高い看護実践をめざして自己研鑽を継続する必要性を具体的に説明できる。 			
受 講 の 留 意 点	4年間の学びの集大成の実習であり、主体的に学び、自己を研鑽する姿勢をもって実習に臨むこと、看護学生として責任ある行動をとることが期待される。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>各看護学領域または領域間の連携により実習する。各領域の専門性を反映した実習内容により実習目的・目標の到達をめざす。学生は、選択した領域の実習計画に基づき、配置された実習施設での実習を行う。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識を基盤とし、知識・技術・態度の統合を図りつつ、看護実践を通して学ぶ。また、看護実践を通して、対象者や関係者との人間関係形成、看護専門職としての批判的・創造的思考、自己省察の能力を涵養する。 ・グループディスカッションにより学びを共有する。 			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 別途配布する「統合実習要項」に基づき、学内でのオリエンテーションを行う。 2. 各領域等の実習計画について説明し、領域等の配置について希望調査を行う。 3. 希望に応じて領域ならびに実習施設配置を調整する。 4. 教員および臨地実習指導者等の指導のもと、領域の専門性を反映した、より実践的な看護活動を行う。 5. 学内演習等により学びを深め、その統合を行う。 6. 看護実践を省察し、記録類を作成、提出する。 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 90 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各領域の指示を受け事前学習を行う。</p>			
成 績 評 価 方 法	実習要項の評価方法に準ずる。			
教 科 書 (購 入 必 須)	特に指定しない。			
参 考 書 (購 入 任 意)	必要時指示する。			

科 目 名	看護倫理			
科 目 名 (英 語)	Nursing Ethics	シラバスNo.	260020700	
担 当 教 員 名	泉澤 真紀			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	<p>本科目は、看護専門職に求められる倫理的感性と倫理観を養うことを目的とします。講義を通して倫理の基本的な考え方を理解し、人間理解を基盤とした看護の本質に触れるとともに、グループワークを通して、医療現場に潜む倫理的課題に気づき、多様な価値観を踏まえて考える力を育みます。さらに、自らの考えを言葉にし、他者と対話しながら学ぶ過程を通して専門職としての責任や看護職の在り方について探求していきます</p>			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : ___ DP3 : ○ DP4 : ◎ DP5 : ___ DP6 : ___			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理の基本的な考え方を踏まえ、看護倫理とは何かを人間理解の視点から説明できる。 2. 医療倫理の沿革を通して、生命倫理及び看護倫理の原則的な考え方を理解し説明できる。 3. 医療における倫理的問題に気づき、多様な価値観を踏まえて看護の立場から考えを述べることができる。 4. 看護職の倫理綱領をもとに、専門職としての自覚と責任について考え、主体的に学ぶ姿勢を示すことができる。 5. 倫理的課題について他者と意見を交わしながら考察し、協働で学ぶ姿勢を身につけることができる。 			
受 講 の 留 意 点	<p>看護が倫理実践であることを踏まえ、よい看護とは何かについて一緒に考えたいと思います。グループ・ディスカッションには主体的に参加しましょう。 受講中の態度、及び欠席・遅刻・途中退席は、態度点として評価します。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>講義をもとにグループワークを通して看護倫理について深めていきたいと思っています。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容 ビデオ学習・グループワーク・グループディスカッションを実施します。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 倫理とは何か、倫理の基本的考え方 2 古典的な医療倫理（ヒポクラティスの誓い・ナイチンゲール誓詞） 3 生命倫理とは何か（倫理原則） 4 看護倫理とは何か（善行と無害・正義・自律・誠実・忠誠） 5 看護実践上の倫理概念（アドボカシー・責務・協力・ケアリング） 6 （グループワーク）性と生殖の生命倫理（私たちの選択：出生前診断） 7 （グループワーク）死の生命倫理（生きていく理由：エンド・オブ・ライフ） 8 専門職の倫理：看護師の倫理綱領 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 指定教科書を読んでください。 日頃から医療現場における倫理的問題に関心を持ちましょう。</p>			
成 績 評 価 方 法	授業態度 10% リアクションペーパー40% レポート課題 50%で評価します。			
教 科 書 (購 入 必 須)	宮坂道夫（2026）. 系統看護学講座別巻看護倫理, 医学書院.			
参 考 書 (購 入 任 意)	手島恵（2026）. 看護職の基本的責務, 日本看護協会出版会.			

科 目 名	看護マネジメント論			
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	260020710	
担 当 教 員 名	井戸川 みどり・久保 千夏・植山 さゆり・日下 玲子			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	現在、看護管理者として看護マネジメントを実践している教員が、看護を取り巻く法制度、マネジメントの知識・技術を教授する科目。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：___ DP4：___ DP5：◎ DP6：___			
学 修 到 達 目 標	<p>看護サービスを提供するためには、看護職同士の協同、他職種との連携、対象者自身や家族の協力とともに、対象者を取り巻くあらゆる資源を十分に活用することが必要となる。人的・物的・財的資源は、自然発生的に無限にあるのではなく、多くの場合有限である。これらの資源をいかに有効利用するかが重要であり、それを維持・活用するための仕組みを理解することを目標とする。</p> <p>1.看護マネジメントの概念及び関連する法や諸制度について説明できる。 2.看護業務の実践のために必要なマネジメントについて説明できる。 3.看護サービスのマネジメントとその対象となるさまざまな資源について説明できる。 4.看護マネジメントに必要な知識・技術について説明できる。</p>			
受 講 の 留 意 点	開講前の準備として、実習中に気づいた看護管理に関する問題・疑問・課題解決に向けて考えたことを整理しておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>1.チームや組織をつくり動かしていくことは管理者だけの仕事ではなく、ケアを提供しているすべての看護職が担う役割であることを学ぶ。 2.看護を仕組みとしてとらえ、それがどのようなになっているのか、問題はなにか、どのような改善策があるのか、どのようにすればより良い看護が提供できるのか等を追及し、多数の人々が共に働くための「技」を学ぶ。</p>			
授 業 の 計 画	<p>1 看護とマネジメント 2 看護ケアのマネジメント 3 看護ケアのマネジメント 4 看護ケアのマネジメント 5 看護サービスのマネジメント 6 看護サービスのマネジメント 7 看護サービスのマネジメント 8 看護サービスのマネジメント 9 看護を取りまく諸制度 10 看護を取りまく諸制度 11 看護を取りまく諸制度 12 看護を取りまく諸制度 13 マネジメントに必要な知識と技術 14 マネジメントに必要な知識と技術 15 マネジメントに必要な知識と技術</p>			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 事前学習：各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。 事後学修：講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。</p>			

成績評価方法	レポート100点で評価する。
教科書 (購入必須)	上泉和子他 『系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践 [1]』 医学書院
参考書 (購入任意)	必要時指示する。

科 目 名	看護教育学		
科 目 名 (英 語)	Nursing Education	シラバスNo.	260020720
担 当 教 員 名	定廣 和香子・松田 安弘		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師としての実務経験及び看護教育における豊富な実践、研究経験を持つ教員が、看護教育学の基本を教授する科目		
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ___ DP2 : <u>○</u> DP3 : <u>○</u> DP4 : <u>○</u> DP5 : <u>○</u> DP6 : <u>◎</u>		
学 修 到 達 目 標	<p>① 看護教育学の構造・基本概念を理解し、看護教育制度の特徴と課題を明らかにする。</p> <p>② 看護教育カリキュラム編成・授業展開・教育評価の基本を理解する。</p> <p>③ 看護専門職として発展するために必要な理論・研究成果を学習し、その特徴と意義を明らかにする。</p> <p>④ ①から③を通して、大学において看護学を学習する上での自己の課題を明らかにする。</p>		
受 講 の 留 意 点	看護教育学は、学生の皆様を含む看護職者の発達の支援を通して、看護の対象に質の高い看護を提供することを目指す学問です。また、その研究対象は、看護学教育の各領域に共通して普遍的に存在する要素（学習活動、教育活動、カリキュラム、教育評価、看護学実習 etc）です。講義では、様々な看護教育学の研究成果を紹介しながら授業を進めていきます。皆様が、看護学の学習を進める上での課題や問題を解決するヒントを見つけていただければ幸いです。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>看護教育学の構造・基本概念の理解を基本として、わが国における看護教育制度、看護学教育におけるカリキュラムのプロセス、教授＝学習過程、教育評価について学習することを通し、看護職養成教育の現状と今後の課題について考察する。また、専門職として発展するために必要な理論・研究成果を学習するとともに、これらの学習を通して、大学において看護学を学ぶ意義と課題を確認する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容：講師が提供した話題を出発点とした対話型の授業を行う。</p>		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・看護教育学と看護学教育 2 看護教育制度（1）基礎 3 看護教育制度（2）発展 4 看護教育カリキュラム 5 看護学教育における授業展開（教授＝学習過程） 6 看護学教育における教育評価 7 看護専門職として発展するために必要な理論・研究成果 8 看護学教育の現状と今後の課題 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習（90 分）各回のテーマについて調べ、疑問点等を明確にしておく。 復習（90 分）講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を一編以上読む。</p>		
成 績 評 価 方 法	レポートで評価する。(100 点)		
教 科 書 (購 入 必 須)	なし（授業資料を配布する）		
参 考 書 (購 入 任 意)	杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学第 8 版、医学書院、2024		

科 目 名	災害看護学・国際看護学			
科 目 名 (英 語)	Disaster Nursing and International Nursing	シラバスNo.	260020730	
担 当 教 員 名	長谷部 佳子、塚原 高広、未定			
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	災害看護学では、大規模自然災害時および大規模感染拡大時に保健師として支援活動を実施した教員が担当する。国際看護学では、看護師資格を有し、JICA の草の根事業申請のためモンゴル国で活動した経験、および赤十字関連のインドネシアで活動した経験を通じて講義を展開する。			
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ◎ DP2 : ○ DP3 : ○ DP4 : ___ DP5 : ___ DP6 : ___			
学 修 到 達 目 標	災害看護学では、災害の種類および災害に関する法令等を理解する、災害看護の歴史および基礎知識を理解する、災害時の医療・看護活動の実際について理解する、災害時を念頭ににおいた日々の看護活動について考察する、の 4 点を目標とする。国際看護学では、グローバルな視点で看護活動を考えられるようになることを目標とする。			
受 講 の 留 意 点	出席および成績評価は、災害看護学部分と国際看護学部分に分かれそれぞれ 6 割を必要とする。極力遅刻や欠席のないように臨む。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	授業は災害看護学部分と国際看護学部分のオムニバスである。災害看護学では、災害に関する基礎知識および災害看護学に関する実際の活動等について講義を通じて理解を深めた後に、実際の活動についての体験談や演習を通じて、ひとり一人が災害時の看護活動について考える機会を持つことのできる授業とする。国際看護学も同様に、総論・各論の講義を通じて理解を深めた後に、実際の活動に関する体験談を含む演習を通じて、国際看護の視座を養う。			
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害看護学オリエンテーション・災害について・災害看護学の歴史について 2 災害に関する法律・法令 3 様々な災害から生まれた支援活動の教訓について 4 災害時の看護活動について (DMAT の実際) 5 トリアージについて 6 災害保健について (保健師活動の実際) 7 放射線災害について 8 国際看護を考えるうえでの理論・制度 9 国際協力の仕組み、日本との関係 10 世界の健康問題 11 海外での国際看護活動 1 12 海外での国際看護活動 2 13 日本における国際看護活動 1 14 日本における国際看護活動 2 15 統合学習 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習 (30 分) 授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと 復習 (30 分) 教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること			
成 績 評 価 方 法	災害看護学部分はレポート評価を行う。国際看護学部分もレポート評価を行う。			

教科書 (購入必須)	なし
参考書 (購入任意)	なし

科 目 名	看護情報学			
科 目 名 (英 語)		シラバスNo.	260020740	
担 当 教 員 名	村上 正和			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が看護実践における情報の活用と情報倫理を含む情報管理の実践を教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : ○ DP2 : ○ DP3 : ○ DP4 : ____ DP5 : ◎ DP6 : ____			
学 修 到 達 目 標	①看護情報学における基礎的知識を理解できる。 ②看護における情報の特徴とその扱い、看護者としての情報倫理を理解できる。 ③今日、臨床で活用されている情報システムとその活用について理解できる。			
受 講 の 留 意 点	本科目は、講義後の課題やリアクションペーパーの提出をもって出席確認を行う。たとえ受講されていても、上記の提出がなければ出席の扱いとならないので注意されたい。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	本科目は、これまで学習してきたコンピュータリテラシーを再確認するとともに、看護が扱う情報についての基本的特徴、看護場面における情報の持つ意味・特徴、医療情報システムの概要と看護における活用について学習し、プライバシーに関する基本的知識と態度を習得し、自らが看護に関する情報をより効率的に的確に利用できる能力を涵養することを目指す。			
	アクティブ・ラーニングの内容 履修者が能動的にインターネットを用いて行う問題解決学習を実施する。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 コースオリエンテーション・看護情報学の概要と看護師が身に着けるべき ICT 能力 2 コンピュータリテラシーと情報リテラシー 情報倫理と法 3 看護におけるデータ・情報の特徴 4 医療情報システム 看護用語の標準化と標準看護計画 5 情報共有演習①～インターネットを用いて行う問題解決学習 6 情報共有演習② 7 看護における情報システム活用例 8 統合学習 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：次回講義テーマにおける疑問点をまとめておくこと 復習：配布された資料を再度読み返し、授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること			
成 績 評 価 方 法	小テスト 60%、課題レポート 30%、授業態度・講義ごとのリアクションペーパー10%により総合的に評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)				
参 考 書 (購 入 任 意)	<ul style="list-style-type: none"> ・中山和弘他：系統看護学講座 別巻 看護情報学/医学書院 2026 ・太田勝正他：エッセンシャル看護情報学/医歯薬出版 2026 ・坂田信裕監修：だいじょうぶ？あなたの情報リテラシー(DVD)/医学映像教育センター 			

科 目 名	看護統合演習		
科 目 名 (英 語)	Integrated Nursing Practice	シラバスNo.	260020750
担 当 教 員 名	看護学科教員		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択
開 講 形 態	演習		
資 格 要 件			
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護職として実践経験のある教員が講義およびグループ活動を担当する科目。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>○</u> DP3 : <u>○</u> DP4 : <u>○</u> DP5 : <u>◎</u> DP6 : <u>○</u>		
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術に必要な知識、留意事項について説明できる。 2. 実際臨床で行われている実践に近い看護技術のスキルを習得することができる。 3. 卒業生の講演や懇談から臨床現場の実際を知り、看護専門職として・社会人としての心構えができる。 		
受 講 の 留 意 点	卒業直前の演習であり、看護師として働いている卒業生の指導を受けられる。実習では体験できなかった現場のスキルや、看護師として働くということについて、卒業生から積極的に学ぶことを期待する。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>臨床に即した看護技術実践力の向上、専門的看護技術の向上、看護専門職者としての心構えを涵養する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 優先度や判断力を育成する多重課題を有する患者のロールプレイを行う。 2. 卒業生を含む臨床現場の看護師の指導を受けながら、実習や学内演習では体験できない診療補助技術の演習を行う。 3. 卒業生から「看護専門職者として求められていること」や「社会人としての心構え・新人としての臨床の体験」などの講演を聞く。 		
	<p>アクティブ・ラーニングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識・技術を統合し、実践的な看護実践を行う。 ・グループディスカッションにより学びを共有する。 		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 講義①採血 3. 講義②点滴静脈内注射 4. 講義③輸液ポンプ・シリンジポンプ 5. ロールプレイ① 多重課題 6. ロールプレイ② 多重課題 7. 卒業生講演① 看護師として、社会人として 8. 卒業生講演② 卒業1年を経過して 9. 技術演習① 点滴静脈内注射・輸液ポンプ・採血 他 10. 技術演習② 点滴静脈内注射・輸液ポンプ・採血 他 11. 技術演習③ 点滴静脈内注射・輸液ポンプ・採血 他 12. 技術演習④ 点滴静脈内注射・輸液ポンプ・採血 他 13. 演習の振り返り 14. 卒業生・臨床看護師との交流会① 15. 卒業生・臨床看護師との交流会② 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識・技術を統合し、より実践的な看護実践とその評価を行う科目であるため、演習で実践する技術項目および関連する知識を予習し、ノートにまとめる。 ・演習での実践を自己評価し、知識・技術を必ず補足学習する。 		
成 績 評 価 方 法	レポート 100 点で評価する。		

教科書 (購入必須)	特に指定しない。
参考書 (購入任意)	必要時指示する。

科 目 名	看護研究の基礎		
科 目 名 (英 語)	Fundamentals of Nursing Research	シラバスNo.	260020760
担 当 教 員 名	長谷部 佳子・南山 祥子・高橋 智美		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修
		資 格 要 件	看護師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護師資格を有し、医療施設や大学院などでの指導実績がある教員が基礎知識および研究について講義する。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：___ DP4：○ DP5：◎ DP6：○		
学 修 到 達 目 標	1. 看護における様々な事象について、専門的知識・技術の向上や開発につながる信頼性・妥当性の高い知見を導き出すために必要な研究の知識や研究方法への理解を深めることができる。 2. 実践の場における研究活動を自立して行うための考え方の基本を身につけることができる。		
受 講 の 留 意 点	卒業研究活動を進めていくうえで必須の学習内容であり、グループワークも多いことを留意のうえで出席すること。積極的に講義・演習に参加することを期待する。既修の情報処理Ⅰ・Ⅱ、疫学の復習をしておくことが望ましい。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	新しい知見を導き出すために必要な看護研究の方法論について、先行研究論文のクリティークや具体的な研究計画立案とデータ収集・分析を通じて学び、研究に重要な科学的かつ論理的な思考方法や、研究者としての倫理について理解を深める。 アクティブ・ラーニングの内容 先行研究論文のクリティークや具体的な研究例の提示、および研究計画立案からデータ収・分析の過程においてグループ・ワーク、グループ・ディスカッションを行う。		
授 業 の 計 画	1 看護研究とは、看護における研究の必要性と意義 2 看護研究の方法 3 看護研究における倫理 4 文献検索と検討①クリティークの視点 5 文献検索と検討②自己の研究テーマへの活用 6 研究計画の立て方①研究方法の決定方法 7 研究計画の立て方②評価項目の決定方法 8 調査研究①量的研究と質的研究 9 調査研究②データ収集の方法と注意点 10 実験研究 11 調査研究③調査の実施 12 調査研究④質的データの整理 13 研究発表の技法 14 看護研究の実際①研究計画書の作成 15 看護研究の実際②データ分析と論文執筆、発表		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：各章に関連する教科書を読み込んでおく。 復習：①講義内容を振り返りノートにまとめる。 ②研究計画書立案などのレポート作成に取り組む。		
成 績 評 価 方 法	評価方法：レポートで評価する。 評価割合：レポート 100% 評価基準：レポートは、長谷部 55 点、南山 30 点、高橋 15 点を合わせて 100 点満点で評価する。 評点は、秀 90 点以上、優 80 点以上 90 点未満、良 70 点以上 80 点未満、可 60 点以上 70 点未満 及び不可 60 点未満とする。		

教科書 (購入必須)	岡本和士, 長谷部佳子: 看護研究はじめの一步, 第1版, 医学書院, 2006
参考書 (購入任意)	下記その他、必要時指示する。 黒田裕子: 看護研究 step by step, 第6版, 医学書院, 2017

科 目 名	卒業研究			
科 目 名 (英 語)	Graduation research	シラバスNo.	260020770	
担 当 教 員 名	看護学科教員			
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健師・助産師・看護師としての実務経験を持つ教員が、看護に関する研究のプロセスや方法を教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1 : <u>○</u> DP2 : <u>○</u> DP3 : <u>○</u> DP4 : <u>◎</u> DP5 : <u> </u> DP6 : <u> </u>			
学 修 到 達 目 標	<p>看護研究の基礎で学んだことをもとに、科学的・論理的思考を学ぶとともに、将来にわたって研究に対する関心を深め、研究的態度と姿勢を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.既修の知識，経験から看護学に関する研究課題を明確化し、説明できる。 2.研究課題に関する先行研究を適切に収集、検討することができる。 3.自らが取り組む研究について、研究目的を説明できる。 4.研究目的に適した研究方法および倫理的配慮について説明できる。 5.研究方法に基づいてデータ収集することができる。 6.収集したデータを分析し、結果にまとめ、考察することができる。 7.研究成果を論文形式で記述することができる。 8.研究成果を報告会で発表し、討議することができる。 			
受 講 の 留 意 点	<p>担当教員の指導のもと、研究対象者への倫理的配慮を十分に検討し、必要な倫理審査を受審する。調査等においては、研究対象者に対し十分な説明を行ったうえで、協力への同意を得て実施する。患者・看護職等外部者に協力を依頼する場合は、特に倫理的配慮に留意し、必要であれば関係機関の倫理審査を受審する。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>既習の知識や看護学実習から生まれた問題意識を研究課題へ発展させ、研究計画書作成から論文作成、発表までの過程について学ぶことを目的とする。小人数ゼミナール及び担当教員の指導により、研究課題に関する文献検索から目的を明確にし、適した研究方法を選択し研究計画書を作成する。必要時は倫理審査を受ける。研究計画に基づきデータ収集（実施）、分析、考察を行い、論文としてまとめていく。更に、報告会で発表と討議を行う。研究計画から実施、まとめ、発表の一連を通して、科学的・論理的思考を学ぶとともに、継続的に自己を研鑽する態度を養う。</p>			
	<p>アクティブ・ラーニングの内容 ゼミナール形式での演習である。</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 全体ガイダンス 2 関心のある課題を設定して、その課題追究の可能性を探究する 3 先行研究のクリティークを行い、研究の目的や価値・意義を検討する 4 先行研究のクリティークを行い、研究デザインを検討する 5 研究目的に合った研究方法を検討し、データ収集するための資料を作成する 6 研究計画書を作成する 7 倫理的配慮を検討し、必要に応じて倫理審査を受審する 8 研究の実実施施設、対象者に依頼・調整し、協力を得る 9 研究計画書に基づき、データを収集する 10 収集したデータの整理を行い分析する 11 分析結果を先行研究の結果と対比しながら考察を行う 12 研究の結論を明らかにし、文章化に取り組む 13 定められ体裁を整え、研究成果を論文・抄録にまとめる 14 研究成果の発表と討議を行う 15 研究の全過程を振り返り、自己課題の達成度および取り組みの態度の自己評価を行う 			

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 事前学修：研究テーマに基づき、文献・先行研究の講読・検討を行う。 事後学修：担当教員の指導のもと研究を行う。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>評価表に基づき、評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>テキストは使用しない。</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>各担当教員が指示する。</p>

科 目 名	公衆衛生看護学概論			
科 目 名 (英 語)	Introduction to Public Health Nursing	シラバスNo.	260020780	
担 当 教 員 名	播本 雅津子			
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師の経験を有する教員と行政保健師・病院看護師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護学の導入として公衆衛生看護の発展および保健師活動について概説する。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：○ DP4：○ DP5：○ DP6：__			
学 修 到 達 目 標	公衆衛生看護活動は、地域において、個人・家族・集団・組織等を対象に、人々の健康への援助を看護の立場から活動展開することである。公衆衛生看護の視点は、公衆衛生を基盤とし、対象集団全体の健康増進と疾病予防を目指している。ここでは公衆衛生看護の活動の概要および、公衆衛生看護の専門職である保健師について学び、保健師という専門職の役割を理解することを目標とする。			
受 講 の 留 意 点	遅刻・欠席のないよう健康管理に努めた上で授業に臨むこと。遅刻・欠席をする場合は必ず連絡をすること。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保健師という専門職を理解し、その活動分野および職種の役割について学ぶ。保健師という職業の成り立ちや時代背景、現代における役割期待など、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ導入とする。 アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 公衆衛生看護の理念と活動分野 3 保健師の専門性について 4 対象としての個人・家族 5 対象としての集団・組織 6 公衆衛生看護の歴史（1）保健師活動の源流 7 公衆衛生看護の歴史（2）健康課題の解決と保健師活動（昭和時代） 8 公衆衛生看護の歴史（3）健康課題の解決と保健師活動（平成時代） 9 社会環境の変化と健康課題（1）人口・社会構造・文化的背景 10 社会環境の変化と健康課題（2）社会情勢・政治経済等の変化 11 公衆衛生看護活動の基本展開（1）個人・家族へのアプローチ 12 公衆衛生看護活動の基本展開（2）集団・グループへのアプローチ 13 保健師活動の基本姿勢（1）保健指導 14 保健師活動の基本姿勢（2）保健師活動指針 15 まとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと 復習：教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること			
成 績 評 価 方 法	筆記試験およびレポート試験を行う。筆記試験 80 点、レポート試験 20 点としそれぞれ 6 割以上の評価点が必要である。			
教 科 書 (購 入 必 須)	和泉京子、上野昌江編集 公衆衛生看護学 第4版（中央法規）			

参 考 書
(購 入 任 意)

なし

科 目 名	創成看護学活動論 I				
科 目 名 (英 語)	Activity of Creation Nursing I	シラバスNo.	260020790		
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義・演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	看護学科教員が看護実践および研究活動を通して精通している課題に則して講義を展開する。各看護学で学んだ内容の深まりを期待するとともに、新たな看護分野の創成に取り組む意欲が養われることを期待する科目である。ここでは行政保健師の経験を有する教員が担当する。				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：○ DP5：___ DP6：___				
学 修 到 達 目 標	現代社会の課題と現状および現在の取り組みについて学び、今後看護職として果たすべき役割について各自が考える姿勢を持つことを目標とする。				
受 講 の 留 意 点	遅刻・欠席のないよう健康管理を心掛けること。授業回数が少ないため5回以上の出席が必要であるため体調管理に留意すること。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	基本となる看護学から発展した看護実践活動から、看護学の深まりや発展に気づくと同時に、生来的に新たな看護分野の創成に取り組む意欲が養われることを期待する科目である。現代社会の課題と現状および現在の取り組みについて学び、今後看護職として果たすべき役割について各自が考える姿勢を持つことを目標とする。看護学科教員が実務経験や研究活動を通して現代の社会問題や健康課題、看護活動の課題に関して教授する。				
	アクティブ・ラーニングの内容 グループディスカッションを取り入れる。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 睡眠公衆衛生学および睡眠保健指導 2 自殺予防対策とゲートキーパー活動 3 看護カンファレンスの実際 4 虐待予防への社会的取り組み 5 健全な親子関係育成の取り組み 6 Covid-19 対策の振り返り 7 看護職員確保対策について 8 まとめ 				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと 復習：教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること				
成 績 評 価 方 法	レポート試験 50 点、各回の小レポート合計 50 点により評価する。レポート試験および小レポート合計それぞれ 6 割の評価点を必要とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	なし				
参 考 書 (購 入 任 意)	なし				

科 目 名	創成看護学活動論Ⅱ			
科 目 名 (英 語)	Methods of Innovative Nursing Ⅱ	シラバスNo.	260020800	
担 当 教 員 名	長谷部 佳子			
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	医療施設や保健所で看護師、保健師の経験を有する教員が担当し、看護実践が今後更に期待される場について、多面的な分析を加えながら講義する。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：○ DP4：◎ DP5：○ DP6：__			
学 修 到 達 目 標	地域医療の現状を理解することで、看護職としての将来イメージを明確にできる。新たな看護分野の創成に取り組む意欲が高められる。			
受 講 の 留 意 点	地域医療の現状を理解するためのグループ・ワークが多いため、課題解決に向けた積極性や探究心を持って臨むこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	北海道の地域医療の現状について情報収集を行い、課題を明らかにすると共に、どのような看護活動（対策）が求められているのか提言としてまとめる。			
	アクティブ・ラーニングの内容 地域医療の現状と看護分野の新たな創成の可能性について、グループ・ワーク、グループ・ディスカッションを行う。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 こどもに関する地域医療の現状 2 新たな命を育むための地域医療の現状 3 移植医療に関する地域医療の現状 4 救命救急に関する地域医療の現状 5 僻地における地域医療の現状 6 ターミナルケアに関する地域医療の現状 7 ひきこもり・とじこもりに関する地域医療の現状 8 まとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間			
	【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：各回のテーマに関して、図書や新聞、インターネットなどを活用して居住地の実状を自己学習する。 復習：追加の情報収集を行い、求められている看護活動（対策）をレポートとしてまとめる。			
成 績 評 価 方 法	<p>評価方法：指定したトピックに関する資料作成（発表含む）、およびレポートによる試験とする。レポートは前期定期試験期間中に提出する。</p> <p>評価割合：レポート 65%、資料作成（発表含む） 35%</p> <p>評価基準：レポートと資料作成を合算した 100 点を満点として評価する。</p> <p>評点は、秀 90 点以上、優 80 点以上 90 点未満、良 70 点以上 80 点未満、可 60 点以上 70 点未満及び不可 60 点未満とする。</p>			
教 科 書 (購 入 必 須)	講義中に適宜資料を配付する。			
参 考 書 (購 入 任 意)				

科 目 名	公衆衛生看護技術論			
科 目 名 (英 語)	Skills of Public Health Nursing	シラバスNo.	260020810	
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志			
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師の経験を有する教員と行政保健師・病院看護師の経験を有する教員が担当する。保健師活動に必要な基本技術についての理論と実践活動例について教授する。			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：○ DP4：◎ DP5：○ DP6：___			
学 修 到 達 目 標	保健師活動の基本となる地域診断のモデルについて説明できる。 健康教育の理論を学び、場や対象に応じた方法を説明できる。 保健事業ごとに適した評価方法を選定することができる。			
受 講 の 留 意 点	他の演習科目の基本となる科目である。他の演習科目と合わせて学習を進めること。授業の進行は、他の科目の進行と合わせて上記とは順番が変わることがあり、オリエンテーションで具体的な日時を説明する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保健師活動に必要な技術について学習する。地域診断、地区組織活動、グループ活動、家庭訪問の展開、地域包括ケアにおける保健師の役割、ネットワークづくりとシステム化・事業化、保健活動の評価について教授する。 アクティブ・ラーニングの内容 並行して開講する演習科目で行うフィールドワーク、ロールプレイ、PBL 学習を念頭に本科目に取り組む			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 様々な地域診断モデルについて 3 コミュニティ・アズ・パートナーモデルについて 4 地域診断の応用 5 住民活動・組織化の実践 6 保健師が関わる地区組織活動・グループ 7 グループ活動とその支援 8 保健指導技術としての家庭訪問（1）理論 9 保健指導技術としての家庭訪問（2）実践 10 地域包括ケアにおける保健師の役割 11 ネットワークづくりとシステム化（1）理論 12 ネットワークづくりとシステム化（2）実践 13 保健活動の評価について 14 さまざまな評価方法 15 まとめ 			
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと 復習：教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること</p>			
成 績 評 価 方 法	筆記試験 100 点で評価する。			
教 科 書 (購 入 必 須)	和泉京子、上野昌江編集 公衆衛生看護学 第4版（中央法規）			

参 考 書
(購 入 任 意)

なし

科 目 名	公衆衛生看護技術論演習		
科 目 名 (英 語)	Activity of Public Health Nursing Skills	シラバスNo.	260020820
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択
		開 講 形 態	演習
		資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師の経験を有する教員と行政保健師・病院看護師の経験を有する教員が担当する。保健師活動に必要な基本技術を活用した演習を実施する。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：○ DP4：◎ DP5：○ DP6：___		
学 修 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域診断モデルを活用した地域の情報収集を行い、地域の特性を説明できる。 ・継続訪問活動を通じて、継続的な関わり意義や必要性を説明することができる。 ・カンファレンスを通じて、お互いの事例や学習を共有し、チームで課題解決に取り組むことの意義を説明できる。 ・地区組織活動の経験を通じて、住民自治組織の役割について説明することができる。 		
受 講 の 留 意 点	グループ演習が中心であるため、積極的な態度で臨むこと。 授業の進行は上記とは順番が変わるため、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。 遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保健師活動に必要な技術について演習を通して学習する。地域診断・継続的な家庭訪問、住民自治組織における住民自治活動や安否確認・防災・減災活動について学習する。		
	アクティブ・ラーニングの内容 PBL 学習を取り入れたグループワーク、フィールドワーク、家庭訪問、カンファレンスを行う。		
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 演習：地域診断の実際（1）名寄市を対象に－グループ分け 3 演習：地域診断の実際（2）名寄市を対象に－テーマ別情報収集 4 演習：地域診断の実際（3）名寄市を対象に－テーマ別地区踏査（市街地） 5 演習：地域診断の実際（4）名寄市を対象に－テーマ別地区踏査（農村部） 6 演習：地域診断の実際（5）名寄市を対象に－テーマ別報告準備 7 報告会（1）名寄市の地域診断 8 演習：様々な地域の地域診断（1市町村別情報収集） 9 演習：様々な地域の地域診断（2）市町村別報告準備 10 報告会（2）様々な市町村の地域診断 11 演習：継続訪問 1 回目 12 演習：継続訪問個別指導 13 演習：継続訪問カンファレンス 1 回目 14 演習：継続訪問 2 回目 15 演習：継続訪問個別指導	16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	演習：継続訪問カンファレンス 2 回目 演習：継続訪問 3 回目 演習：継続訪問個別指導 演習：継続訪問カンファレンス 3 回目 継続訪問全体カンファレンス 名寄市町内会連合会との懇談会 名寄市内単位町内会との懇談会 演習：地区踏査 演習：地区組織活動への参加・夏季行事 地区組織活動カンファレンス 1 回目 演習：地区組織活動への参加：秋季行事 演習：地区組織活動への参加：冬季行事 地区組織活動カンファレンス 2 回目 地区組織活動全体カンファレンス まとめ

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習：授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと</p> <p>復習：積極的に教員に個別指導を受けること。関連科目も合わせて復習すること</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>レポート試験 60 点・演習記録 40 点で評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>和泉京子、上野昌江編集 公衆衛生看護学 第 4 版 (中央法規)</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>なし</p>

科 目 名	公衆衛生看護活動論 I		
科 目 名 (英 語)	Activity of Public Health Nursing I	シラバスNo.	260020830
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択
		開 講 形 態	講義・演習
		資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここではライフステージ別として、成人保健・高齢者保健、健康障害の種別として難病保健について教授する。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：○ DP4：○ DP5：○ DP6：__		
学 修 到 達 目 標	成人期の生活の特徴と健康課題について理解する。 地域で暮らす高齢者の生活の特徴と健康課題および介護予防活動について理解する。 難病患者の生活の特徴と、健康課題・社会課題について理解する。 ライフステージ別・対象のもつ条件別の保健医療福祉制度の活用方法について説明できる。 対象に合わせた効果的な公衆衛生看護活動の展開を考察できる。		
受 講 の 留 意 点	オムニバス授業である。2本立てで進行し、下記とは順番が変わる。オリエンテーションで具体的な日時を指定する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	成人保健、高齢者と介護予防活動、難病保健活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師として具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。 アクティブ・ラーニングの内容 演習はグループワークおよびロールプレイングを取り入れて実施する。		
授 業 の 計 画	1 成人保健活動の変遷 2 成人保健の動向と健康課題 3 健康日本 21 (第2次) 4 データヘルス計画について 5 特定健康診査 6 特定保健指導 7 健康増進事業 8 がん対策 9 演習：個別を対象とした成人保健指導 10 演習：集団を対象とした成人保健指導 11 高齢者保健施策の変遷 12 高齢者保健活動について 13 高齢者の現状の理解 (元気高齢者) 14 高齢者の現状の理解 (虚弱高齢者) 15 高齢者保健に関する制度	16 介護保険制度と保健活動 17 地域包括支援センターの役割 18 介護予防活動とその制度 19 演習：高齢者保健指導 (1) 個人・家族 20 演習：高齢者保健指導 (2) 集団・組織 21 演習：地域の関係機関を知る (1) 社会福祉協議会・福祉事務所等 22 演習：地域の関係機関を知る (2) 介護保険施設・地域包括支援センター 23 難病対策の変遷 24 今日の難病対策 25 高度経済成長期の公害・薬害 26 難病患者と家族が抱える課題 27 難病患者に対する社会の取り組み 28 保健師と難病保健活動 29 演習：難病保健指導 (1) 疾患の理解 30 演習：難病保健指導 (2) 保健指導の実際	
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと 復習：教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること		

成績評価方法	試験 100 点により評価する。試験は成人保健、高齢者保健、難病保健の 3 つに分けて実施するため、各試験で 60 点以上を必須とする。レポート等の提出物を求める場合は評価に含める。
教科書 (購入必須)	和泉京子、上野昌江編集 公衆衛生看護学 第 4 版 (中央法規) 中谷 芳美他 対象別公衆衛生看護活動 第 5 版 (医学書院)
参考書 (購入任意)	なし

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅱ		
科 目 名 (英 語)	Activity of Public Health Nursing Ⅱ	シラバスNo.	260020840
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志・糸田 尚史		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択
		開 講 形 態	講義・演習
		資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師の経験を有する教員、児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所における心理判定員・地域活動福祉司の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここではライフステージ別として、親子保健活動に必要な知識と技術を教授する。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：○ DP4：○ DP5：○ DP6：__		
学 修 到 達 目 標	母子保健施策の体系と保健師の役割について説明できる。 新生児訪問の準備・実施・報告までの一連の過程について説明できる。 乳幼児健康診査の準備・実施・事後処理までの一連の過程について説明できる。 こども虐待と保健師活動について理解する。 こどもの発達相談の実際について説明できる。 こどもの発達支援活動の実際について説明できる。 親子保健における多職種連携について説明できる。		
受 講 の 留 意 点	オムニバス授業または複数で協力して教授する授業である。2本立てで進行し、下記とは順番が変わる。オリエンテーションで具体的な日時を指定する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	母子保健活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師として具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。 アクティブ・ラーニングの内容 演習はグループワークおよびロールプレイングを取り入れて実施する。		
授 業 の 計 画	1 母子保健施策の変遷 2 母子保健施策の体系 3 妊娠期の保健指導 4 乳幼児の健康観察 5 乳幼児期の予防接種 6 新生児・乳幼児訪問 7 乳児健康診査 8 幼児健康診査 9 演習：新生児訪問（1）デモンストレーション 10 演習：新生児訪問（2）家庭訪問の手順 11 演習：新生児訪問（3）新生児モデルを用いた演習 12 演習：乳幼児健康診査（1）案内・設営 13 演習：乳幼児健康診査（2）計測・問診 14 演習：乳幼児健康診査（3）結果説明・保健指導 15 母子保健包括支援	16 児童虐待の早期発見 17 児童虐待における親支援 18 近年の親子保健の課題（1）就労・生活 19 近年の親子保健の課題（2）健康課題と育児 20 母子保健活動と関係法令 21 子どもの発達支援・発達の理解 22 神経発達症とその理解 23 家族支援について 24 子どもの発達相談 25 演習：事例検討会 26 演習：発達相談の実際（1）知能発達検査の種類と特徴・検査セットの紹介 27 演習：発達相談の実際（2）保健師と心理判定員の連携実践 28 演習：発達支援の実際（1）絵本の読み聞かせ 29 演習：発達支援の実際（2）親子遊び・手遊び歌 30 まとめ	

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <p>予習：授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと</p> <p>復習：教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>試験 100 点で評価する。試験は教員毎に実施する。各試験で 60 点以上取ること。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>和泉京子、上野昌江編集 公衆衛生看護学 第 4 版 (中央法規)</p> <p>中谷 芳美他 対象別公衆衛生看護活動 第 5 版 (医学書院)</p> <p>陳省仁他編著 子育ての発達心理学 (同文書院)</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	<p>なし</p>

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅲ		
科 目 名 (英 語)	Activity of Public Health Nursing Ⅲ	シラバスNo.	260020850
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択
		開 講 形 態	講義・演習
		資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師の経験を有する教員と行政保健師・病院看護師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここでは健康障害の種別ごとの公衆衛生看護活動に必要な知識と技術について教授する。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：○ DP4：○ DP5：○ DP6：__		
学 修 到 達 目 標	健康障害の種別ごとの健康課題と公衆衛生看護活動について理解する。 対象別の保健医療福祉制度の活用方法を理解する。 対象に合わせた効果的な公衆衛生看護活動の展開を考察できる。		
受 講 の 留 意 点	授業の順番は上記とは異なる場合もあり、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。 遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	健康障害の種別ごとの活動として、精神保健福祉、感染症予防、健康危機管理、災害時の保健師活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師としての具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。 アクティブ・ラーニングの内容 演習はグループワークおよびロールプレイングを取り入れて実施する。		
授 業 の 計 画	1 地域精神保健活動の歴史 2 地域精神保健活動①予防と早期発見 3 地域精神保健活動②受療から回復期 4 地域における自殺予防対策について 5 ゲートキーパー養成活動 6 触法精神障がい者への支援 7 睡眠と健康 8 睡眠保健指導について 9 感染症保健の動向 10 感染症保健施策と保健師活動 11 結核の基本知識 12 結核に対する保健師活動 13 結核集団感染発生時の保健活動 14 新興感染症について 15 新型インフルエンザ対策	16 HIV/AIDS の動向 17 HIV/AIDS に対する保健師活動 18 Covid-19 感染症の動向 19 Covid-19 に対する公衆衛生活動 20 Covid-19 に対する保健師活動 21 新興感染症について 22 集団施設における感染症対策 23 腸管出血性大腸菌感染症について 24 大規模食中毒発生時の保健活動 25 健康危機管理とは 26 保健所における健康危機管理業務 27 災害時の健康危機管理 28 災害時の公衆衛生看護活動 29 災害時の健康課題とその予防 30 まとめ	
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと 復習：教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること		
成 績 評 価 方 法	試験 100 点により評価する。レポート等の提出を求める場合は評価に含める。		

教科書 (購入必須)	中谷 芳美他 対象別公衆衛生看護活動 第5版 (医学書院)
参考書 (購入任意)	なし

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅳ		
科 目 名 (英 語)	Activity of Public Health Nursing Ⅳ	シラバスNo.	260020860
担 当 教 員 名	播本 雅津子・井上 靖子・野口 直美		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択
		開 講 形 態	講義・演習
		資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師の経験を有する教員、産業保健師の経験を有する教員、養護教諭の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここでは活動の場ごとの公衆衛生看護活動に必要な知識と技術について教授する。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：◎ DP4：○ DP5：○ DP6：___		
学 修 到 達 目 標	産業保健および学校保健の概要について理解する。 労働者の後口調と健康課題および産業保健師活動について理解する。 児童・生徒の特長と健康課題について理解する。 学校保健における養護教諭の活動について理解する。 地域の保健師と、養護教諭や産業保健師との協働について理解する。		
受 講 の 留 意 点	オムニバス授業である。2本立てで進行するため順番は上記とは異なり、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	講義と演習を組み合わせながら進める。産業保健および学校保健に関する理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。 アクティブ・ラーニングの内容 演習はグループワークおよびロールプレイングを取り入れて実施する。		
授 業 の 計 画	1 学校保健の概要 2 養護教諭の職務 3 学校の目的・教育職の役割 4 学校保健に関する法体系 5 学童期・思春期における発達課題と健康 6 発達障害における課題と教育支援 7 学校保健計画と保健室経営 8 疾患をもつ児童・生徒の健康管理 9 児童虐待の早期発見と学校における取り組み 10 児童・生徒の健康管理①(健康相談) 11 児童・生徒の健康管理②(健康診断) 12 感染症と学校保健 13 自治体保健師と学校保健の関わり 14 学校保健まとめ 15 産業保健の役割と意義	16 産業保健の歴史 17 産業保健行政 18 労働安全衛生法 19 社会における労働と健康 20 労働衛生統計 21 産業保健の組織的展開 22 労働環境対策 23 産業保健におけるメンタルヘルス対策 24 ストレスチェックと保健活動 25 労働安全衛生マネジメント 26 安全衛生計画・産業保健計画の策定 27 特殊健康診査 28 特定健康診査・特定保健指導 29 外国人労働者の健康課題 30 産業保健まとめ	
授 業 時 間 外 学 修 (予習・復習)の内容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと 復習：教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること		
成 績 評 価 方 法	試験 100 点により評価する。試験は教員毎に実施する。各試験で 60 点以上取ること。		

教科書 (購入必須)	荒木田美香子責任編集 公衆衛生看護活動Ⅱ 2026年版 医歯薬出版株式会社
参考書 (購入任意)	なし

科 目 名	公衆衛生看護管理論		
科 目 名 (英 語)	Management of Public Health Nursing	シラバスNo.	260020870
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択
		資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師の経験を有する教員と行政保健師・病院看護師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護管理に必要な知識について学習した上で、地域診断に基づく情報から事業計画策定までの一連の過程について総合的に学習する。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：○ DP3：○ DP4：◎ DP5：○ DP6：___		
学 修 到 達 目 標	保健師の人事管理・現任教育などについて理解できる。 健康な地域づくりを目指した保健活動計画の策定・実施・評価のプロセスについて理解する。 地域住民の主体性を尊重し、人々の協働による問題解決を支援するための保健師の基本姿勢を理解する。		
受 講 の 留 意 点	これまで公衆衛生看護学で学習した内容を復習しながら取り組むとより一層の成果が得られるため、予習復習を心掛けること。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	講義を主軸に演習を取り入れながら進める。保健師教育の最終段階の科目として実習での実地体験および就業時のイメージを高めるよう工夫して授業を進める。		
	アクティブ・ラーニングの内容 PBL型のグループワークを取り入れて実施する。		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生看護管理とは 2 人材育成・人事管理 3 統括保健師について 4 保健福祉計画の策定について 5 総合計画・基本計画・実施計画 6 業務管理 7 保健事業の評価 8 様々な評価方法 9 統計資料の種類と活用方法 10 演習：統計資料から健康課題を抽出する① データ収集 11 演習：統計資料から健康課題を抽出する② データ分析 12 演習：統計資料から健康課題を抽出する③ 資料作成 13 演習：統計資料から健康課題を抽出する④ 健康課題の抽出 14 報告会 各地域の健康課題 15 まとめ 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 90 時間（2 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 60 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと 復習：教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること		
成 績 評 価 方 法	試験 100 点により評価する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	和泉京子、上野昌江編集 公衆衛生看護学 第4版（中央法規）		

参 考 書
(購 入 任 意)

なし

科 目 名	公衆衛生看護学実習 I		
科 目 名 (英 語)	Practice in Public Health Nursing I	シラバスNo.	260020880
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志・松下 由惟		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	通年	必修選択	選択
		資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護学実習 I では保健師活動の基本となる個人・家族への保健指導および集団・組織等への保健指導について実習施設の指導者より対象者の紹介を受けて実施する。		
対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：○ DP4：○ DP5：◎ DP6：○		
学 修 到 達 目 標	個人・家族の健康課題の解決に向けて実施する家庭訪問の一連の過程を複数の事例に実施すること、および集団への健康教育を複数回実施し、その技術を習得すること、家庭訪問や健康教育は地域の健康課題の解決の方法の1つであることを理解することを目標とする。		
受 講 の 留 意 点	実習は日頃の学習の成果を最大活用して学習する場です。日々の学習および実習事前学習に丁寧に取り組み、実習期間中は積極的な態度で実習に臨みましょう。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	市町村で実習を行う。臨地において指導保健師の協力の下、家庭訪問および健康教育を実施する。内容は公衆衛生看護学実習 II と連動するため、この2科目の実習は継続した日程で実施する。家庭訪問は継続的な取り組みを目指し、面接と家庭訪問、健康教育と家庭訪問、継続訪問など、同じ事例に複数回関わる。健康教育は企画・実施・評価の一連の過程に取り組む。		
	アクティブ・ラーニングの内容 臨地において保健師活動および保健事業の見学・実施・カンファレンスを行う		
授 業 の 計 画	<p>事前に学内で「実習オリエンテーション」を実施する。公衆衛生看護学実習 I ・ II 実習要項に基づき、教員の指導の下で実習事前学習を行う。実習場所は市町村とする。実習施設での実習中は、臨地実習指導者および教員が協力して指導にあたる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 臨地オリエンテーション・家庭訪問事例紹介<事例1・事例2> 2 事例1指導者同行訪問・事例2学生ペア訪問 3 事例1学生単独訪問・事例2継続訪問 4 訪問カンファレンス 5 事例検討会 6 健康教育見学・参加 7 健康教育準備・デモンストレーション 8 健康教育1実施および評価 9 健康教育2実施および評価 10 公衆衛生看護学実習 I カンファレンス 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 90 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習復習として実習時間以外にも教員に個別指導を受けること。</p>		
成 績 評 価 方 法	実習要項に評価表を示す。具体的な視点についてオリエンテーションで説明する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	なし		
参 考 書 (購 入 任 意)	なし		

科 目 名	公衆衛生看護学実習Ⅱ		
科 目 名 (英 語)	Practice in Public Health Nursing Ⅱ	シラバスNo.	260020890
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志・松下 由惟		
学 年 配 当	4年	単 位 数	3単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択
		開 講 形 態	実習
		資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	行政保健師の経験を有する教員と行政保健師・病院看護師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護学実習Ⅱでは保健所と市町村それぞれの活動について理解するとともに、地域診断を基盤とした公衆衛生看護管理および健康相談事業について学習する。		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：○ DP4：○ DP5：◎ DP6：○		
学 修 到 達 目 標	保健所の担う公衆衛生看護活動および保健所保健師の役割を理解する。 地域の健康問題を組織的に解決する方法を理解する。 地域保健活動における機関や職種の連携について理解する。		
受 講 の 留 意 点	実習は日頃の学習の成果を最大活用して学習する場です。日々の学習および実習事前学習に丁寧に取り組み、実習期間中は積極的な態度で実習に臨みましょう。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	保健所および市町村にて実習を行う。市町村での実習は公衆衛生看護学実習Ⅰと連動するためこの2科目の実習は継続した日程で実施する。保健所実習では公衆衛生の専門機関である保健所の機能および各専門職の役割を理解した上で保健所保健師活動の実際を学習する。市町村実習では、健康相談、地区組織活動、公衆衛生看護管理等、多様な活動について学習する。保健所実習は7～8人、市町村実習は2～4人のグループに分かれる。 アクティブ・ラーニングの内容 臨地において保健師活動および保健事業の見学・実施・カンファレンスを行う		
授 業 の 計 画	<p>事前に学内で「実習オリエンテーション」を実施する。公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ実習要項に基づき、教員の指導の下で実習事前学習を行う。実習場所は保健所および市町村とする。実習施設での実習中は、臨地実習指導者および教員が協力して指導にあたる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保健所の機能と役割 2 保健所で働く様々な職種の理解 3 保健所保健師の活動 4 保健所保健師活動の実際1（家庭訪問・事例検討等） 5 保健所保健師活動の実際2（集団指導・他機関連携等） 6 市町村保健活動の概要 7 地域診断1（既存資料からの情報収集・地区踏査） 8 地域診断2（関係職種および住民へのインタビュー） 9 地域診断3（分析・健康課題の抽出） 10 地域診断4（事業計画策定・保健計画の見直し） 11 健康相談1（母子保健） 12 健康相談2（成人保健） 13 健康相談3（高齢者保健） 14 健康相談4（地区組織活動） 15 公衆衛生看護学実習Ⅱカンファレンス 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 135 時間（3単位×45時間） うち授業時間 135 時間、授業時間外学修時間0時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 予習：予習復習として実習時間以外にも教員に個別指導を受けること。 復習：予習復習として実習時間以外にも教員に個別指導を受けること。</p>		
成 績 評 価 方 法	実習要項に評価表を示す。具体的な視点についてオリエンテーションで説明する。		

教科書 (購入必須)	なし
参考書 (購入任意)	なし

科 目 名	助産学概論		
科 目 名 (英 語)	Introduction to Midwifery	シラバスNo.	260020900
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、高田 昌代		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択
		資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学の概観を教授する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：○ DP4：○ DP5：___ DP6：○		
学 修 到 達 目 標	助産の基本概念を助産の歴史・文化からその意義を捉え、助産の対象、原理原則、役割、ケアと支援、職性と業務、倫理、助産師としてのアイデンティティや自律について理解する。母性保護の変遷と母子保健について助産師のあり方と将来を展望する。また、助産師教育（研究）や諸外国の助産師教育を学ぶ。		
受 講 の 留 意 点	助産学を学ぶ上で根幹となる授業の1つです。 科学的根拠に基づく助産実践について学びましょう。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	助産実践の基礎となる助産の概念、理論を理解し、女性のライフサイクルに応じた性と生殖に関する女性の健康を支える助産師としての能力を養う。 社会的責務を遂行するための助産師の役割や業務範囲、関係する法的基盤を理解する。 助産ケアの基盤となる概念として、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの歴史的背景、国内外の動向を学修する。 助産の現状と動向、母子保健の変遷、助産師の責務、職業倫理、諸外国の動向を学修し、これからの助産学の方向と助産師のあり方について考える。		
	アクティブ・ラーニングの内容		
授 業 の 計 画	1 1.助産の概念の変遷 2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 2 3. ジェンダー・性差医療 3 4. 助産の定義・対象 助産の倫理、助産師の自律 4 5. 助産学を支える理論： 1)危機理論、セルフケア理論、 2)アタッチメント理論 5 6. 助産の歴史（産育習俗の変遷） 7. 助産師教育 1)わが国における助産師教育の変遷 2)諸外国の助産師教育 6 8. 助産師に関わる関連法規 7 9. 時代背景・母子保健施策に沿った理解 10. 周産期各期に沿った理解 8 11. 産科医療の現状と今後の展望 12. 助産師活動と将来、まとめ		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 テキストの助産の概念や理論などの関係した章を読み込む。 授業後、課題やレポートのまとめ。		
成 績 評 価 方 法	プレゼンテーション内容等（50%）、グループワークの発表内容（10%）、課題レポート（40%）にて総合的に評価する。		

教科書 (購入必須)	我部山キヨ子武谷 雄二編集 助産学講座 1 助産学概論 第5版 医学書院
参考書 (購入任意)	

科 目 名	リプロダクティブヘルス		
科 目 名 (英 語)	Reproductive health	シラバスNo.	260020910
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、高田 昌代		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択
		開 講 形 態	講義
		資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、リプロダクティブヘルスの概観を教授する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：◎ DP2：○ DP3：○ DP4：○ DP5：___ DP6：○		
学 修 到 達 目 標	周産期および Reproductive Health Rights の視点におけるライフサイクル各期の健康課題の特性や健康課題を解決するための概念・理論・最新の知見を活用して、助産・母性看護学領域の対象者への看護のあり方を考察する。		
受 講 の 留 意 点	母性看護学概論でのリプロダクティブヘルス・ライツの項目に関して復習し、助産学概論など並行して学び、不足した部分は復習しましょう。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>生殖器の形態・機能的特性、遺伝と遺伝疾患、性の分化と発達、胎児の発育・胎盤機能、母子と免疫など、助産学の基礎になる科学について学修する。</p> <p>女性の健康、性と生殖に関する健康に関係する最新のエビデンスおよび社会的背景を学修する。</p> <p>思春期から老年期の女性のライフサイクルにおける健康問題や性と生殖の問題に対し、援助を行うための基本的知識を学修する。</p> <p>思春期では性感染症や性行動、セクシャリティ、やせ、月経問題について、成熟期では月経障害、不妊、家族計画、ドメスティックバイオレンスについて、更年期では更年期障害、子宮筋腫について学修する。</p>		
	アクティブ・ラーニングの内容		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 科目概説、母性看護学の変遷と歴史 ヘルスプロモーション理論、母親役割理論、母子相互作用、家族システム理論、親になるプロセス、Attachment に関する理論と研究 2 母子保健、リプロダクティブヘルス・ライツ、家族関係、生涯発達、ジェンダー等、周産期における妊産婦と家族の心理、周産期のメンタルヘルス 3 Empowerment/Resilience 母子保健活動の現状と課題、社会（日本と世界の現状）のありよう、健やか親子 21 報告書、母性領域における統計資料等を分析、評価する 4 周産期ケアと諸問題；出産の意味 助産外来、院内助産、助産ケアと EBM 5 個々のテーマを決め、文献学習・プレゼンテーションを実施する(1) 個々のテーマを決め、文献学習・プレゼンテーションを実施する(2) 個々のテーマを決め、文献学習・プレゼンテーションを実施する(3) 6 母性・助産領域における各自の問題意識を基に今後の課題を報告する 7 ハイリスク新生児と家族の支援に関する理論と研究 子育て支援・子ども虐待予防・家族生成期に関する理論と研究 親子関係に関する理論と研究 8 周産期におけるリプロダクティブヘルスの課題 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各テーマに関する情報収集などの準備。 授業の振り返りとまとめ。</p>		
成 績 評 価 方 法	発表資料およびレポート（60 点）、討議内容と討議参加度（40 点）により評価する。		

教科書 (購入必須)	特に定めない。 必要資料は提示。
参考書 (購入任意)	

科 目 名	妊娠期・分娩期の診断とケア			
科 目 名 (英 語)	Gestational period /Parturient period diagnosis and care	シラバスNo.	260020920	
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、永井 紅音、青木 万美			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、妊娠期分娩期のケアを教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：○ DP4：___ DP5：___ DP6：___			
学 修 到 達 目 標	妊産婦の正常経過を理解し、妊産婦へのケアを習得できる。 妊産婦の異常を予測し、逸脱予防の保健指導ができる。 ハイリスク妊娠・分娩を学び、診断に必要な基礎知識を持ち、ケアができる。			
受 講 の 留 意 点	母性看護活動論Ⅰまたは看護基礎教育における母子看護での妊娠期から分娩期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	妊婦の健康状態および妊娠経過に関わる助産診断、妊婦の援助技術、妊娠期の異常と異常経過における妊婦のケアを学修し、妊婦に対して適切な助産診断と援助技術を実践できる基礎的能力を養う。妊娠期の母体の生理的機能を学修し、妊婦と胎児の正常経過と異常を判断し、健康を支える必要な基本的知識（妊婦健康診査や保健指導含む）を学修する。 ハイリスク妊婦へのアセスメントとケアを学修する。 助産診断の意義、対象の理解に必要な概念を学び、妊娠期の診断・アセスメント・助産ケア立案・助産技術を修得する。 産婦の健康状態と分娩経過の助産診断、産婦の援助技術と分娩助産技術を学修し、産婦に適切な助産診断と分娩助産を含む助産技術を実践できる基礎的能力を養う。 分娩期の母体の生理的機能、正常経過と異常(ハイリスクを含む)の診断に必要な基本的知識を学修する。 分娩助産、主体性を尊重した産婦や家族への支援、異常分娩や産科医療処置等を学修する。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産師が行う妊娠期のケア 妊娠期とは、妊娠期ケアの理念、妊婦(胎児)の全人的アセスメント、妊娠期ケアの特徴 2 妊娠の整理と確定診断 妊娠の成立、妊娠の早期診断、妊娠に伴う全身の変化、胎児の発育と器官形成、胎児付属物 3 妊娠経過と産科学的診断 妊娠経過の診断、妊娠に関連した検査、出生前検査とスクリーニング、血液型不適合に関する検査、母子感染症に関する検査、胎児の発育の診断、胎児モニタリング 4 妊婦の心理社会的側面のアセスメント 日常生活状況、セルフケア・親になること・出生準備に関する・家族機能に関するアセスメント 5 妊娠経過に対応したケア 妊娠経過のアセスメントとケア、異常の早期発見と予防、妊娠初期・中期・後期のアセスメントとケア 6 妊娠の日常生活におけるケア マイナートラブル、不安など否定的な感情へのケア、食・衣・住生活、運動と安静、性生活 7 妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア 初産婦とその家族の親準備のケア、経妊婦と家族のケア、出産準備教育 8 助産師が行う分娩期のケアの基本 助産師が行う分娩期的な考え方 9 分娩経過の診断に必要な知識 分娩の概念、分娩の3要素、分娩経過と所要時間、分娩の機序、分娩が母体・胎児に及ぼす影響 			

	<p>10 分娩経過の診断・アセスメントの視点 分娩開始の診断、分娩の3要素の関連性、娩出力の状態、産道および胎児の下降度の状態、胎児の発育・健康状態、胎児付属物の状態、産婦の心理的、社会的、文化的な状態</p> <p>11 分娩経過に伴う診断・アセスメントと助産過程の展開 分娩期の診断・アセスメントの特徴と助産過程の展開、入院時の診断・アセスメントとケア、分娩第1期、第2期、第3期、第4期の診断とアセスメントとケア</p> <p>12 分娩介助技術(1)分娩介助の意義と原理、分娩介助に伴う技術</p> <p>13 分娩介助技術(2)分娩体位と分娩介助法、胎児付属物の精査と計測</p> <p>14 分娩介助技術(3)出生直後の新生児のアセスメント、新生児蘇生</p> <p>15 正常経過逸脱の予測と予防 身体的側面、緊急事態への対応準備</p>
<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各章の内容の読み込みを行う。 授業の内容を振り返り、ポイントをまとめる。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>課題提出 (30%)、試験 (70%) により評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>横尾京子編：助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期第 6 版 医学書院 我部山キヨ子他編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 第 6 版 医学書院</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	

科 目 名	産褥期・新生児期の診断とケア			
科 目 名 (英 語)	postpartum period /Neonatal period diagnosis and care	シラバスNo.	260020930	
担 当 教 員 名	笹尾 あゆみ、永井 紅音			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、産褥期新生児期のケアを教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：○ DP4：___ DP5：___ DP6：___			
学 修 到 達 目 標	<p>1. 褥婦の身体的、心理・社会的側面が理解できる。 身体的には分娩の影響や既往歴や合併症の有無などを視野に入れながら進行性変化、退行性変化が理解でき、適切なケアを展開できる。 心理的には分娩に関する満足度や褥婦経過における育児困難感の影響を考え、褥婦のニーズとセルフケア状態を確認し、客観的指標(エジンバラなど)を活用し、精神状態の観察ができる。 社会的には、サポート状態と社会資源の確認を行い、褥婦のニーズを把握し、総合的に産後の健康に関するアセスメントができる。</p> <p>2. 新生児の胎外生活への適応を促進できる基礎知識と技術が理解できる。</p>			
受 講 の 留 意 点	母性看護活動論Ⅱの産褥期、新生児期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しましょう。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>褥婦の健康状態及び産褥経過に関わる助産診断、褥婦の援助技術を学修し、褥婦に適切な助産診断と助産技術が実践できる基礎的能力を養う。乳房管理、母乳育児支援を含む。 褥婦の身体的、心理的、社会的側面から助産診断を行い、助産過程に必要な能力を学修する。 産褥期の助産技術の知識と助産技術が必要となる過程を学修し、実践技術を習得する。 産後うつなどのハイリスク褥婦の支援を学修する。 新生児の健康状態及び胎外生活への適応過程に関わる助産診断、新生児の援助技術、新生児の異常と異常経過における診断・ケアについて理解し、適切な助産診断と助産技術を実践できる基礎的能力を学ぶ。 新生児の生理的機能、成長発達過程を理解し、的確に助産診断できるように学習する。 ハイリスク新生児への支援について学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産師が行う産褥期のケア 2 産褥期の適応とアセスメント 3 褥婦のニーズとセルフケア 4 母乳育児支援(1)乳汁分泌促進ケア 5 母乳育児支援(2)乳房トラブル改善ケア 6 母乳育児支援(3)乳頭ケアと搾乳 7 親子の絆とアタッチメントの形成 8 家族計画 9 産後うつなどのハイリスク支援 10 助産師が行う新生児期・乳幼児期のケア 11 新生児の適応生理出生直後-24時間 12 新生児のフィジカルイグザミネーション 13 新生児のニーズとケア 14 乳幼児の発達と健康診査 15 ハイリスク新生児への支援 			
授 業 時 間 外 学 修	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間			

<p>(予習・復習)の内容</p>	<p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各関連の章を読み込む。 授業内容を振り返りポイントをまとめる。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>課題レポート(15%)、試験(70%)、課題提出(15%)により評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>石井邦子他編：助産学講座 8助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 第6版 医学書院</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	

科 目 名	助産診断・技術学演習 I (妊娠期)				
科 目 名 (英 語)	Diagnosis and Nursing Skills in Midwifery I (Pregnancy period)	シラバスNo.	260020940		
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、永井 紅音、産婦人科医師				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産診断・技術を教授する科目				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：○ DP4：___ DP5：___ DP6：___				
学 修 到 達 目 標	ME 機器を用いた諸検査（胎児心拍モニタリング・超音波診断検査など）、今後、助産師に必要なとなる発展的な知識・技術を学習する。 助産を系統的に行うための診断技術の理論と実際を学ぶ。具体的には次の通り。 ①助産診断過程に必要な概念や基礎理論 ②助産過程の展開方法 ③周産期における経過診断 ④正常からの逸脱を発見するための診査・診断の原理・目的・過程・援助方法				
受 講 の 留 意 点	助産学を学ぶ上で根幹となる授業の1つです。 確実な知識や診断能力を訓練し、根拠に基づく助産ケアを提供できるように学修していきましょう。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	妊娠期の援助を行うために必要な技術を修得する。 妊婦健康診査技術、基本的な超音波画像診断技術、妊娠期の生活支援等について修得する。 出産準備クラスの企画・運営についても学修する。 アクティブ・ラーニングの内容				
授 業 の 計 画	1 1 1. 助産診断の概念と枠組み 2 2 2. 妊娠期の診断とケア 1) 妊娠の生理な変化 3 3 2) 心理・社会的な変化 4 3) 心理・社会的な診断・ケア 4 5 4) 妊娠経過と助産診断 5 6 5) フィジカルアセスメント 6 7 6) 日常生活の適応とマイナートラブル 7 8 7) 助産ケアと保健指導 8 9 8) ハイリスク・異常妊婦の診断・ケア 9 10 9) 妊娠期の助産過程 10 11 3. 妊娠期の助産診断（フィジカルアセスメント）に必要な専門技術 1) 妊娠期の検査法 12 2) 妊娠期の薬剤 11 13 3) 産科手術 12.13 14 4. 妊娠期の助産ケア・保健指導の実際 14.15. 15 4. 妊娠期のケアに必要なカウンセリング技術				
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 テキストの各章の読み込み。 授業後、ポイントのまとめ。				
成 績 評 価 方 法	試験（80%）、GW レポート（20%）により評価する。				

教科書 (購入必須)	堀内成子/片岡弥恵子編：助産学講座 5 助産診断・技術学 I 第 7 版 医学書院 横尾京子編：助産学講座 6 助産診断・技術学 II [1]妊娠期第 6 版 医学書院
参考書 (購入任意)	

科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅱ（分娩期）			
科 目 名（英 語）	Midwifery diagnosis/technology exercise Ⅱ (Delivery period)	シラバスNo.	260020950	
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、永井 紅音、産婦人科医師			
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産診断・技術を教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：○ DP4：___ DP5：___ DP6：___			
学 修 到 達 目 標	<p>助産診断・技術学Ⅰで学んだ対象理解・助産診断・助産技術・助産ケアの考え方をもとに、助産実践に必要な専門的技術を修得する。</p> <p>また、ME 機器を用いた諸検査（胎児心拍モニタリング・超音波診断検査など）、会陰切開・縫合など、今後、助産師に必要となる発展的な知識・技術を学習する。</p> <p>1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産診断に必要な専門的技術を学習し、実践できる。 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産ケア・保健指導の実際を理解し、実践できる。 3. ME 機器を用いた諸検査について理解し、実践できる。</p>			
受 講 の 留 意 点	<p>助産学を学ぶ上で根幹となる授業の1つです。</p> <p>確実な知識や診断能力を訓練し、根拠に基づく助産ケアを提供できるように学習していきましょう。</p>			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>助産診断・技術学Ⅱで学んだ理論や知識をもとに、分娩期の援助を行うために必要な助産診断および分娩介助技術、出生直後の児のケアや技術を修得する。</p> <p>ハイリスク分娩時の介助技術や会陰裂傷縫合術、産科危機的出血時の対応等について理解する。</p> <p>分娩期における診断・アセスメント・助産ケア立案・分娩介助にかかわる基本的な助産技術を修得する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p>			
授 業 の 計 画	<p>1. 分娩期の診断とケア 1) 分娩に関連する概念、分娩期の助産診断</p> <p>1 2) 分娩の3要素と分娩機転</p> <p>3) 正常分娩の経過と母子に及ぼす影響</p> <p>4) 分娩期における心理・社会的変化</p> <p>2 5) 分娩介助法 分娩介助法、付属物の検査と計測、出生直後の新生児のケア 分娩第4期の母児のケア (早期接触、初回直母)</p> <p>3 6) 分娩期のフィジカルアセスメント</p> <p>4 7) 分娩期の助産診断</p> <p>5 2.分娩期の助産診断（フィジカルイグザミネーション）に必要な専門技術</p> <p>6 8) 正常からの逸脱</p> <p>9) 異常の診断とケア</p> <p>7 10) 産科麻酔・麻酔分娩</p> <p>11) 急遂分娩術の適応・禁忌（吸引・鉗子分娩、帝王切開など）</p> <p>3.分娩期の検査と薬剤</p> <p>8 5.産科手術、処置 会陰縫合術の実際</p> <p>9 6.救急処置</p> <p>10 4.分娩介助に必要な専門技術（フリースタイル分娩技術）</p> <p>11.12.1 7.分娩介助技術演習 3.14.15</p>			

<p>授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容</p>	<p>総学修時間 45 時間 (1 単 位 × 45 時 間) うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの各章の読み込み ・授業後、振り返りとポイントのまとめ
<p>成 績 評 価 方 法</p>	<p>筆記試験 (30%)、実技試験 (70%) により評価する。</p>
<p>教 科 書 (購 入 必 須)</p>	<p>我部山キヨ子他編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 第 6 版 医学書院</p>
<p>参 考 書 (購 入 任 意)</p>	

科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅲ（産褥・新生児期）																																																															
科 目 名（英 語）	Midwifery diagnosis / technology exercise	Ⅲ	シラバスNo.	260020960																																																												
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、永井 紅音、産婦人科医師																																																															
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位	開 講 形 態																																																												
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件																																																												
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産診断・技術を教授する科目																																																															
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：○ DP4：___ DP5：___ DP6：___																																																															
学 修 到 達 目 標	産褥、新生児ケアを系統的に行うための技術の理論と実際を学ぶ。 具体的には次の通り。 ①産褥・新生児期に必要な概念や基礎理論 ②産褥・新生児期の看護過程の展開方法 ③産褥・新生児期における経過診断 ④正常からの逸脱を発見するための診査・診断の原理・目的・過程・援助方法																																																															
受 講 の 留 意 点	新生児蘇生法については、資格取得につながるためですので新生児蘇生法テキストをもとに十分な学習が必要です。																																																															
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	産褥・新生児期のケアで学んだ知識・技術をもとに、産褥期、新生児期の援助を行うために必要な技術を習得する。 健康な母子に対する助産診断を行った上で必要な保健指導を主体的に行う能力を養う。 新生児においては、「新生児蘇生法「専門」コース（Bコース）」の取得を目指し、実践力をつける。																																																															
授 業 の 計 画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>1.産褥期の診断とケア 1) 産褥の定義、産褥期の全身の変化</td> <td>17</td> <td>ケアの実際（1）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2) 産褥期の心理社会的な変化と支援</td> <td>18</td> <td>ケアの実際（2）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3) 母乳育児支援</td> <td>19</td> <td>ケアの実際（3）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4) 退院後の支援</td> <td>20</td> <td>ケアの実際（4）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5) ハイリスク・異常褥婦の診断とケア</td> <td>21</td> <td>ケアの実際（5）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>6) 産褥期の助産診断</td> <td>22</td> <td>4) ハイリスク・異常児の診断・ケア（1）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7) 助産ケアと保健指導</td> <td>23</td> <td>4) ハイリスク・異常児の診断・ケア（2）</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>パンフレット作成（1）</td> <td>24</td> <td>3.周産期における検査 ・胎児の出生前診断 ・ME 機器による管理と評価 （CTG、超音波診断）</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>パンフレット作成（2）</td> <td>25</td> <td>4.周産期に使用される薬剤（医師） 1)産科で行われる薬物療法 （薬物効果および禁忌） 2)胎児及び母乳への影響</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>パンフレット作成（3）</td> <td>26</td> <td>各期の助産過程展開の実際（1）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ロールプレイ（1）</td> <td>27</td> <td>各期の助産過程展開の実際（2）</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ロールプレイ（2）</td> <td>28</td> <td>各期の助産過程展開の実際（3）</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>2.新生児期の診断とケア・養護 1) 早期新生児・新生児の生理</td> <td>29</td> <td>各期の助産過程展開の実際（4）</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>2) フィジカルアセスメント・診断</td> <td>30</td> <td>各期の助産過程展開のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15.16</td> <td>3) ケアの実際（新生児蘇生法「専門」 コース（Bコース）含む）</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				1	1.産褥期の診断とケア 1) 産褥の定義、産褥期の全身の変化	17	ケアの実際（1）	2	2) 産褥期の心理社会的な変化と支援	18	ケアの実際（2）	3	3) 母乳育児支援	19	ケアの実際（3）	4	4) 退院後の支援	20	ケアの実際（4）	5	5) ハイリスク・異常褥婦の診断とケア	21	ケアの実際（5）	6	6) 産褥期の助産診断	22	4) ハイリスク・異常児の診断・ケア（1）	7	7) 助産ケアと保健指導	23	4) ハイリスク・異常児の診断・ケア（2）	8	パンフレット作成（1）	24	3.周産期における検査 ・胎児の出生前診断 ・ME 機器による管理と評価 （CTG、超音波診断）	9	パンフレット作成（2）	25	4.周産期に使用される薬剤（医師） 1)産科で行われる薬物療法 （薬物効果および禁忌） 2)胎児及び母乳への影響	10	パンフレット作成（3）	26	各期の助産過程展開の実際（1）	11	ロールプレイ（1）	27	各期の助産過程展開の実際（2）	12	ロールプレイ（2）	28	各期の助産過程展開の実際（3）	13	2.新生児期の診断とケア・養護 1) 早期新生児・新生児の生理	29	各期の助産過程展開の実際（4）	14	2) フィジカルアセスメント・診断	30	各期の助産過程展開のまとめ	15.16	3) ケアの実際（新生児蘇生法「専門」 コース（Bコース）含む）		
1	1.産褥期の診断とケア 1) 産褥の定義、産褥期の全身の変化	17	ケアの実際（1）																																																													
2	2) 産褥期の心理社会的な変化と支援	18	ケアの実際（2）																																																													
3	3) 母乳育児支援	19	ケアの実際（3）																																																													
4	4) 退院後の支援	20	ケアの実際（4）																																																													
5	5) ハイリスク・異常褥婦の診断とケア	21	ケアの実際（5）																																																													
6	6) 産褥期の助産診断	22	4) ハイリスク・異常児の診断・ケア（1）																																																													
7	7) 助産ケアと保健指導	23	4) ハイリスク・異常児の診断・ケア（2）																																																													
8	パンフレット作成（1）	24	3.周産期における検査 ・胎児の出生前診断 ・ME 機器による管理と評価 （CTG、超音波診断）																																																													
9	パンフレット作成（2）	25	4.周産期に使用される薬剤（医師） 1)産科で行われる薬物療法 （薬物効果および禁忌） 2)胎児及び母乳への影響																																																													
10	パンフレット作成（3）	26	各期の助産過程展開の実際（1）																																																													
11	ロールプレイ（1）	27	各期の助産過程展開の実際（2）																																																													
12	ロールプレイ（2）	28	各期の助産過程展開の実際（3）																																																													
13	2.新生児期の診断とケア・養護 1) 早期新生児・新生児の生理	29	各期の助産過程展開の実際（4）																																																													
14	2) フィジカルアセスメント・診断	30	各期の助産過程展開のまとめ																																																													
15.16	3) ケアの実際（新生児蘇生法「専門」 コース（Bコース）含む）																																																															

<p>授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 演習の振り返りとまとめ。</p>
<p>成 績 評 価 方 法</p>	<p>課題レポート (20%)、実技試験 (80%) により評価する。</p>
<p>教 科 書 (購 入 必 須)</p>	<p>我部山キヨ子他編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 第 6 版 医学書院 石井邦子他編：助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 第 6 版 医学書院 NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編：母乳育児スタンダード第 3 版 医学書院</p>
<p>参 考 書 (購 入 任 意)</p>	

科 目 名	助産過程演習		
科 目 名 (英 語)	Midwifery Process	シラバスNo.	260020970
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、永井 紅音		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択
		資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産過程を教授する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：◎ DP3：○ DP4：___ DP5：___ DP6：___		
学 修 到 達 目 標	アセスメントに必要な知識、事例の情報の整理と情報分析・解釈、統合（アセスメント）ができる。事例の助産診断の導き方を理解し、助産診断の決定ができる。		
受 講 の 留 意 点	事例展開においてウエルネスの看護診断も参考に、リスク型・ウエルネス型両面からの展開ができることが重要です。GWで討論し、全体像のイメージ力を養ってください。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	母児やその家族の特性を理解し、妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の事例を用いて助産過程の展開を振り返り、助産診断・実践・評価能力を修得する。		
	アクティブ・ラーニングの内容		
授 業 の 計 画	1 分娩期のアセスメントとケア 1) 初妊婦の分娩期の援助 分娩第1期電話連絡時、入院時 (事例展開とロールプレイ)	16	生後24時間以内の新生児のケア (ロールプレイ)
	2 分娩第2期(事例展開)	17	帝王切開で生まれた新生児のケア (事例展開)
	3 分娩第2期(ロールプレイ)	18	帝王切開で生まれた新生児のケア (ロールプレイ)
	4 分娩第3期(事例展開)	19	5)ハイリスク産婦の新生児のアセスメントと ケア 予定帝王切開を受ける産婦の援助 (事例展開とロールプレイ)
	5 分娩第3期(ロールプレイ)	20	分娩誘発を行う産婦の援助 (事例展開とロールプレイ)
	6 分娩第4期(事例展開)	21	産科合併症によるハイリスク産婦の分娩 (妊娠高血圧症候群の事例展開)
	7 分娩第4期(ロールプレイ)	22	(妊娠高血圧症候群のロールプレイ)
	8 分娩2時間 (事例展開とロールプレイ)	23	産科合併症によるハイリスク産婦の分娩 (妊娠糖尿病の事例展開)
	9 その後から初回歩行まで (事例展開とロールプレイ)	24	(妊娠糖尿病のロールプレイ)
	10 2)経産婦の分娩期の援助	25	妊娠糖尿病から生まれた新生児ケア (事例展開)
	11 3)正常から逸脱した産婦の援助 疲労性微弱陣痛、回施異常、分娩 停止による帝王切開分娩(1) (事例展開と準備)	26	妊娠糖尿病から生まれた新生児ケア (ロールプレイ)
	12 疲労性微弱陣痛、回施異常、分娩 停止による帝王切開分娩(2) (ロールプレイ)	27	産科合併症によるハイリスク産婦の分娩、 早産(32-36週) 産婦の援助(事例展開とロールプレイ)

	13 胎児機能不全に伴う吸引分娩 (1) (事例展開と準備) 14 胎児機能不全に伴う吸引分娩(2) (ロールプレイ) 15 4)新生児のアセスメントとケア 生後 24 時間以内の新生児のケア(事 例展開)	28 29 30	早産で生まれた新生児のケア (ロールプレイ) 多胎分娩をする産婦の援助 (事例展開とロールプレイ) 多胎で生まれた低出生体重児のケア (ロールプレイ)
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 60 時間、授業時間外学修時間 30 時間		
成績評価方法	【授業時間外学修時間の主な内容】 テキストの各テーマ毎のまとめ。 ロールプレイ資料のまとめ。		
教科書 (購入必須)			
参考書 (購入任意)			

科 目 名	地域・国際母子保健学			
科 目 名 (英 語)	Community・Global health for mothers and children	シラバスNo.	260020980	
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、高田 昌代、永井 紅音、多々良 友加利			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、地域・母子保健学を教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：○ DP4：○ DP5：___ DP6：◎			
学 修 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の特性をアセスメントして、母子の環境改善に向けた行政への関与ができる。 2. コミュニケーションの種類、方法について工夫することの必要性を理解できる。 3. 国際母子保健の基本的知識について理解する。 4. 諸外国における保健医療サービスや助産システムおよびケアの特徴を理解する。 5. 日本と諸外国との比較から、日本の母子保健を支える助産ケアのあり方と課題を考察できる。 			
受 講 の 留 意 点	学部内または看護教育における国際看護の内容を復習し、不足な部分は復習しておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>地域における母子保健活動を推進するために必要な知識を学び、社会資源やソーシャルサポートを活用し、実践する幅広い能力を養う。</p> <p>国内外の地域母子保健政策や地域母子保健事業の現状や課題について学び、地域母子保健における助産師の役割を探究する。</p> <p>周産期を含めたリプロダクティブヘルスケアの地域での連携や実践活動のあり方を考える。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p>			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. この講義の進め方、内容・評価法などの説明、学習の仕方などのオリエンテーション 2. 地域母子保健の意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域概念（コミュニティ、生活圏、医療圏としての地域） 2) 地域の特性と地域母子保健（1）（地勢と気候、歴史や文化、人口構成） 地域の特性と地域母子保健（2）（交通条件、産業構造と経済状況、医療資源） 3. 地域母子保健活動の意義（目的、目標） 母子保健の現状と動向（統計資料の分析；人口動態統計、母体保健統計） 4. 母子保健をめぐる諸問題と課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) トピックをリサーチし、まとめる。 2) プレゼンし、課題解決に向けたGW を展開する 5. 日本の母子保健行政と母子保健関係法規 国・都道府県・市町村の役割、母子保健行政の財源 6. 日本の母子保健制度と母子保健施策 7. 健康診査、保健指導、療養援護、医療対策、予防接種 8. 新エンゼルプラン、健康日本21と健やか親子21、次世代育成支援対策 地域母子保健活動の展開 9. 女性のライフサイクルへの支援 新生児および褥婦訪問指導の理論と実際、地域子育て支援の実際 10. 国際化社会と母子保健、在日外国人の母子保健 海外在住日本人の母子保健 諸外国の母子保健活動 地域諸外国の母子保健活動、海外在住日本人、在日外国人の母子保健 11. 諸外国の母子保健活動、JICA、NGO の役割事前学習 12. 国際母子保健に関わる国際機関、政府関係機関、JICA、NGO の役割 看護・助産分野における国際協力のあり方について 13. 講師から見た外国での出産と日本の出産の現状について ゲスト講義 DVD視聴とレポート提出 			

	<p>8 14.諸外国と日本との比較から 日本の現状と課題の検討、まとめ</p> <p>15.地域に在住する外国人の妊娠期を支えるもの 母子健康手帳の日本版、他国版を知り、活用状況を把握する</p> <p>16.コミュニケーションのあり方と工夫 場面設定を考えた教材作成と活用、まとめ</p>
授業時間外学修 (予習・復習)の内容	<p>総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 各章の読み込みを行う。 授業の振り返りとポイントのまとめ</p>
成績評価方法	課題レポート (40%) 制作物 (40%) 授業参加度 (20%) により評価する。
教科書 (購入必須)	我部山キヨ子編「助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健」第 6 版 医学書院
参考書 (購入任意)	

科 目 名	地域母子保健演習		
科 目 名 (英 語)	Community health for mothers and children exercise	シラバスNo.	260020990
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、永井 紅音、野口 智子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択
		開 講 形 態	演習
		資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、地域母子保健演習を教授する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：___ DP2：___ DP3：___ DP4：◎ DP5：___ DP6：○		
学 修 到 達 目 標	地域に居住する母子の健康状態を高めるために展開する活動を通して対象理解を深め、地域の文化、生活共同体の中で生きる対象がイメージできる。居住環境を共有する住民の母子保健に関する認識と行動を知り、地域の保健や国の保健行政に及ぼす影響を知り、指導技術を学修し、身につけることができる。		
受 講 の 留 意 点	地域・国際母子保健と共通するものがあります。併行して学修しましょう。 ロールプレイに使用する資料作成と積極的参加が必要です。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域母子保健の概念を知り、その活動を知ることができる。 2.地域母子保健の活動の基礎理論がわかる。 3.地域母子保健の状態を疫学の視点から説明できる。 4.地域母子保健の実際を知り、ネットワークづくりの大切さがわかる。 5.地域母子保健活動が行われている場と役割の違いに着目し、各部門（開業助産師、学校、産業、市町村）の特徴が理解できる。 6.国際的視野に立ち国際協力の活動について知り、今後のあり方を考えることができる。 		
	アクティブ・ラーニングの内容		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 1.地域母子保健の概念 2 2.地域母子保健活動の軌跡 3 3.地域母子保健活動の基礎理論 1) 地域母子保健活動と母子保健 4 2) 地域母子保健と疫学 統計資料から健康課題を抽出する 5 プレゼンテーション（報告会） 6 地域の健康課題のまとめ 7 4.地域母子保健の実際 1) 地域の子育てネットワーク作り 8 2) 開業助産師による母子保健活動 ・産後ケア事業などの取り組み 9 ・地域における母子保健や健康教育 ・性教育活動 10 3) 学校保健における母子保健活動 ・学校の目的と教育職の役割 11 ・発達障害と教育支援 12 ・児童虐待の早期発見と取り組み 	<ol style="list-style-type: none"> 16 プレゼンテーション（報告会） 17 学校保健の健康課題のまとめ 18 4) 産業保健における母子保健活動 ・母子の労働環境 19 資料から健康課題を抽出する 20 プレゼンテーション（報告会） 21 産業保健の健康課題のまとめ 22 5) 市町村における母子保健活動 ・メンタルヘルス対策、ストレスチェックと保健指導 23 地域のママさん教室の企画 24 地域のママさん教室の開催と振り返り 25 6) 病院における母子保健活動 妊婦健診に関するロールプレイの演習と振り返り（1） 26 妊婦健診の問診に関するロールプレイの演習 と振り返り（2） 27 妊婦健診の検査に関するロールプレイの演習 と振り返り（3） 母親教室の演習と振り返り（4） 	

	13 ・児童生徒の健康管理（健康相談） 14 ・児童生徒の健康管理（健康診断） 15 資料から健康課題を抽出する	28 7) 育児期；産後 2 週間健診に関するロールプレイの演習と振り返り（1） 29 産後、電話訪問に関するロールプレイの演習と振り返り（2） 30 育児期；産後 1 か月健診に関するロールプレイの演習と振り返り（3）
授業時間外学修 （予習・復習）の内容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 30 時間、授業時間外学修時間 15 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 各章の読み込みを行う。 授業の振り返りとポイントのまとめ。	
成績評価方法	課題レポート（60%）、GW における参加度（20%）、講義課題の提出（20%）により評価する。	
教科書 （購入必須）	助産学大系 地域母子保健 日本看護協会出版会	
参考書 （購入任意）		

科 目 名	助産管理学		
科 目 名 (英 語)	Midwifery Management	シラバスNo.	260021000
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、渡邊 純江、北田 恵美		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択
		開 講 形 態	講義
		資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産管理を教授する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：___ DP3：○ DP4：◎ DP5：___ DP6：○		
学 修 到 達 目 標	<p>助産業務管理に必要な知識、法的範囲と責任について理解し、助産管理の基礎を学修する。 助産施設のマネジメントとしての管理、運営、役割などを学ぶと共に、周産期医療を取り巻く助産管理の実際を、さまざまな助産活動の場を通して理解する。 また病院・地域との連携とシステム、医療事故等について学び、リスクマネジメントの視点からも理解を深める。 加えて、助産サービスの評価、助産管理に必要な社会保障制度および助産所の管理運営の基本を学修する。 諸外国の助産師についても学ぶ。</p>		
受 講 の 留 意 点	助産管理の基本を学び、さらに、助産管理の実際（含医療事故防止・対応）を病院・助産院等の助産活動の場を通して理解していく。実習の場では、この視点でも見てくること。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>助産管理の基本概念、助産業務に関連する法規を理解し、助産管理を実践できる基礎的能力を養う。 周産期管理システムの運用と地域連携、助産所・診療所及び産科病棟の管理運営について学習する。 周産期の医療事故と予防対策、災害時の助産管理のあり方を学び、助産師の危機管理について理解する。 助産管理の視点から助産師の専門性を考える。</p>		
	アクティブ・ラーニングの内容		
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産管理の基本 助産管理の概念（助産業務・助産管理の定義・特性） 2 助産管理と関係法規（医療法、保健師助産師看護師法、医師法、母子保健法、母体保護法） 3 児童福祉法、地域保健法、戸籍法、刑法、民法、労働法、助産師の法的責任と業務就業規則、助産師の法的責任と義務 4 周産期管理システム/病院における助産管理 5 新生児集中治療室、母体搬送システム、オープンシステム 6 周産期医療と助産管理（MFICU/NICU） 7 医療事故とリスクマネジメント 8 病院における助産業務管理の過程と方法 9 産科等の管理（院内助産含む） 10 外来の助産管理（助産師外来） 11 感染管理 12 助産所における助産業務管理 管理と実際・助産所の形態 13 法的な業務範囲と責務 14 職業的・社会的責務（ガイドラインに基づく運営管理、業務内容、リスクマネジメント、地域連携、地域母子保健活動 等） 15 災害時における助産活動、避難所における助産師の役割（災害時演習） 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 15 時間、授業時間外学修時間 30 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 テキストの各章の読み込みを行う。 授業後、振り返りとポイントのまとめ。</p>		

成績評価方法	プレゼンテーション（10%）、グループワークの内容（10%）、課題レポート（80%）により評価する。
教科書 （購入必須）	我部山キヨ子編：助産学講座 10 助産管理 第 6 版 医学書院
参考書 （購入任意）	

科 目 名	助産学実習 I (妊娠期)		
科 目 名 (英 語)	Clinical Practice in Midwifery I (Pregnancy period)	シラバスNo.	260021010
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、永井 紅音、青木 万美、笹尾 あゆみ		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択
		資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：◎ DP4：○ DP5：○ DP6：__		
学 修 到 達 目 標	<p>周産期ケアから女性の健康支援まで幅広くリプロダクティブヘルス/ライツに関わる助産師としての役割を明確にする。妊娠期の対象理解を進め、妊婦健康診査におけるケアを通して正常経過と逸脱、正常経過へと向けたケアや保健指導ができ、妊婦とその家族などへの支援を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な妊娠経過をたどる母児と家族に対する基本的な助産実践について理解できる。 2. 女性の健康に関する援助の実際と助産師の役割について考察できる。 3. 助産師像を明確に描くことができる。 		
受 講 の 留 意 点	<p>助産学実習関連の全ての資料を活用して準備する。</p> <p>看護基礎教育における母性看護学での妊娠期の看護展開を復習しておくこと。</p> <p>この実習で、妊娠 6 か月以降の受け持ち事例の中から継続事例 1 例を確保し、展開する。</p>		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>妊婦の健康診査と保健指導を実践できる能力、妊婦の健康診査結果、異常への逸脱徴候について判断できる能力など、妊婦とその家族に対する助産診断及び援助技術を習得する。</p> <p>妊婦とその家族のセルフケア能力を高める助産実践能力を修得する。集団指導の健康教育を含む。</p> <p>助産師外来においては、正常妊婦の経過を診断し、well-being のための相談・教育を行える診断技術を修得する。</p>		
	アクティブ・ラーニングの内容		
授 業 の 計 画	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断ができる。 2. 妊婦健康診査において、妊娠経過の正常からの逸脱を予測し、異常の早期発見、マイナートラブルに関するケアが提供できる。 3. 提供したケアを評価し、自己の課題を明らかにし、次のケアに活かすことができる。 4. 事例の受け持ちを通して、アセスメントし、妊娠期の個別的な援助を提供できる。(妊婦を受け持ち、継続事例 1 例を含む)。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦健康診査の経過(問診、触診、視診など)、血液検査、尿検査、血圧測定、浮腫の観察、モニタリング、エコー診断、一連の流れを経験する。 2. 妊婦の受け持ちを通して、保健指導の実際を学ぶ(マイナートラブル、合併症に関して)、入院の準備、両親学級などの準備教育に関わり、妊娠期に必要とされる妊婦への教育内容を経験する。 <p>* 妊婦健康診査における観察及びケア、状況に応じて、帰院までの妊婦のケアを行う。</p> <p>実習の展開方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 承諾が得られた妊婦を受け持ち、妊婦健診の一連の流れを経験する。 ケアの振り返り、アセスメントを行う。 2. 実習内容については臨地実習指導者と相談の上決定し、実習計画の発表、実習内容調整・報告をしながら、自主的にケアに入る。 3. 受け持ち対象者が異常に移行した場合は、臨地実習指導者の指示に従い、直接的ケアは中断し見学とする。受け持ち対象者に行われている援助について見学を通して学ぶ。終了後、臨地実習指導者、そして教員と振り返りを行い、その診断や行われていた援助について整理する。 4. 受け持ち事例の評価を 1 例ごとに、到達目標に照らし合わせた振り返りを教員と共に、自己課題あるいは目標を明確にする。 		

<p>授業時間外学修 (予習・復習)の内容</p>	<p>総学修時間 90 時間 (2 単位×45 時間) うち授業時間 90 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 記録のまとめ。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>実習レポート (20%)、実習内容 (70%)、実習態度 (10%) により評価する。</p>
<p>教科書 (購入必須)</p>	<p>実習要項、資料配布等にて提示 日本助産診断・実践研究会編：実践マタニティ診断 医学書院 日本助産診断・実践研究会編：マタニティ診断ガイドブック 医学書院</p>
<p>参考書 (購入任意)</p>	

科 目 名	助産学実習Ⅱ(分娩・産褥・新生児期)				
科 目 名 (英 語)	Clinical Practice in Midwifery Ⅱ (Practice of clinical care delivery)	シラバスNo.	260021020		
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、永井 紅音、青木 万美、笹尾 あゆみ				
学 年 配 当	4年	単 位 数	6単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目				
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：◎ DP4：○ DP5：○ DP6：__				
学 修 到 達 目 標	妊産褥婦・新生児について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断を行い、立案した計画に沿って、対象者の分娩介助およびケアを実践する。さらに提供した助産を客観的に評価し、自己の課題を明らかにすることで、次の助産に活かしていく。 事例の受け持ちを通して、分娩期から産褥・新生児期まで継続した、個別的な援助を提供する。				
受 講 の 留 意 点	学習ガイダンスおよび助産学実習関連の全ての資料を参考にして準備する。 学部内または看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。				
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	正常分娩の介助技術の修得、産婦やその家族の主体性を尊重した助産ケアの提供、正常・異常を診断するための実践能力を養う。 助産ケアの実際を通して、妊産褥婦のセルフケア能力を高め、新生児の母体外生活の適応をはかる助産実践能力を修得する。主に病院や診療所において、正常な経過をたどる産婦の入院から退院までを受け持ち、助産計画に沿って分娩介助を10例実施する。				
授 業 の 計 画	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.妊産褥婦・新生児について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断ができる。 2.助産診断に基づいて計画を立案し、対象者の分娩介助およびケアが提供できる。 3.提供した助産を客観的に評価し、自己の課題を明らかにすることで、次の助産に活かすことができる。 4.事例の受け持ちを通して、分娩期から産褥・新生児期まで継続した、個別的な援助を提供できる。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.産婦を受け持ち、助産過程の展開を用いて正常分娩の介助を10例程度実践する（長期継続事例含む）。 <p>実習展開方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.妊産褥婦を分娩第1期から受け持ち、入院時の援助・分娩各期の観察及びケア(分娩介助含む)・褥室への移送・分娩後2時間後の新生児の健康診査、状況に応じて、退院時までの母児のケアを行う。 2.受け持ち介助実習中に受け持ち産婦がいない時は、間接介助の待ち時間等を利用して、今まで受け持った産婦へのケア(分娩の振り返り、産褥・新生児へのケア等)に入る。 実習内容については臨地実習指導者と相談の上決定し、実習計画の発表、実習内容調整・報告をしながら、自主的にケアに入る。 3.受け持ち対象者が異常に移行した場合は、臨地実習指導者の指示に従い、直接的ケアは中断し見学とする。受け持ち対象者に行われている援助について見学を通して学ぶ。 終了後、臨地実習指導者、そして教員と振り返りを行い、その診断や行われていた援助について整理する。 4.受け持ち事例の評価を1例ごとに、到達目標に照らし合わせた振り返りを教員と共に、自己課題あるいは目標を明確にする。 				

<p>授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容</p>	<p>総学修時間 270 時間 (6 単位×45 時間) うち授業時間 270 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 記録の作成。 レポート作成。 事例の追加学習。</p>
<p>成 績 評 価 方 法</p>	<p>実習レポート (20%)、実習内容 (80%) により評価する。</p>
<p>教 科 書 (購 入 必 須)</p>	<p>実習要項、資料配布等にて提示。 日本助産診断・実践研究会編：実践マタニティ診断 医学書院 日本助産診断・実践研究会編：マタニティ診断ガイドブック 医学書院</p>
<p>参 考 書 (購 入 任 意)</p>	

科 目 名	助産学実習Ⅲ(継続事例)		
科 目 名 (英 語)	Clinical Practice in Midwifery Ⅲ	シラバスNo.	260021030
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、永井 紅音、青木 万美、笹尾 あゆみ		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択
		資 格 要 件	助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：◎ DP4：○ DP5：○ DP6：__		
学 修 到 達 目 標	妊娠中期から妊婦を受け持ち、妊娠期から分娩期および産後1か月までの、継続した助産ケアを行う。 具体的には以下の通り。 ①妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 ②妊娠経過をふまえて個別的な助産計画を立案し実施する。 ③退院後の母児への援助や家庭訪問の必要性についてもアセスメントし、必要なケアを実施する。 ④新生児の出生直後から生後1か月の家庭訪問までの経過について、助産診断と必要なケアを実施する。		
受 講 の 留 意 点	学習ガイダンスおよび助産学実習関連の全ての資料を参考にして準備する。 学部内又は看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	妊娠中期から産後1か月までの長期にわたって1事例を受け持ち、継続事例の観察と援助を行い、継続した助産ケアの実際を通して、対象とその家族へのセルフケア能力を高める助産実践能力を修得する。		
	アクティブ・ラーニングの内容		
授 業 の 計 画	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 妊娠経過をふまえて個別的な助産計画を立案し、実施できる。 退院後の母児への援助が考えられる。 家庭訪問の必要性が考えられる。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 妊娠中期から妊婦を受け持ち、分娩介助から産後1か月までの継続したケアを実施する。 <p>実習の展開方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 妊娠期の助産診断を各健診毎に実施し、必要な助産計画の立案、実施を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 受け持ち妊婦へのケアは助産計画立案のもと行う。 助産計画や保健指導は、事前に教員および臨床指導者の確認を得て実施する。 妊娠期のサマリーは、分娩に至った段階で実施する。 受け持ち対象者への援助を最優先して行う。受け持ち対象者が異常に移行した場合、臨地実習指導者の指示に従い、可能な範囲で援助を実施する。 		
授 業 時 間 外 学 修 (予 習 ・ 復 習) の 内 容	総学修時間 45 時間 (1 単位×45 時間) うち授業時間 45 時間、授業時間外学修時間 0 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 記録。 継続事例のまとめ。		
成 績 評 価 方 法	実習レポート (20%)、実習内容 (80%) により評価する。		
教 科 書 (購 入 必 須)	実習要項、資料配布等にて提示。		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	助産学実習Ⅳ（周産期ハイリスクケア）			
科 目 名（英 語）	Clinical Practice in Midwifery Ⅳ（High-risk Pregnancy）	シラバスNo.	260021040	
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、永井 紅音、青木 万美、笹尾 あゆみ			
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態 演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択	資 格 要 件 助産師：必修
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目			
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：◎ DP3：○ DP4：○ DP5：○ DP6：__			
学 修 到 達 目 標	ハイリスク状態にある母児の特徴や援助、周産期の新生児医療システムの現状や課題についての理解を深めるため、NICUにおけるハイリスク母児のケアの見学実習を通して学ぶ。 新生児・乳児および母親への健康診査や保健指導等、地域社会で生活する母子に対する継続支援の実践を学ぶ。			
受 講 の 留 意 点	学習ガイダンスおよび助産学関連の全ての資料を参考にして準備する。 学部内または看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。			
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	異常分娩に対する応急処置の見学・実施を行い、助産師に必要なアセスメント能力と業務を学ぶ。 ハイリスク妊娠（妊婦・胎児，および合併症妊娠）妊婦と、ハイリスク妊産褥婦および児のケアの実践を学修しながら、その家族も含めた助産ケアの実践を通して学ぶ。 ハイリスク妊婦1例を受け持ち、妊娠中から産褥期、可能であれば家庭訪問指導までを通して継続的な援助について理解する。 NICUにおけるハイリスク新生児とその家族のケアの実践について学ぶ。 ハイリスク妊娠のケアとハイリスク新生児のケアの連携について考える。			
	アクティブ・ラーニングの内容			
授 業 の 計 画	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハイリスク状態にある母児の特徴を理解できる。 2. ハイリスク状態にある母児への援助の実践を理解できる。 3. 周産期医療システムの現状を理解できる。 4. 周産期医療の今後の課題について考察できる。 5. 母子保健活動における助産師の役割と実際がわかる。 6. 地域社会で生活する母子のニーズと支援について理解する。 7. 他職種の連携の実践を理解する。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市内1施設におけるNICUを見学する。 2. 施設の母子保健活動（退院後健診及び乳幼児健診、フォローアップ検診）を見学する。 3. 周産期の新生児医療システムとハイリスク母児のケアについて学ぶ。 4. 臨地にて実習カンファレンスを行う。 5. 実習終了後、目的に沿って考察したことをレポートにまとめる。 			
授 業 時 間 外 学 修 （ 予 習 ・ 復 習 ） の 内 容	総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 45 時間、授業時間外学修時間 0 時間 【授業時間外学修時間の主な内容】 記録のまとめなど。			
成 績 評 価 方 法	実習レポート（20%）、実習内容（80%）により評価する。			
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	実習要項、資料配布等にて提示。 参考図書；仁志田博司：新生児学入門 第5版 医学書院			
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）				

科 目 名	助産学実習Ⅴ（地域母子保健）		
科 目 名（英 語）	Clinical Practice in Midwifery Ⅴ（Community health for mothers and children）	シラバスNo.	260021050
担 当 教 員 名	加藤 千恵子、永井 紅音、青木 万美、笹尾 あゆみ		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選択
開 講 形 態	実習		
資 格 要 件	助産師：必修		
実 務 経 験 及 び そ れ に 関 わ る 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目		
各学科の対応する ディプロマ・ポリシー	DP1：○ DP2：○ DP3：◎ DP4：○ DP5：○ DP6：__		
学 修 到 達 目 標	<p>助産所における自然分娩を支える助産師の実践と、施設の特性をふまえた助産官営を学ぶ。さらに、地域母子保健活動について視野を広げ、地域における助産師の役割を発展的に考える能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.開業助産師の母子や家族に対する姿勢を理解できる（助産院） 2.実習を通じて自身が必要とする助産像を描くことができる（助産院） 3.開業助産師の助産実践の実際を見学し、助産所の役割を理解することができる（助産院） 助産所における管理・運営の実際が理解できる 4.開業助産師の役割を理解することができる（助産院） 妊娠から子育ての切れ目ない支援における、助産師の役割について考察できる 5.病院の外来受診をしている妊婦のケアのあり方について考察できる 対象のニーズや助産師が行う妊婦健康診査、自然分娩の意義を理解し、開業助産師の自立した実践について考察できる 6.病院の分娩見学などを通して望ましい助産ケアのあり方を考察できる 7.病院の褥室見学などを通して望ましい産後ケアのあり方を考察できる 8.臨地実習での学びや課題を発表し、学びを共有する 9.妊産婦に対する健康教育の基本が説明できる 10.対象への倫理的配慮を遵守し、助産学生として真摯に実習に取り組み、専門職としての態度を身につけることができる <p>まとめ；病院施設内と助産所における助産師の助産実践の違い（共通点・相違点）を分析することができる。 地域保健における組織・機能・役割について、助産師の活動から考察することができる。 地域での助産師の役割や活動について、また今後の課題について述べるすることができる。</p>		
受 講 の 留 意 点	<p>学習ガイダンスおよび助産学実習関連の全ての資料を参考にして準備する。 学部内または看護基礎教育における母性看護活動論Ⅰ・Ⅱの妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。</p>		
授 業 の 概 要 と アクティブ・ラーニングの 内 容	<p>この科目は、助産所実習、助産学実習（基礎）、臨地での学びを支える学内（サテライト）実習で構成している。 臨地実習は①助産院、②病院（分娩室、褥室）で見学、実施する。 助産所体験実習では、熟練した開業助産師による助産実践や助産の哲学に触れ、助産師としてのアイデンティティ獲得の第一歩を踏み出す。また、病院実習では施設助産師の指導の下、分娩室、褥室での対象の状態を見学し、基礎的な対象の生活背景をイメージしながら対象理解を深め、基礎的な助産実践を行う。 学内では、妊産婦の対象理解の基礎となる身体的、心理社会的知識、臨地実習に必要な援助技術を獲得する。</p> <p>アクティブ・ラーニングの内容</p>		
授 業 の 計 画	<p>助産学実習オリエンテーション； 月 日（ ） 2026年〇月〇日～〇月〇日 助産所見学、病院施設見学 つるべ助産院（4年次）、さくら助産院（4年次）、マタニティウィメンズホスピタル（4年次）</p>		
授 業 時 間 外 学 修 （予習・復習）の内容	<p>総学修時間 45 時間（1 単位×45 時間） うち授業時間 45 時間、授業時間外学修時間 0 時間</p> <p>【授業時間外学修時間の主な内容】 記録やレポートを作成する。</p>		

成績評価方法	実習レポート（20%）、実習内容・記録（80%）により評価する。
教科書 （購入必須）	実習要項参照。助産管理の資料参照のこと。
参考書 （購入任意）	